資料６－２

千葉医療圏及び両市立病院の現状と課題

目次構成

1．千葉医療圏等の現状と課題

(1) 医療情勢 …2

(2) 人口の動向 …8

(3) 医療供給の動向 …10

(4) 医療従事者数の動向 …14

(5) 患者数の将来推計 …17

(6) 受療動向 …22

(7) 救急医療 …41

(8) 周産期医療 …63

(9) 小児医療 …68

(10) 精神医療 …71

(11) 結核医療 …73

(12) 感染症医療 …78

(13) 在宅医療 …79

(14) 千葉医療圏のSWOT分析による整理 …82

2．市立病院の現状と課題

(1) 診療状況分析

① DPCデータ分析 …83

② 感染症病床の稼働状況 …98

(2) 財務分析

① 主要経営指標の推移 …99

② 他病院とのベンチマーク比較 …104

③ 市立病院の職員数の状況 …107

④ 各経営形態の概要 …108

(3) 千葉市病院事業のSWOT分析による整理 …109

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１）医療情勢　①新公立病院改革ガイドラインの概要

✓ 新公立病院改革ガイドラインでは、地域で各病院の連携のもと適切な医療提供体制を構築する中で、公立病院の役割として、救急や周産期などの不採算医療や高度・先進医療を継続的に担っていくこと、そのために経営効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直しなどの改革を進めていくことが掲げられている。

背景・課題　人口減少・少子高齢化による**医療需要の変化**

達成すべきゴール　各医療機関が**機能分担・連携**し、**地域ごとに適切な医療提供体制**を構築

公 立 病 院

役 割　へき地医療や周産期医療などの**不採算医療、高度・先進医療の提供**を**安定的経営**のもと継続的に担う

方 法　**経営効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し**

出典：総務省「新公立病院改革ガイドライン」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（1）医療情勢　②保健医療計画・地域医療構想における千葉医療圏のあり方

✓ 千葉医療圏では今後、入院医療・在宅医療の需要が増加し、高度急性期・回復期・慢性期の病床が不足すると推計されている。施策では医療・福祉機関の役割分担と連携を進め、地域のニーズに即した医療提供体制を構築すること、小児・周産期・精神を含む救急医療の確保を図ること等が挙げられている。

千葉医療圏の概略

- **構成市町村**：千葉市のみ
- **将来推計**　：総人口は減少、**75歳以上人口は増加。**入院患者数・在宅医療需要ともに**増加。**
- 圏域内(市内)に高度急性期をはじめ**特定機能病院**や複数の**基幹病院**があり**全県から患者が流入**

機能別病床数（地域医療構想）

2025年にかけて、

- **高度急性期・回復期・慢性期　：不足**
- **急性期　：過剰**

（床）	2017年度報告	2025年必要数	差引	
高度急性期	937	1,077	▲140	不足
急性期	4,451	3,028	1,423	過剰
回復期	994	2,520	▲1,526	不足
慢性期	1, 662	1,859	▲197	不足
総計	8,044	8,484	▲440	不足

施策の方向性

- **役割分担・連携の推進**
  …地域医療支援病院※による地域医療支援活動、医療・福祉機関の連携ｼｽﾃﾑ構築
- **地域医療体制の整備**…地域包括ｹｱｼｽﾃﾑの実現、地域のﾆｰｽﾞに即した診療機能、在宅医療の充実
- **救急医療等の確保**
- **医療従事者の確保・定着**

※・・・かかりつけ医を支援し地域医療確保を図る役割を担う病院。かかりつけ医からの紹介受入れ、医療機器の共同利用などを実施。両市立病院は地域医療支援病院に指定されている。

➢ 保健医療計画では、都道府県を**医療圏**に分け、それぞれの医療圏で地域の実情に応じ、医療機関相互の機能分担と連携に基づく包括的な医療保健を提供する体制を確保するよう定められています。一次、二次、三次の3段階の医療圏があり、**千葉市の属する二次医療圏**は、千葉市単独で構成する**千葉医療圏で**す。

一次医療圏・・・日常生活に密着した保健医療を提供する圏域（基本的に市町村単位）
二次医療圏・・・入院治療までの一般的な医療を提供する圏域（基本的に複数の市町村）
三次医療圏・・・高度先進医療、発生頻度が低い疾病や特に専門性の高い救急医療に対応する圏域（基本的に都道府県単位）

出典：千葉県「保健医療計画」「地域医療構想」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１）医療情勢　③５疾病5事業等における各病院の役割

✓ 両市立病院は、がん医療において県の診療連携協力病院に指定されているほか、二次救急医療に対応している。また青葉病院は精神医療、海浜病院は周産期・小児医療において、千葉医療圏で中核的な役割を担っている。

	青葉病院	海浜病院	その他主な機能を担う病院
がん医療	**千葉県がん診療連携協力病院**(胃・大腸) その他がんの診断治療、緩和ケア診療	**千葉県がん診療連携協力病院**(胃・大腸) その他がんの診断治療、緩和ケア診療・外来	**がん診療連携拠点病院**： 千葉県がんセンター、千葉大附属病院 等
脳卒中医療	検査・診断に対応	検査・診断に対応	急性期対応医療機関：市内13機関
急性心筋梗塞医療	急性期対応、リハビリテーション	急性期対応、リハビリテーション	急性期対応医療機関：他 市内18機関
糖尿病医療	専門的管理 教育入院、外来での療養指導	専門的管理 教育入院、外来での療養指導	専門的管理を行う医療機関： 他 市内176機関
精神疾患医療	**精神病床あり** (児童精神疾患・発達障害等 専門医療) (精神身体合併症への対応)	精神科標榜なし (てんかんに対応)	**精神科救急医療ｾﾝﾀｰ**： 千葉県精神科医療ｾﾝﾀｰ 等
救急医療	二次救急医療	二次救急医療、千葉市夜間応急診療	**全県対応型救急医療連携拠点病院**： 千葉県救急医療ｾﾝﾀｰ、千葉大附属病院 **救急基幹ｾﾝﾀｰ**：千葉ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ
災害医療	**災害拠点病院**(DMAT指定) 災害医療協力病院	**災害拠点病院**(DMAT指定) 災害医療協力病院	**災害拠点病院**：千葉医療ｾﾝﾀｰ、 千葉県救急医療ｾﾝﾀｰ、千葉大附属病院
周産期医療	分娩取扱い病院	**地域周産期母子医療センター** 母体搬送ネットワーク連携病院	**総合周産期母子医療ｾﾝﾀｰ**： 千葉大附属病院
小児医療	小児科標榜（外来・入院）	**地域小児科センター** **小児救急（ER型救急）** 千葉市夜間応急診療	**小児中核病院**： 千葉大附属病院・千葉県こども病院 **小児救命集中治療ネットワーク連携病院** ：千葉県救急医療ｾﾝﾀｰ
在宅医療	在宅療養後方支援病院	在宅療養後方支援病院	**在宅療養支援病院**：市内9病院

出典：千葉県「保健医療計画」「地域医療構想」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１）医療情勢　④医療法等の改定動向

✓ 直近の診療報酬改定では、重症度、医療・看護必要度による病床機能再編が求められている。
✓ 新専門医制度の開始に伴い、研修医の確保にあたり、基幹病院との連携強化等の対応が求められている。

◆直近の医療法改正等に伴い想定される課題

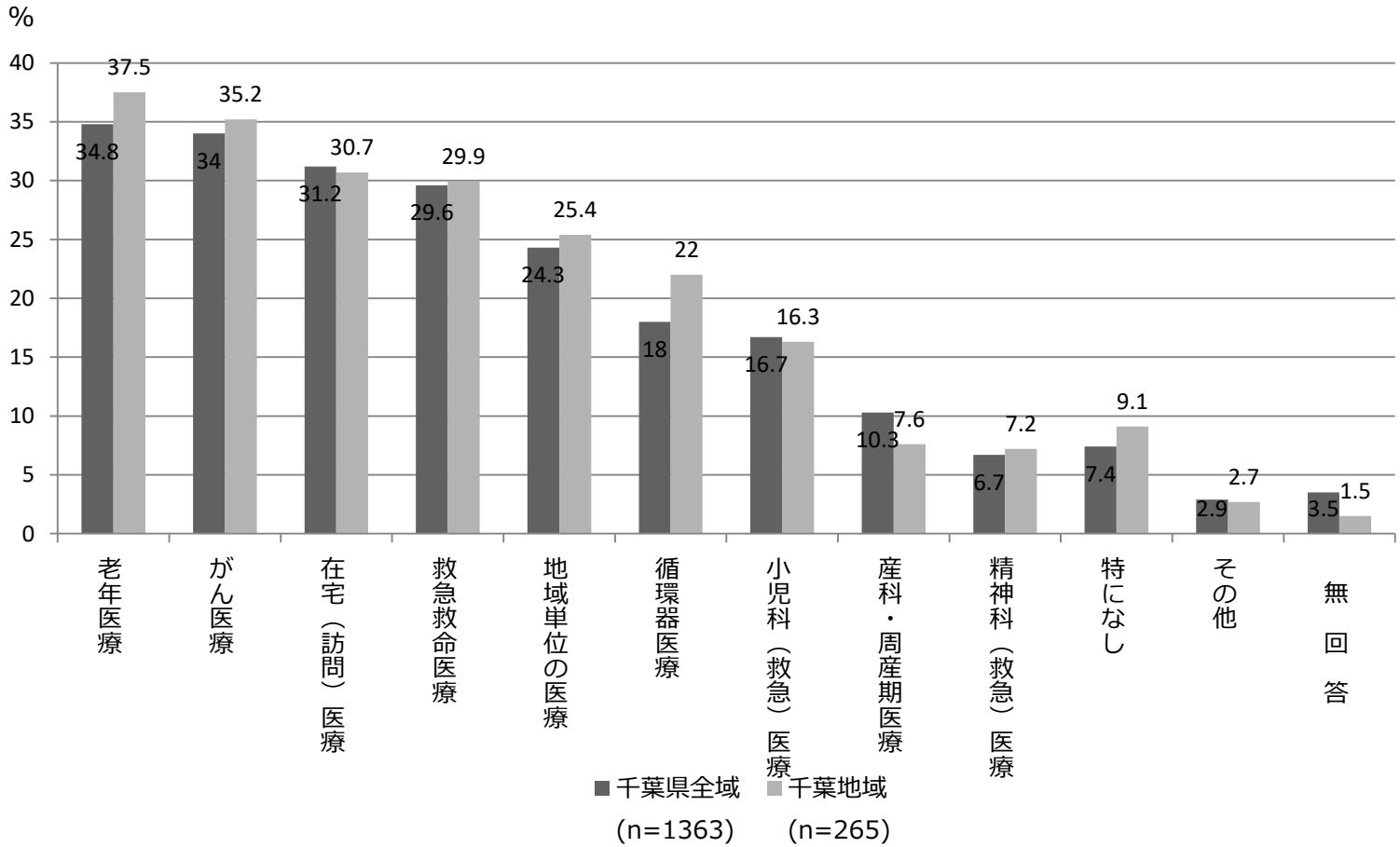
	項目	主な動向の概要	想定される課題
2018	診療報酬（医療・介護）同時改定	【中医協による主な議論のテーマ】 ・7対1の重症度の見直し ・入院基本料に関し、看護配置だけでなく医療の機能での評価 ・地域医療構想の診療報酬への反映 ・地域包括ケア病棟入院料は200床未満の病院についてサブアキュート機能を評価	・急性期入院基本料1（旧7対1入院基本料）の維持 ⇒重症度を含めた実態の精査 ・病床機能の見直し ⇒病床再編 ・地域における自院の役割
	入院時支援加算の新設	退院支援から入退院支援へ ・外来において入院前からの支援に対する評価の新設 ・退院支援加算から入退院支援加算へ名称を変更 ・地域連携診療計画加算の算定対象の拡大 ・支援の対象となる患者要件の追加 ・退院時協働指導料の見直し	・外来部門、入院部門、退院先としての在宅療養を担う医療機関との連携強化 ⇒多職種による共同指導や情報提供が評価対象 ・入退院支援及び地域連携の見直し
	第７次医療法改正 ⇒地域医療構想の反映	原則二次医療圏単位での地域医療構想策定会議の実施	・自院が地域に求められている病床機能の明確化
	新専門医制度の開始	2018年4月1日付けで、日本専門医機構が新専門医制度を基本 19 領域において開始。 【特徴】 ⇒医師の地域偏在をいま以上に助長しないことを目的に、東京、神奈川、愛知、大阪、福岡の 5 都府県では専攻医の採用数に上限を設け地域医療に配慮 ⇒大学病院以外でも基幹病院になることが可能だが、診療科によっては初期臨床研修病院であっても基幹病院とはなれず、施設基準のハードルは高い	・大学医局との積極的な連携強化 ・独自の専門医の養成 ⇒後期研修医を指導することが出来る幅広い臨床経験を有する医師及び症例の確保
2019	消費税率10%へ引上げ	2019年10月に消費税増税の予定 医療に関しては、軽減税率も検討	・大型医療機器の更新計画の見直し ⇒前倒しでの購入も検討 ・診材、医療機器等の増税負担への対策
	働き方改革関連法の成立	医師への時間外労働上限規制の適用は2024年4月から開始 ・適用猶予期間においても時間外労働時間の削減に向けた実効性ある取組を関係省庁および関係団体等の連携・協力を強化しつつ、推し進めることとの付帯決議あり	・医療機能体制を維持しながら、働き方改革に着手する必要

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（１）医療情勢　⑤市民意識

✓ 2016年度に千葉県で実施された「第53回世論調査」では、今後、県に力を入れて欲しい医療について、千葉地域(千葉市・市原市)の住民は、老年医療を最も高く挙げ、ついでがん医療、在宅医療、救急救命医療を挙げている。

◆第53回県政に関する世論調査

3.医療について　(3)今後、県に力を入れて欲しい医療



出典：第53回県政に関する世論調査(2016年度)

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１）医療情勢　⑥医療機関アンケート

✓ 現在、千葉市内の医療機関の協力により、市立病院の医療機能に係るアンケート調査を行っており、次回委員会の際に集計結果の報告を予定している。

◇医療機能に係るアンケート調査の概要

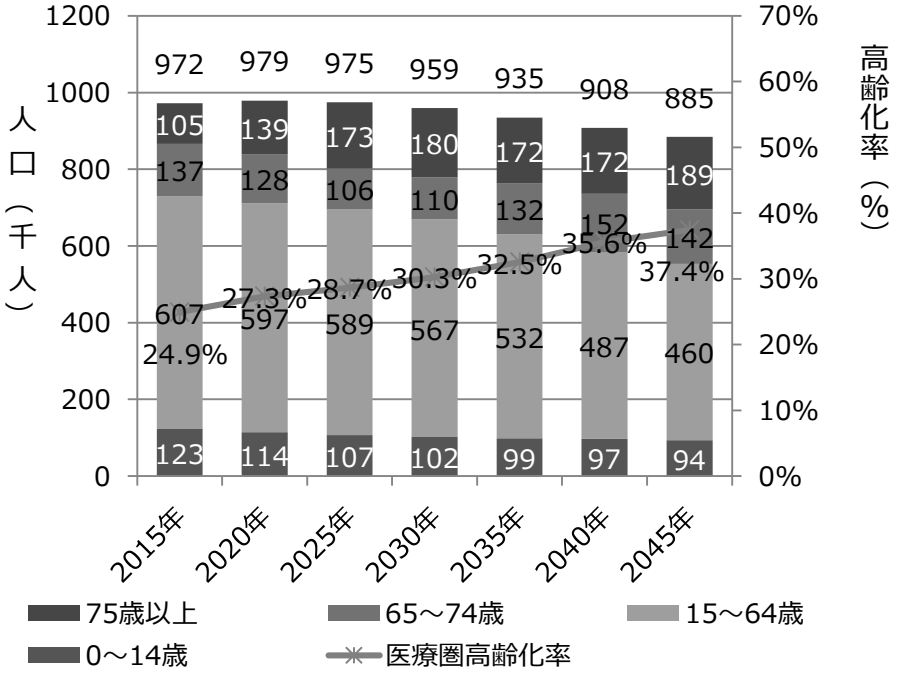
目的	市立病院が果たすべき役割や求められる機能、救急医療体制や医療機関との連携のあり方を調査	
対象医療機関	724施設（うち診療所680施設、病院44施設）	
調査期間	11月16日~12月17日	
主な設問	救急医療の状況について	救急搬送患者の受入状況
		千葉市の救急医療で不足している事項や課題
		対応策の一つとしてのER型救急システムの必要性
	在宅医療について	在宅医療の提供状況
		市立病院が後方支援を行う上で必要な機能
	救急、在宅医療以外の地域医療について	市立病院に特に充実を望む医療機能や診療体制

※選択回答の他に自由回答欄も設けている。

1．千葉医療圏等の現状と課題　（２）人口の動向　①千葉市全体の人口推計

✓ 千葉市全体の人口の推移は2020年をピークに減少に転ずる見込み。高齢化率は2015年は24.9%と全国平均の26.7%より低い水準であるが、一貫して増加する見込み。

◆千葉市推計人口

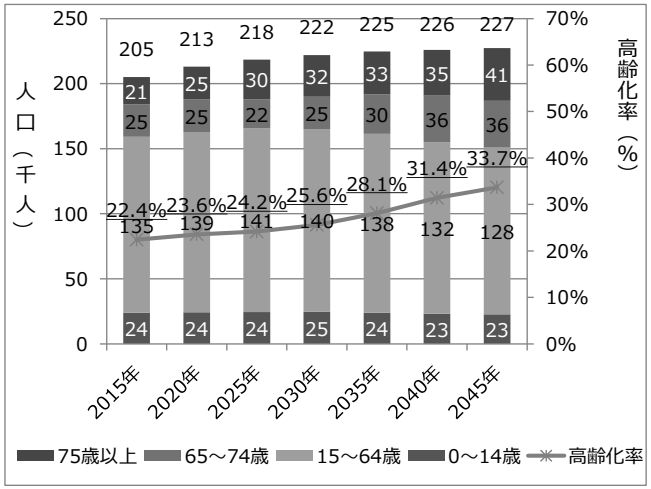


出典：「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」より作成

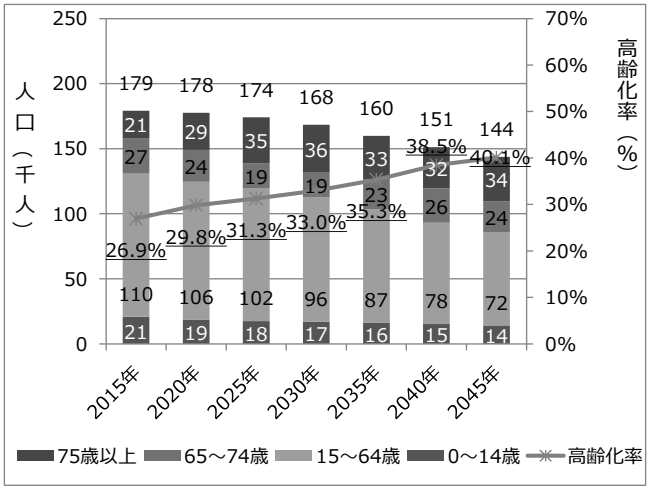
1. 千葉医療圏等の現状と課題　（２）人口の動向　②区別の人口推計

- ✓ 花見川区、若葉区、美浜区は2015年以降人口は減少する見込み。また、稲毛区は2020年、緑区は2030年をピークに人口は減少に転ずる見込み。一方中央区は2045年まで一貫して人口が増加する見込み。
- ✓ 高齢者人口は、各区とも一貫して増加する見込み。

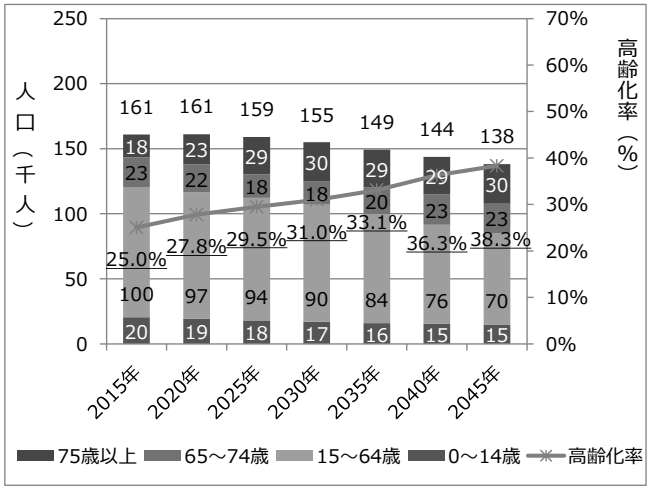
◆中央区推計人口



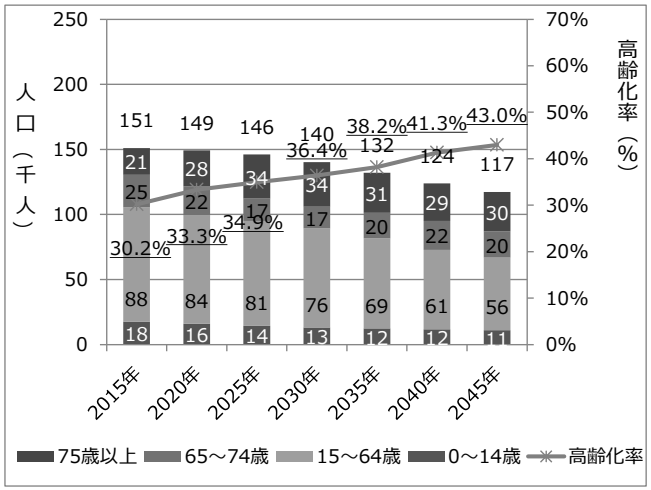
◆花見川区推計人口



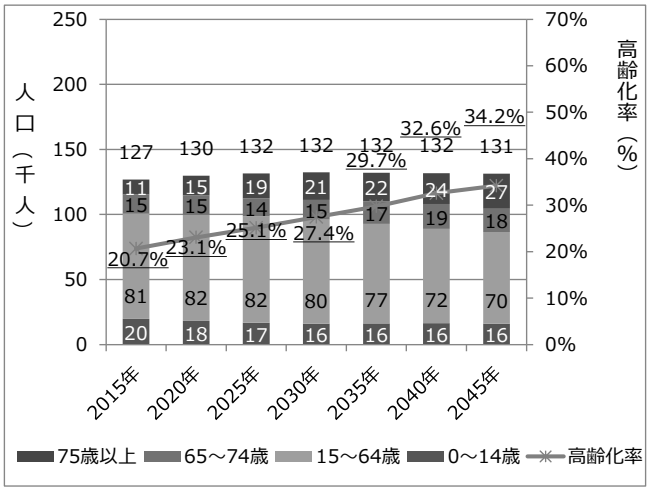
◆稲毛区推計人口



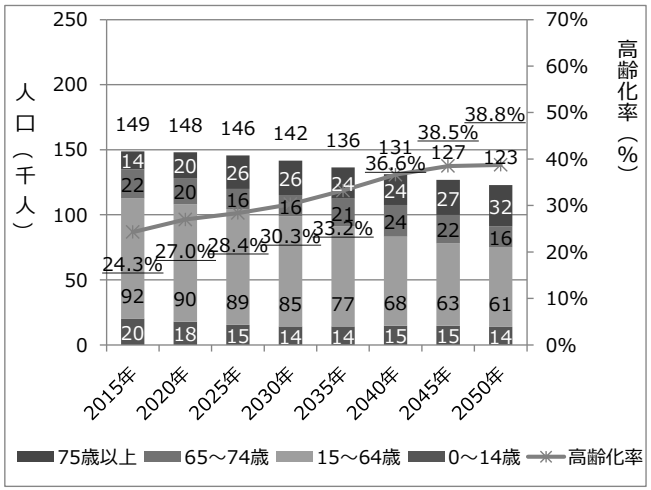
◆若葉区推計人口



◆緑区推計人口



◆美浜区推計人口

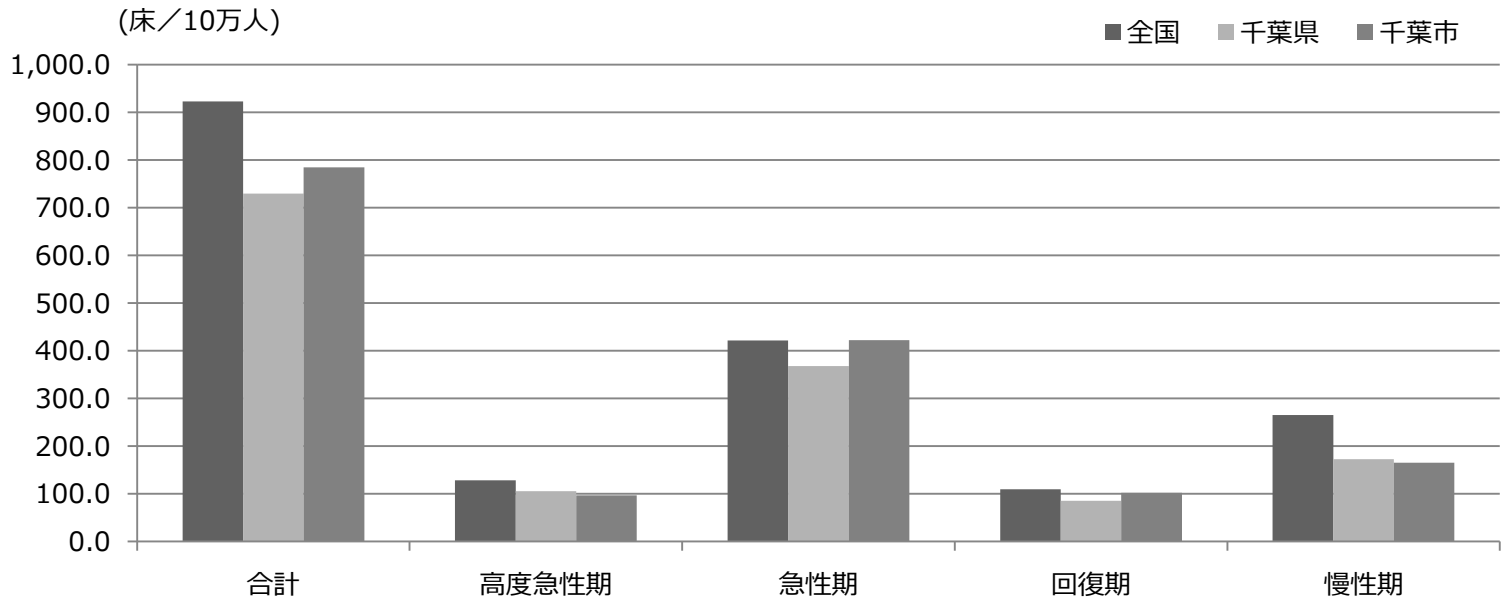


出典：「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（３）医療供給の動向　①病院の病床数

✓ 千葉市の2016年10月現在の人口10万人あたり病院病床数は785床であり、千葉県平均は上回るものの、全国平均を下回る。病床機能別では、高度急性期病床、慢性期病床が全国と比較して低い水準にあり、急性期病床、回復期病床が全国とほぼ同水準にある。

◆人口10万人対病院病床数(2016年10月現在)



	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
全国	923.1	128.0	421.1	109.3	264.7
千葉県	729.9	105.3	367.5	84.8	172.3
千葉市	784.9	96.2	422.1	101.9	164.7

出典：【病床数】2017年度病床機能報告結果（厚労省）、千葉県「病床機能報告」（2017年）
【人口】2016年人口推計（総務省）、千葉県毎月常住人口調査（千葉県 2016.10.1）

1．千葉医療圏等の現状と課題　（３）医療供給の動向　②病床機能別病床稼働率の状況

- ✓ 上段の表は2017年病床機能報告の千葉医療圏内の病床機能別の病棟の稼働状況をまとめたもので、高度急性期＝75%、急性期＝78%、回復期＝90%、慢性期＝92%という地域医療構想で想定する稼働率を高度急性期以外は下回っている状況にある。
- ✓ 下段の表は2017年病床機能報告の千葉医療圏内の回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟の稼働状況をまとめたもので、回復期リハビリテーション病棟は多くの病院で90%近い稼働率だが、地域包括ケア病棟は稼働率の平均が75.3%と低い傾向にある。

千葉医療圏内　病床機能別想定病床稼働率と想定在院日数

医療機関名	総病床数	高度急性期			急性期			回復期			慢性期		
		対象病床数	想定病床稼働率	想定平均在院日数	対象病床数	想定病床稼働率	想定平均在院日数	対象病床数	想定病床稼働率	想定平均在院日数	対象病床数	想定病床稼働率	想定平均在院日数
千葉市立青葉病院	314	15	72.3%	2.2	299	83.1%	12.7	－	－	－	－	－	－
千葉市立海浜病院	287	57	40.2%	7.7	230	57.6%	7.5	－	－	－	－	－	－
その他	6,953	－	－	－	3,373	－	－	980	－	－	1,591	－	－
合計	7,554	931	79.3%	10.8	3,902	75.0%	12.3	980	83.1%	40.1	1,591	84.8%	143.8

註）2016年7月から2017年6月までに入院、退院した患者数
※対象病床数は稼働病床

千葉医療圏内　回復期リハ病棟及び地域包括ケア病棟想定病床稼働率と想定在院日数

医療機関名	総病床数	回復期リハビリテーション病棟			地域包括ケア病棟		
		対象病床数	想定病床稼働率	想定平均在院日数	対象病床数	想定病床稼働率	想定平均在院日数
合計	2,330	602	85.6%	60.2	189	75.3%	23.4

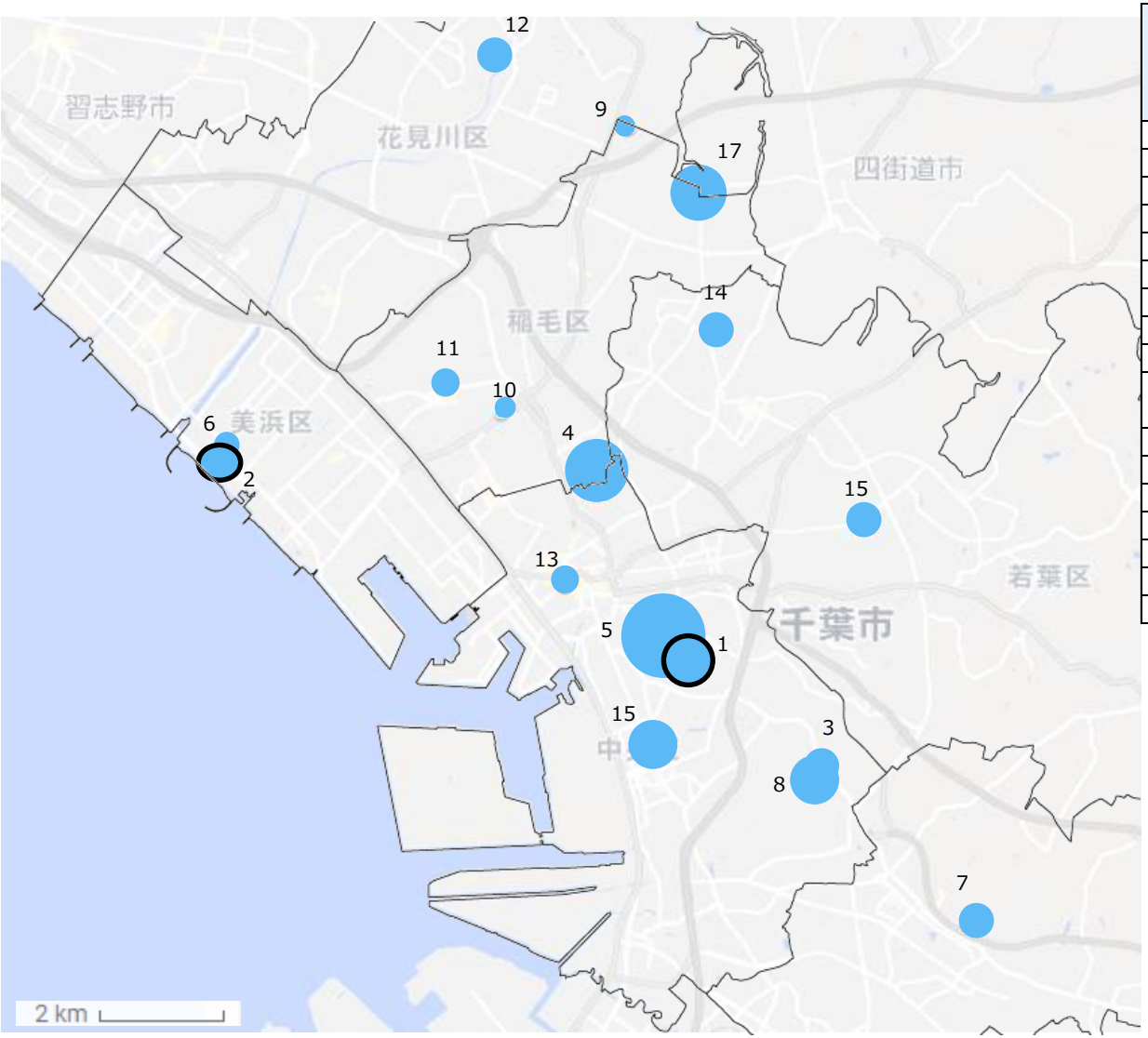
註）2016年7月から2017年6月までに入院、退院した患者数
※総病床数・対象病床数は稼働病床

注：2016年7月から2017年6月までに入院、退院した患者数を基に想定病床稼働率を算出
　一般病棟内に地域包括ケア病床を設置している医療機関については地域包括ケア病床部分のみの稼働率の算出ができないため除外している。

出典：2017年「病床機能報告」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（３）医療供給の動向　③急性期病院の配置状況

✓ 千葉大学医学部附属病院をはじめ、規模の大きい急性期の基幹施設が中央区に集中している状況にある。



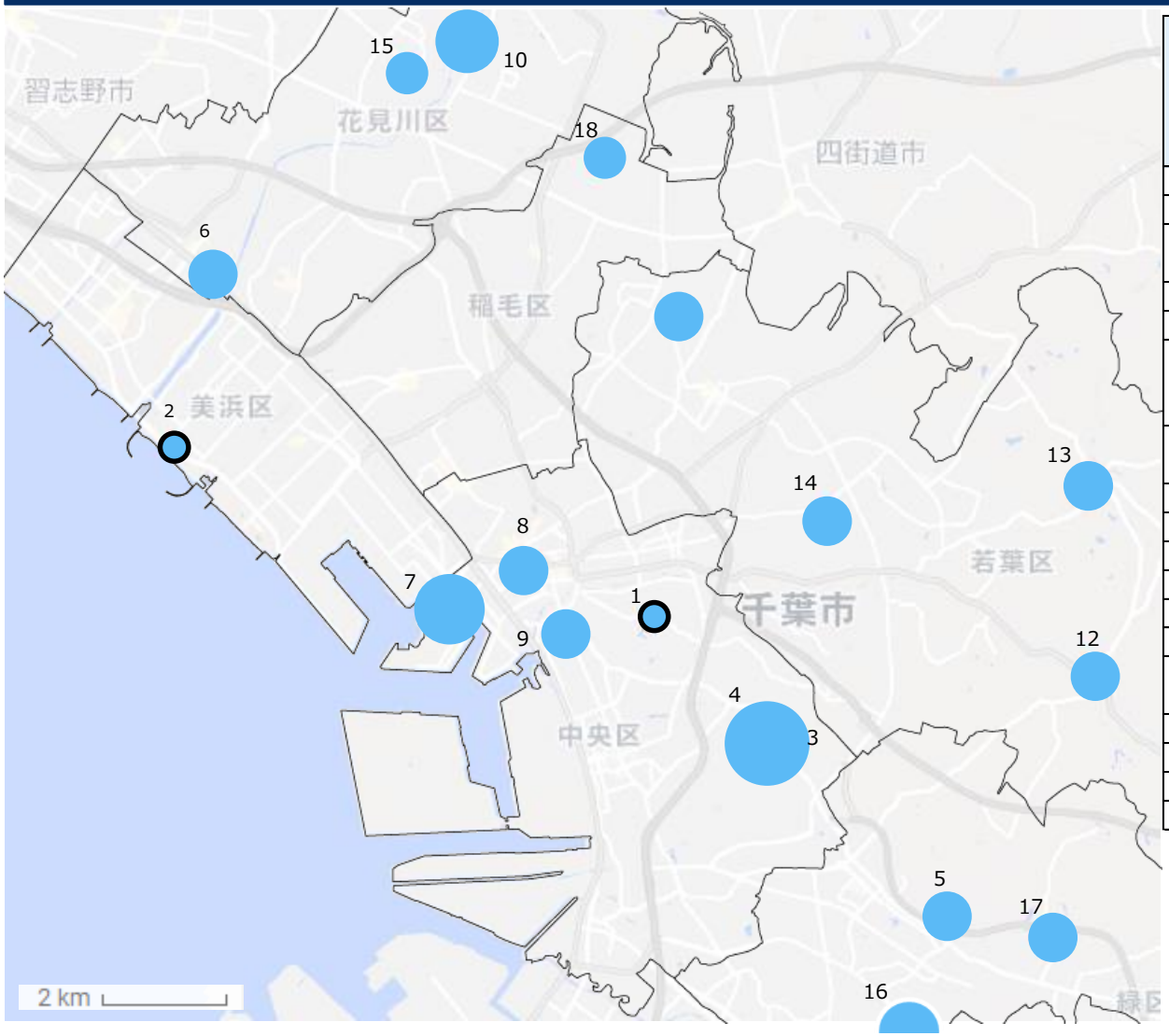
No	施設名称	高度急性期＋急性期	過去15年間の建替え・部分増改築の有無
1	千葉市立青葉病院	314床	有
2	千葉市立海浜病院	287床	有
3	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院	160床	進行・計画中
4	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	410床	有
5	千葉大学医学部附属病院	800床	有
6	千葉県救急医療センター	100床	進行・計画中
7	千葉県こども病院	224床	有
8	千葉県がんセンター	341床	進行・計画中
9	社会医療法人社団健脳会 千葉脳神経外科病院	97床	無
10	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院	100床	無
11	稲毛病院	180床	有
12	医療法人社団有相会 最成病院	180床	無
13	医療法人社団普照会 井上記念病院	125床	無
14	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	205床	有
15	医療法人社団誠馨会 千葉中央メディカルセンター	212床	無
16	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	315床	有
17	医療法人社団翠明会 山王病院	308床	有

高度急性期+急性期の病床数が100床以上の医療機関のみ記載
バブルサイズ=高度急性期+急性期の病床数

出典：2016年「病床機能報告」より作成、地図データ©2018google,ZENRIN

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（３）医療供給の動向　④回復期病床を有する病院の配置状況

✓ 回復期病院は、中央区、花見川区、緑区を中心に整備されている。なお、美浜区では当該医療機関が整備されていない状況となっている。



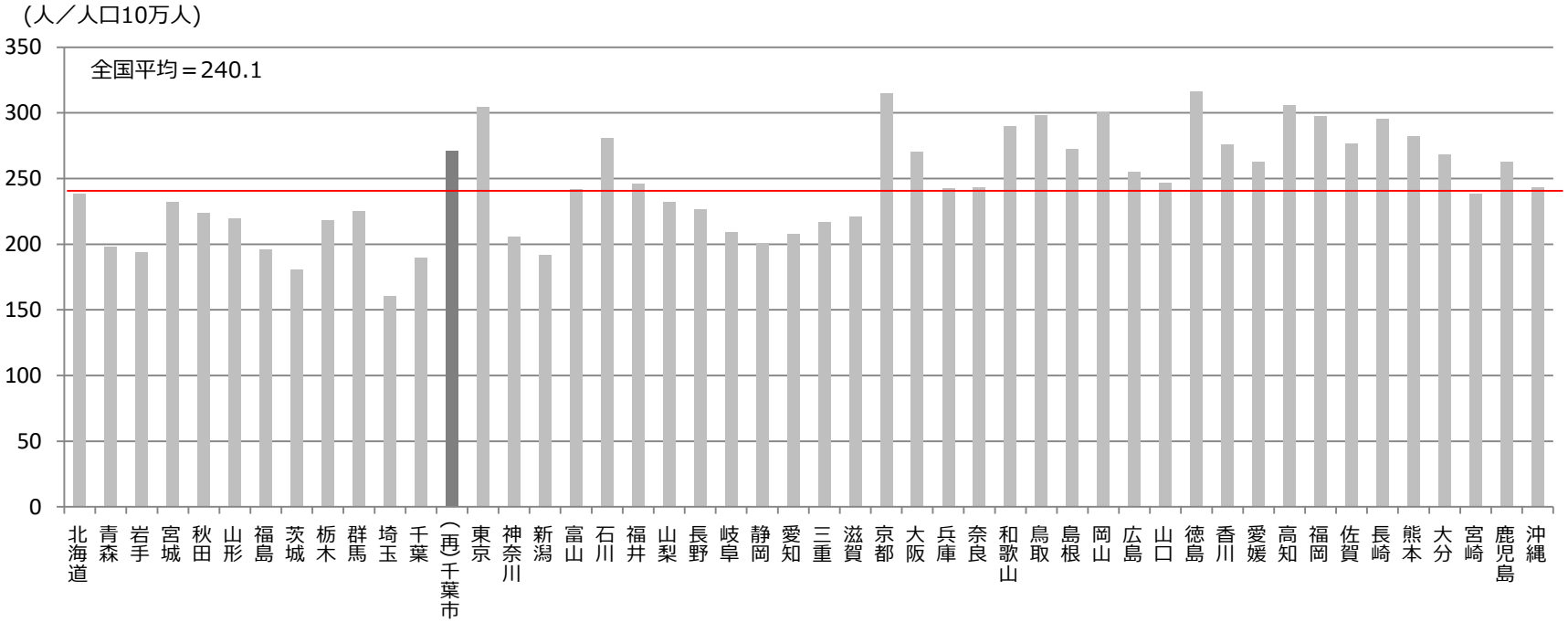
No	施設名称	回復期(回復期リハビリテーション)	地域包括ケア病床	過去4年に病床転換(回復期リハ、地域包括ケア)を行った施設
1	千葉市立青葉病院	-	-	無
2	千葉市立海浜病院	-	-	無
3	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院	-	45床	有
4	独立行政法人国立病院機構千葉東病院	147床	-	無
5	千葉県千葉リハビリテーションセンター	50床	-	無
6	社会医療法人社団千葉県勤労者医療協会 千葉健生病院	45床	-	無
7	一般社団法人巨樹の会 千葉みなとリハビリテーション病院	120床	-	2014.4 開設
8	井上記念病院	39床	-	有
9	医療法人柏葉会 柏戸病院	43床	-	無
10	医療法人社団有相会 最成病院	39床	56床	無
11	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	50床	-	無
12	医療法人社団千葉いずみ会 泉中央病院	51床	-	無
13	医療法人社団誠馨会 総泉病院	56床	-	無
14	医療法人社団誠馨会 千葉中央メディカルセンター	60床	-	無
15	医療法人社団晴山会 平山病院	33床	-	無
16	医療法人社団淳英会 おゆみの中央病院	60床	60床	有
17	医療法人社団紫雲会 千葉南病院	50床	-	無
18	医療法人社団ふけ会 富家千葉病院	26床	-	無

回復期、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟を持つ医療機関のみ記載
バブルサイズ=回復期+地域包括ケア病床
出典：2016年「病床機能報告」より作成、地図データ©2018Microsoft,ZENRIN

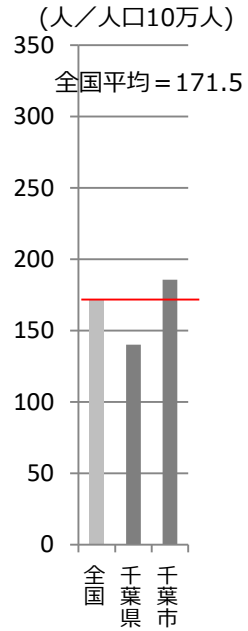
1．千葉医療圏等の現状と課題　（４）医療従事者数の動向　①医師の状況

- ✓ 千葉市の人口10万人対医療施設従事医師数は全国平均に対し高い水準にある。一方、千葉県全体でみると、医療施設従事医師数が慢性的に不足している状況にある。
- ✓ 人口10万人対病院従事医師数においても同様の傾向にある。

◆人口10万人対医療施設従事医師数



◆人口10万人対病院従事医師数

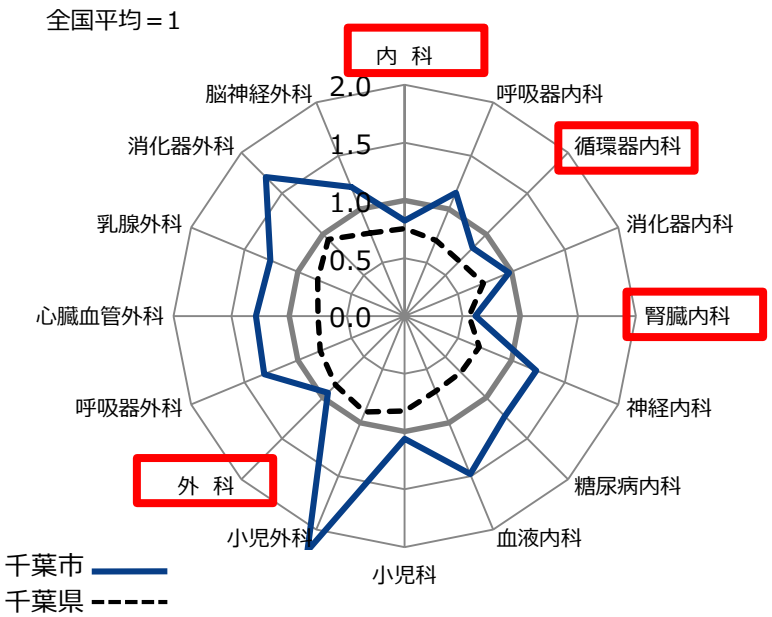


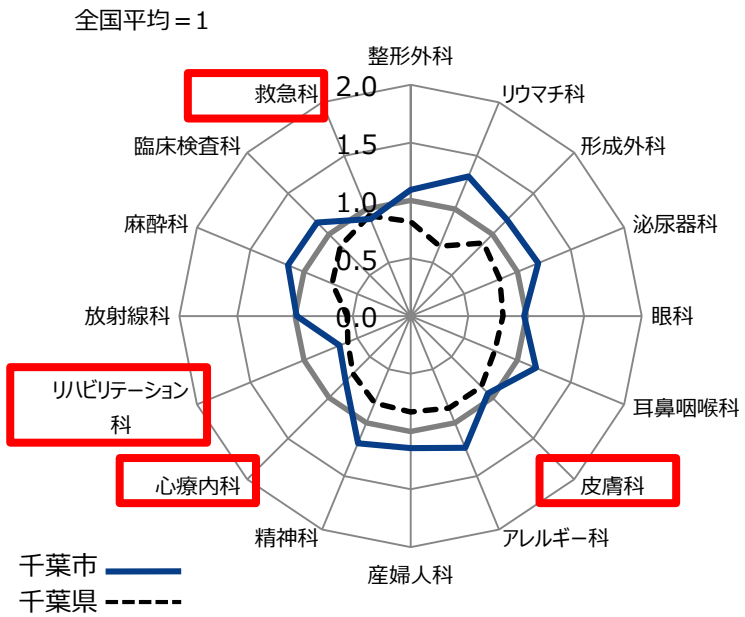
出典：2016年「医師・歯科医師・薬剤師調査」、千葉県「衛生年報」（2016年）
2016年人口推計（総務省）、千葉県毎月常住人口調査（千葉県 2016.10.1）

1．千葉医療圏等の現状と課題　（４）医療従事者数の動向　②診療科別医師の状況

✓ 主たる診療科別に見た人口当たりの医師数は、多くの診療科で県内平均を上回る。全国平均と比べた場合は、内科、循環器内科、腎臓内科、外科、救急科などが少ない。

◆人口10万人あたりの主たる診療科医師数



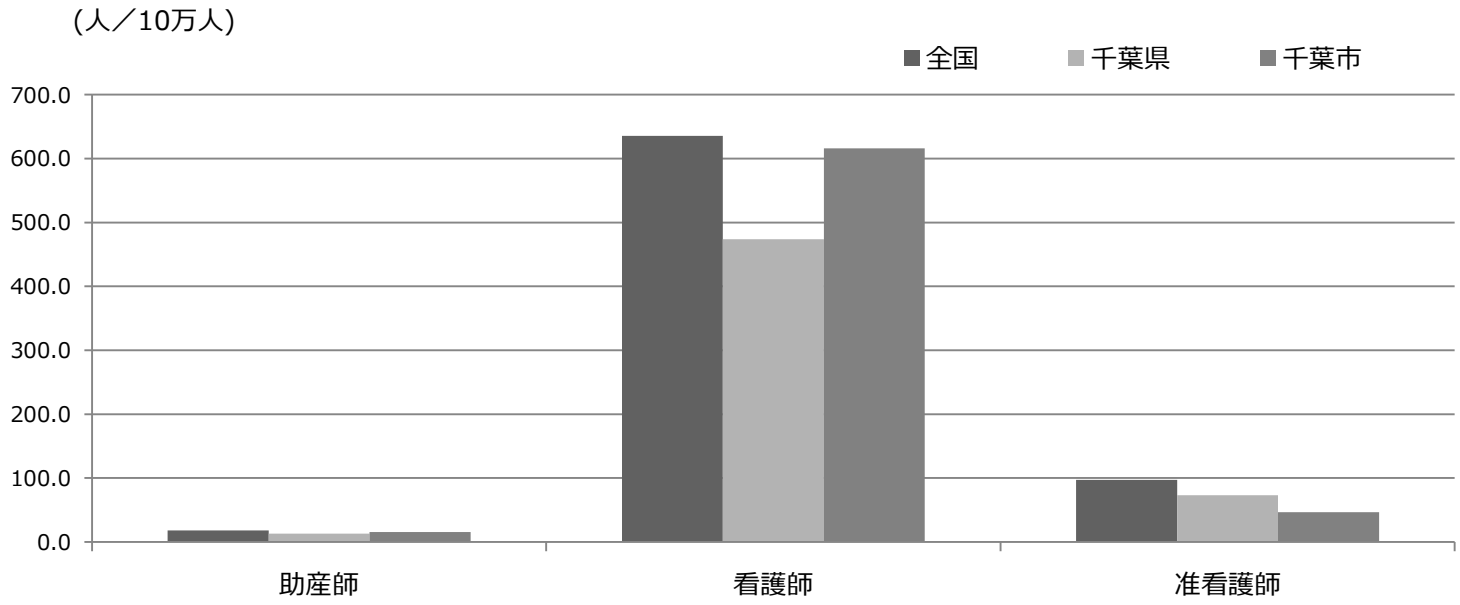


出典：2016年「医師・歯科医師・薬剤師調査」

1．千葉医療圏等の現状と課題　（４）医療従事者数の動向　③看護職員の状況

✓ 千葉市の人口10万人対看護職員数は、総じて全国平均より低い水準にある。看護師数は千葉県全体と比較して高い水準にある。

◆人口10万人対病院従事看護職員数



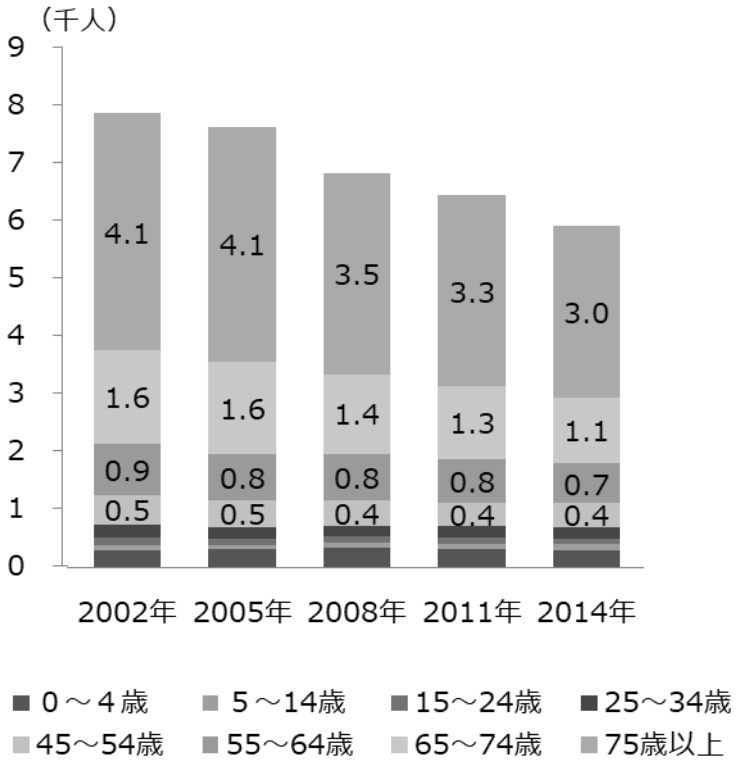
	助産師	看護師	准看護師
全国	18.0	635.7	97.2
千葉県	12.9	473.7	73.1
千葉	15.7	616.0	46.4

出典：千葉県「衛生年報」（2016年）、2016年人口推計（総務省）、千葉県毎月常住人口調査（千葉県 2016.10.1）

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（５）患者数の将来推計　①入院受療率の推移

- ✓ 患者調査によれば、千葉県の年齢階層別受療率は近年低下している。
- ✓ 在院日数短縮、急性期病床の重症度の厳格化、医療費自己負担率の上昇による受診抑制等の影響に加え、高齢者に対する居宅系サービスを含む介護サービス施設数の増加などの影響と推察される。

◆千葉県入院受療率推移（左：10万人対人数･右：1999年を100とした時の変化率）



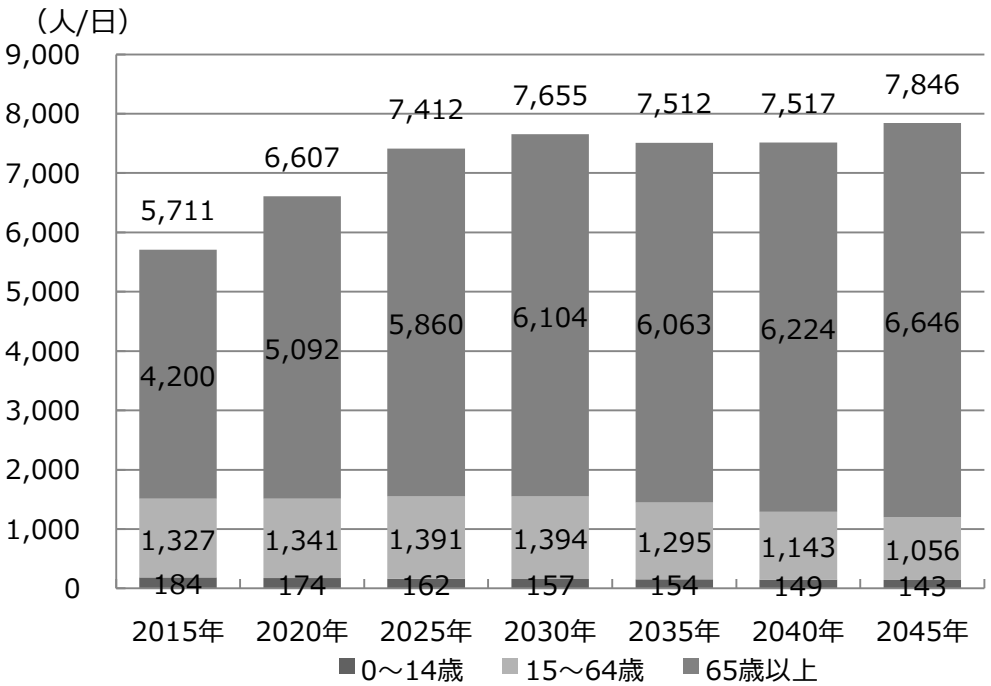
	2002年	2005年	2008年	2011年	2014年
0～4歳	85	92	103	95	89
5～14歳	71	57	62	64	67
15～24歳	87	73	73	72	66
25～34歳	85	75	71	75	80
35～44歳	97	90	77	76	79
45～54歳	95	84	78	73	73
55～64歳	95	86	87	81	75
65～74歳	93	93	80	73	65
75歳以上	94	93	80	76	69

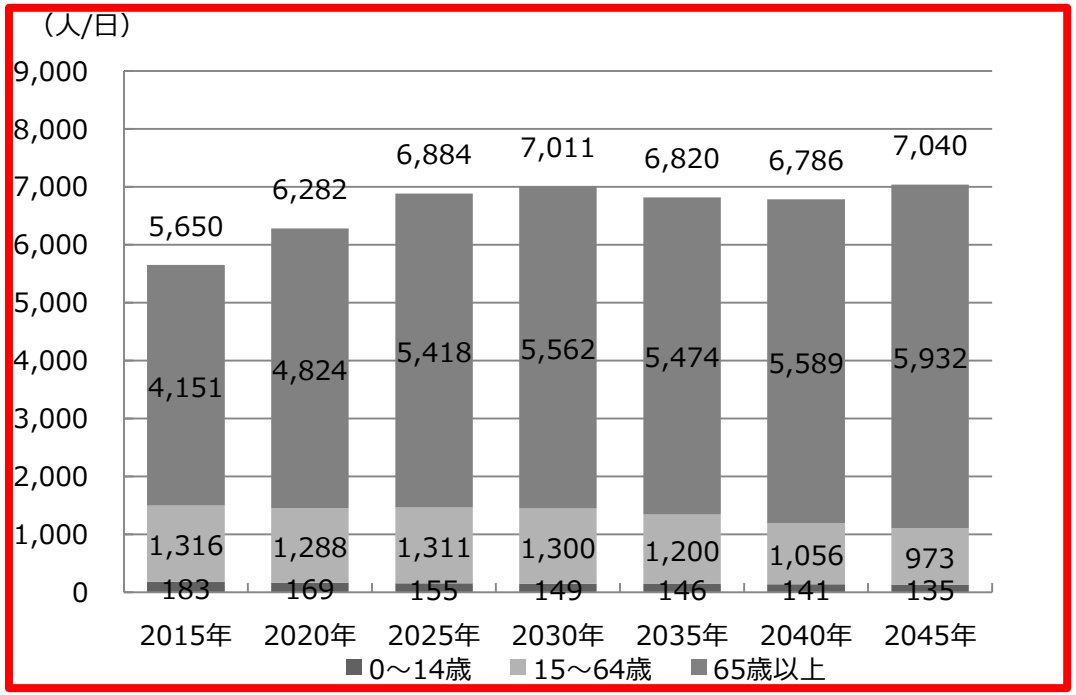
出典：厚生労働省　患者調査（1999~2014年）より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（５）患者数の将来推計　②市内の入院患者数推計

✓ 市内入院患者数（精神疾患を除く）の推計において、2014年患者調査の受療率で固定した場合と、過去の県内受療率を踏襲し、その増減率が毎年10%ずつ縮小して将来的に収束する設定の場合では、共に2030年に一度ピークを迎える推計結果となっている。

◆千葉市将来推計入院患者数（精神疾患を除く）（左：2014年時点千葉県受療率を固定した推計
・右：1999年～2014年までの千葉県受療率変動を踏襲した推計）



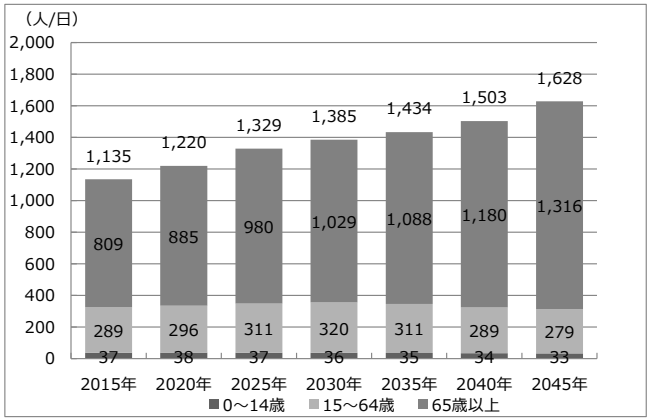


出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

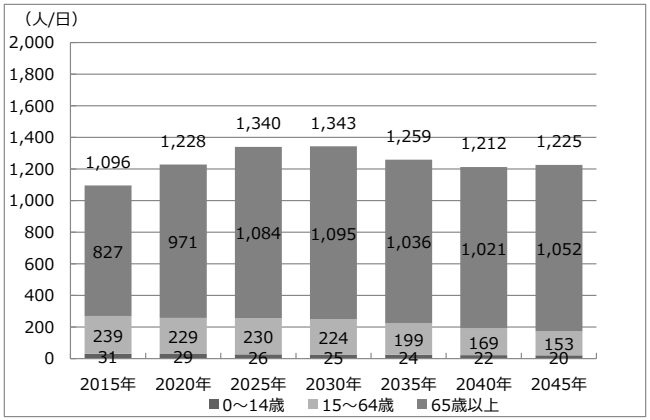
1. 千葉医療圏等の現状と課題　（５）患者数の将来推計　③市内の区別入院患者数推計

✓ 受療率変動時の中央区、緑区では精神疾患を除く入院患者数は一貫して増加する見込みである。それ以外の区では2025~2030年をピークとして一旦減少に転ずる見込みである。

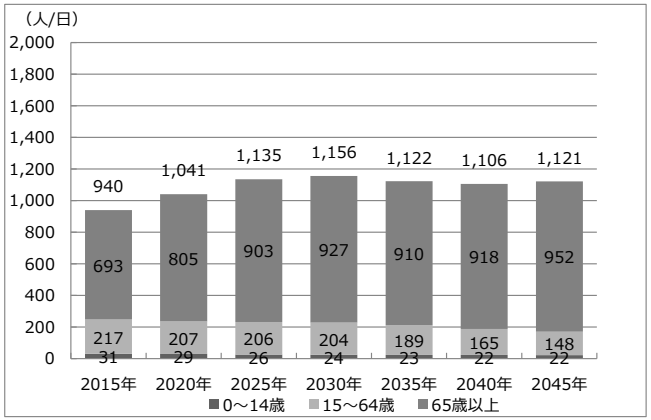
◆中央区推計入院患者数



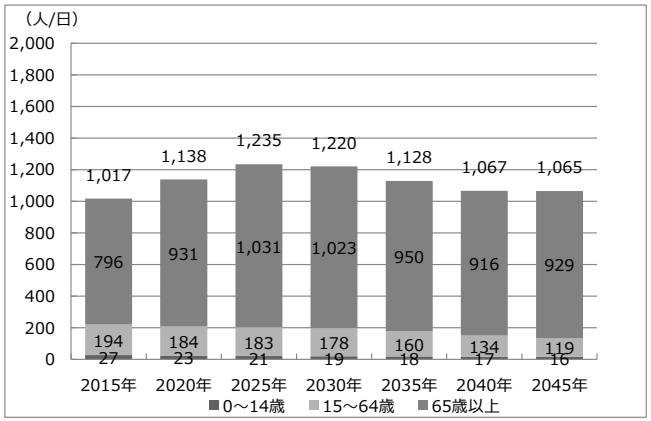
◆花見川区推計入院患者数



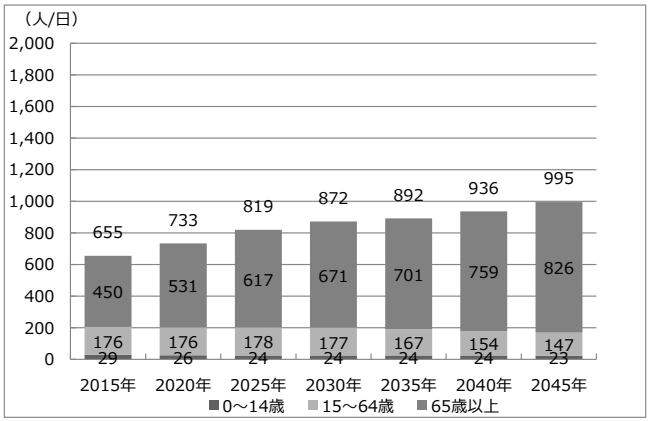
◆稲毛区推計入院患者数



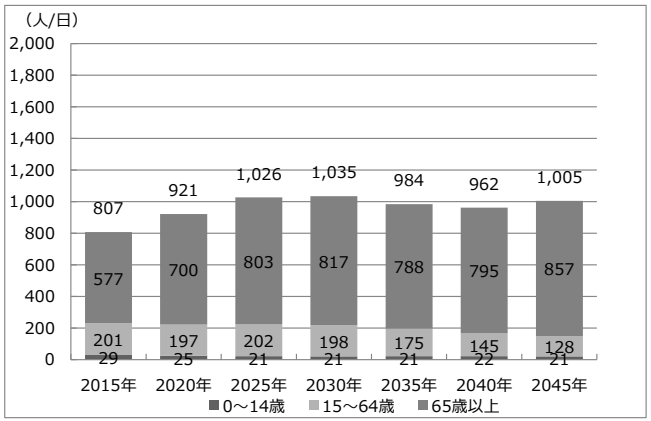
◆若葉区推計入院患者数



◆緑区推計入院患者数



◆美浜区推計入院患者数



出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（５）患者数の将来推計　④傷病別入院患者数推計

✓ 受療率変動時の千葉市の傷病別入院患者推計では、総数は2030年に一度ピークを迎え、特にⅨ　循環器系の疾患、Ⅹ　呼吸器系の疾患、ＸⅨ　損傷，中毒及びその他の外因の影響が増加する見込み。

◆千葉市傷病別将来推計入院患者数(人/日)（1999年～2014年までの千葉県受療率変動を踏襲した推計）

傷病分類	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2015-30 増減率
総数	7,045	7,707	8,339	8,472	8,246	8,170	8,398	20.3%
総数(精神疾患を除く)	5,650	6,282	6,884	7,011	6,820	6,786	7,040	24.1%
Ⅰ　感染症及び寄生虫症	105	113	121	122	118	117	120	16.3%
Ⅱ　新生物	896	948	990	1,007	998	1,002	1,011	12.4%
（うち悪性新生物）	783	831	871	888	883	887	895	13.4%
Ⅲ　血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	40	44	47	48	47	47	48	21.4%
Ⅳ　内分泌，栄養及び代謝疾患	174	197	218	221	213	211	221	27.5%
（うち糖尿病）	103	114	124	126	122	121	126	22.5%
Ⅴ　精神及び行動の障害	1,395	1,425	1,455	1,462	1,427	1,384	1,358	4.8%
Ⅵ　神経系の疾患	469	516	560	564	545	539	559	20.4%
Ⅶ　眼及び付属器の疾患	72	78	83	84	84	85	87	17.5%
Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患	13	14	14	14	14	14	14	10.3%
Ⅸ　循環器系の疾患	1,319	1,513	1,703	1,751	1,700	1,691	1,770	32.8%
（うち心疾患（高血圧性のものを除く））	301	346	390	401	389	388	406	33.2%
（うち脳血管疾患）	917	1,053	1,188	1,222	1,187	1,180	1,235	33.3%
Ⅹ　呼吸器系の疾患	513	601	686	700	673	672	716	36.4%
ⅩⅠ　消化器系の疾患	419	460	497	505	492	491	508	20.4%
ⅩⅡ　皮膚及び皮下組織の疾患	56	63	69	70	68	67	70	23.5%
ⅩⅢ　筋骨格系及び結合組織の疾患	326	362	395	404	395	395	408	24.0%
ⅩⅣ　腎尿路生殖器系の疾患	251	278	303	307	300	302	314	22.6%
ⅩⅤ　妊娠，分娩及び産褥	89	78	74	73	70	67	63	-17.9%
ⅩⅥ　周産期に発生した病態	40	38	35	34	34	33	31	-14.5%
ⅩⅦ　先天奇形，変形及び染色体異常	42	40	37	36	35	34	32	-14.7%
ⅩⅧ　症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
ⅩⅨ　損傷，中毒及びその他の外因の影響	698	795	888	906	874	865	905	29.7%
ⅩⅩⅠ　健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	40	41	43	43	42	41	41	6.0%

出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（５）患者数の将来推計　⑤傷病別外来患者数推計

✓ 受療率変動時の千葉市の傷病別外来患者推計では、総数は2030年に一度ピークを迎え、特にⅡ　新生物うち悪性新生物、Ⅸ循環器系の疾患、ＸⅢ　筋骨格系及び結合組織の疾患が増加する見込み。

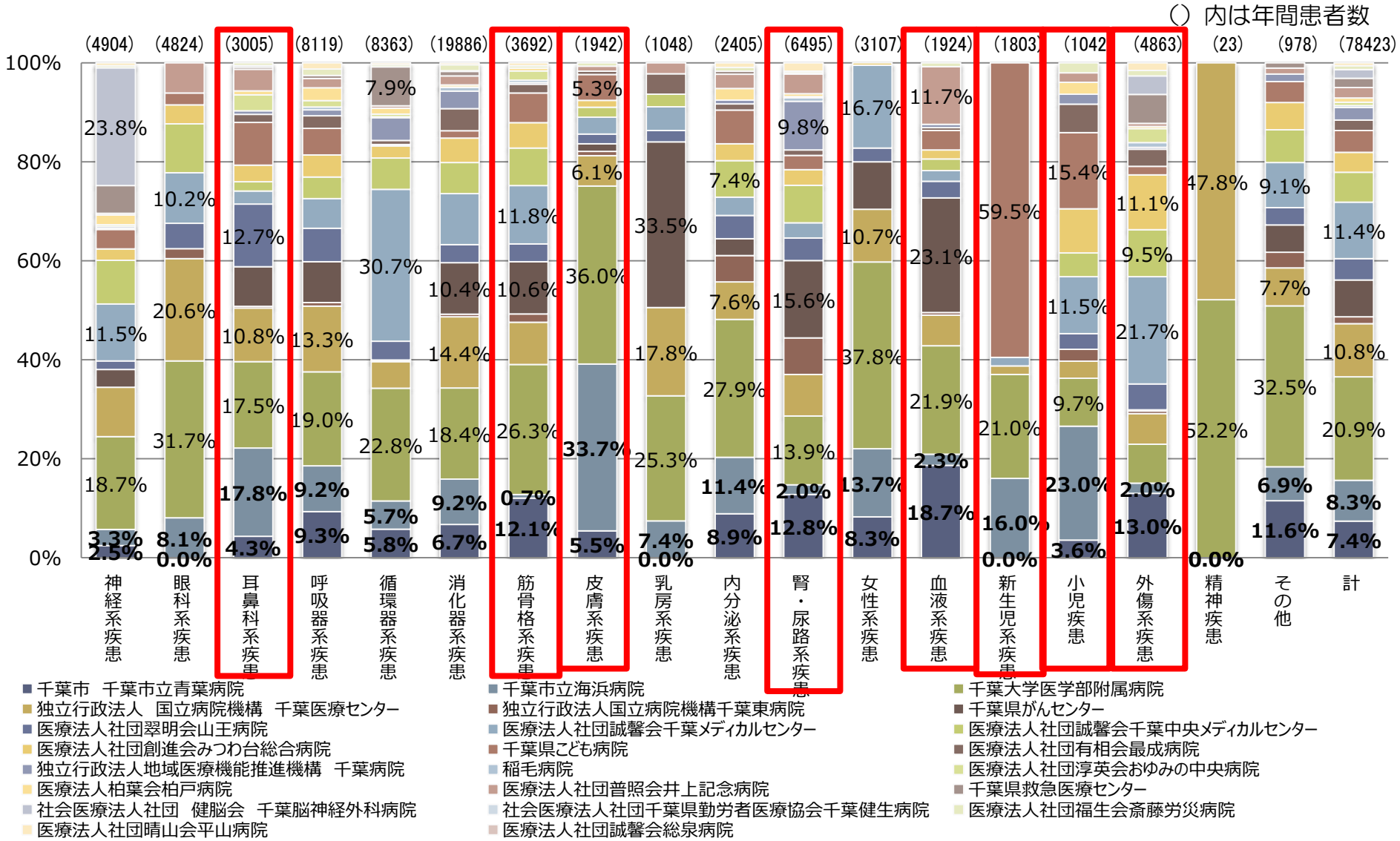
◆千葉市傷病別将来推計外来患者数(人/日)（1999年～2014年までの千葉県受療率変動を踏襲した推計）

傷病分類	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2015-30 増減率
総数	47,008	48,680	49,678	49,875	49,152	48,479	47,975	6.1%
Ⅰ　感染症及び寄生虫症	798	809	810	802	782	759	739	0.6%
Ⅱ　新生物	1,547	1,622	1,675	1,704	1,695	1,684	1,670	10.1%
（うち悪性新生物）	1,149	1,218	1,271	1,304	1,303	1,305	1,303	13.4%
Ⅲ　血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	147	152	153	147	142	138	138	0.5%
Ⅳ　内分泌，栄養及び代謝疾患	2,640	2,761	2,829	2,863	2,837	2,795	2,753	8.5%
（うち糖尿病）	1,280	1,357	1,409	1,438	1,427	1,412	1,398	12.3%
Ⅴ　精神及び行動の障害	1,326	1,322	1,302	1,261	1,215	1,167	1,131	-4.9%
Ⅵ　神経系の疾患	718	771	812	814	794	783	793	13.5%
Ⅶ　眼及び付属器の疾患	1,601	1,690	1,759	1,783	1,758	1,736	1,730	11.4%
Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患	699	705	708	709	699	688	680	1.4%
Ⅸ　循環器系の疾患	4,706	5,135	5,495	5,656	5,614	5,607	5,672	20.2%
（うち心疾患（高血圧性のものを除く））	566	628	680	695	683	684	702	22.9%
（うち脳血管疾患）	392	430	459	472	472	480	489	20.2%
Ⅹ　呼吸器系の疾患	4,231	4,136	3,996	3,902	3,816	3,723	3,599	-7.8%
ⅩⅠ　消化器系の疾患	8,875	9,036	9,045	9,037	8,947	8,821	8,621	1.8%
ⅩⅡ　皮膚及び皮下組織の疾患	1,659	1,676	1,664	1,625	1,569	1,513	1,474	-2.1%
ⅩⅢ　筋骨格系及び結合組織の疾患	7,893	8,423	8,807	8,981	8,927	8,909	8,931	13.8%
ⅩⅣ　腎尿路生殖器系の疾患	1,740	1,787	1,812	1,800	1,765	1,736	1,717	3.4%
ⅩⅤ　妊娠，分娩及び産褥	35	31	29	28	28	27	26	-17.8%
ⅩⅥ　周産期に発生した病態	21	20	19	18	18	17	17	-14.2%
ⅩⅦ　先天奇形，変形及び染色体異常	80	77	73	71	69	67	64	-11.5%
ⅩⅧ　症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
ⅩⅨ　損傷，中毒及びその他の外因の影響	2,551	2,575	2,591	2,568	2,499	2,420	2,363	0.7%
ⅩⅩⅠ　健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,134	5,317	5,439	5,439	5,331	5,256	5,229	5.9%

出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　①MDC別医療機関シェア（全体）

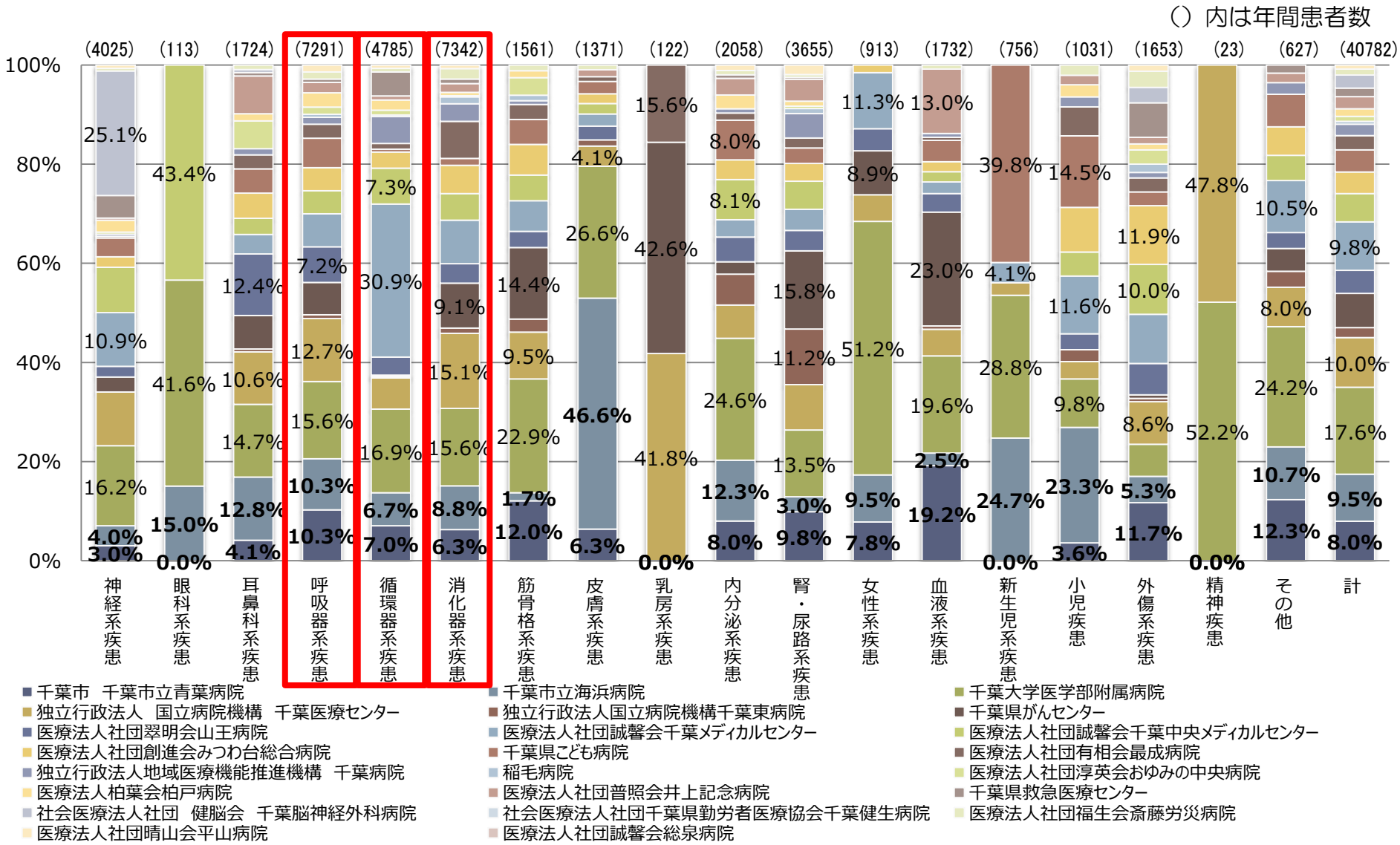
✓ 青葉病院は血液系、外傷系、腎・尿路系、筋骨格系、海浜病院は皮膚系（小児の食物アレルギー）、小児系、耳鼻科系、新生児系の疾患において、重要な役割を担っている。



出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　①MDC別医療機関シェア（手術なし）

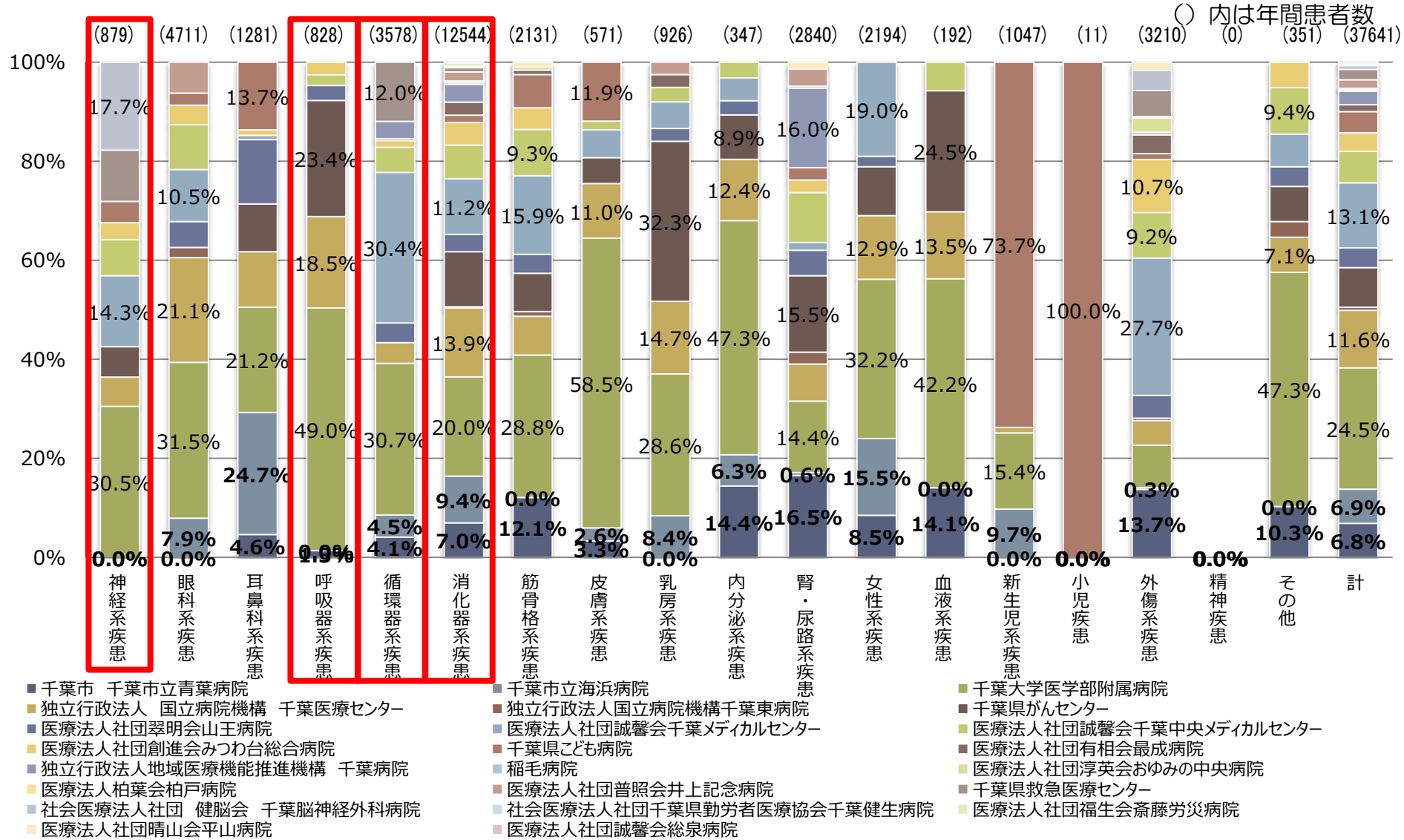
✓ 呼吸器系や循環器系、消化器系など需要の多い疾患のうち手術の必要がないものは、多くの病院が対応している。



出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　①MDC別医療機関シェア（手術あり）

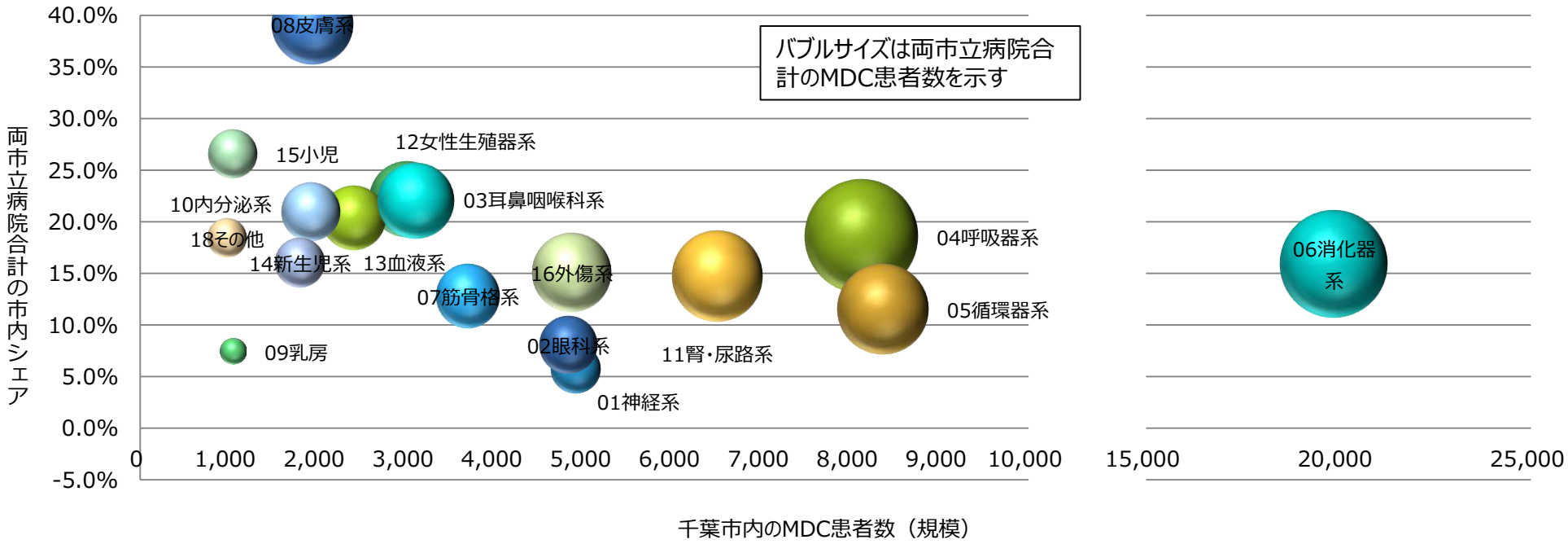
✓ 手術が必要な疾患のうち、神経系や循環器系、呼吸器系は、特定の病院が手術を実施しているが、消化器系は、両市立病院も含め多くの病院で手術を実施している。



出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　②両市立病院ポジショニング分析(全体)

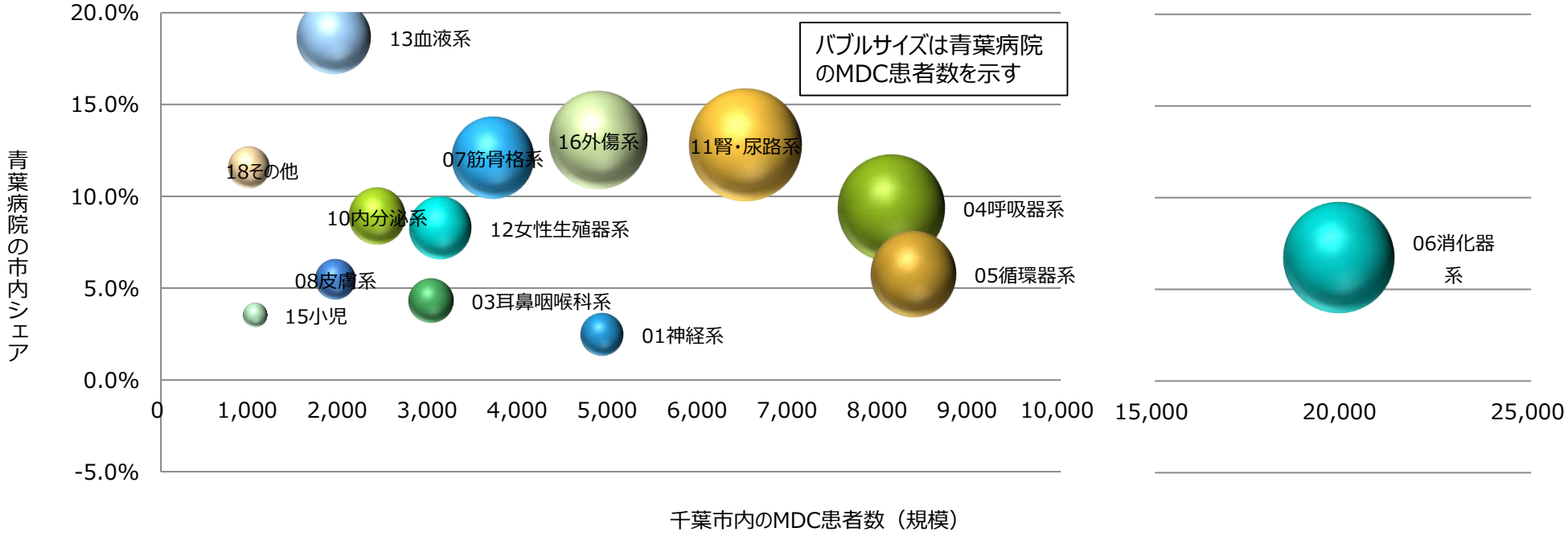
- ✓ 千葉市内におけるMDC別患者数の規模と、両市立病院合計のMDC別シェアは下表のとおりで、08　皮膚系（小児の食物アレルギー）のシェアが39%と最も高く、次いで15　小児系（約27%）、03　耳鼻系、12　女性生殖器系、13　血液系のシェアが20%以上となっている。
- ✓ また、MDC別患者の規模が大きい04　呼吸器系、06　消化器系領域でも15%以上のシェアを占めている。



出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　②両市立病院ポジショニング分析(青葉)

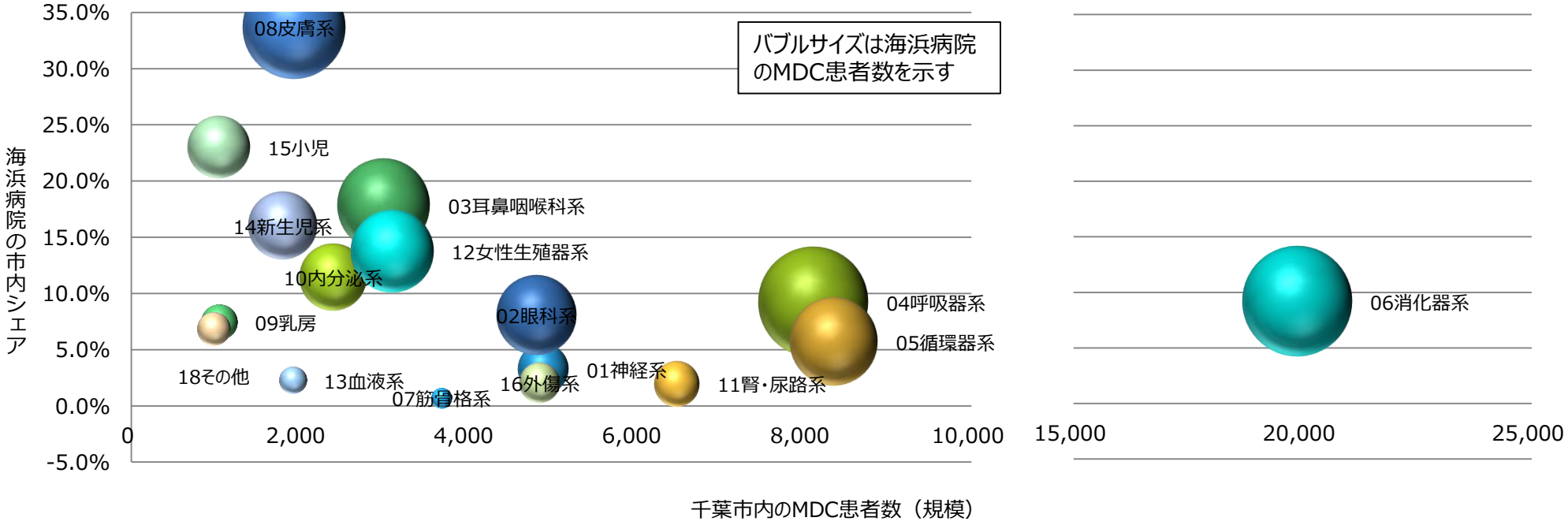
✓ 青葉病院のMDC別領域シェアでは、13　血液系が最も高く、16　外傷系、11　腎・尿路系、07　筋骨格系などのシェアも高い状況にある。



出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　②両市立病院ポジショニング分析(海浜)

✓ 海浜病院のMDC別領域シェアでは、08　皮膚系（小児の食物アレルギー）が最も高く、15　小児系、03　耳鼻咽喉科系 、14　新生児系などのシェアも高い状況にある。



出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　③機能評価係数Ⅱ分析（全体）

- ✓ 青葉病院では、幅広い診療領域をカバーし(カバー率係数)、合併症等複雑な患者を多く受け入れている(複雑性係数)。
- ✓ 海浜病院では、小児患者のシェアが高く（定量評価係数(小児)）、DPC標準値より短い期間で診療を行っている(効率性係数)。

医療機関名	保険診療係数	効率性係数	複雑性係数	カバー率係数	救急医療係数	地域医療係数	体制評価係数	定量評価係数（小児）	定量評価係数（小児以外）	機能評価係数Ⅱ合計*
千葉市立青葉病院	0.01617	0.01591	0.01851	0.01429	0.02791	0.01117	0.00852	0.00064	0.00201	0.10400
千葉市立海浜病院	0.01617	0.03252	0.00078	0.01377	0.01026	0.01996	0.00902	0.00943	0.00151	0.09350
医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	0.01617	0.01866	0.01383	0.01232	0.02817	0.01111	0.00913	0.00008	0.00190	0.10030
社会医療法人社団健脳会千葉脳神経外科病院	0.01617	0.00607	0.03688	0.00210	0.03215	0.00468	0.00426	0.00000	0.00042	0.09800
医療法人社団創進会みつわ台総合病院	0.01463	0.01529	0.01282	0.00957	0.04023	0.00505	0.00365	0.00015	0.00125	0.09760
医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	0.01617	0.01596	0.00865	0.01980	0.02170	0.01185	0.00791	0.00107	0.00287	0.09410
独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	0.01617	0.01172	0.00823	0.01849	0.01455	0.01444	0.01090	0.00056	0.00297	0.08360
千葉県こども病院	0.01540	0.03282	0.00171	0.01036	0.00680	0.01145	0.00548	0.00592	0.00005	0.07850
独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院	0.01540	0.01421	0.01964	0.00446	0.01423	0.00280	0.00218	0.00000	0.00061	0.07070
医療法人社団翠明会山王病院	0.01617	0.01257	0.01252	0.00852	0.00773	0.00398	0.00304	0.00001	0.00092	0.06150
医療法人社団普照会井上記念病院	0.01540	0.01591	0.01328	0.00341	0.00258	0.00251	0.00193	0.00000	0.00058	0.05310
千葉医療圏内のDPC標準病院群平均	0.01582	0.01742	0.01335	0.01064	0.01876	0.00900	0.00600	0.00162	0.00137	0.08499
（青葉病院－千葉医療圏内のDPC標準病院群平均の差）	0.00035	-0.00151	0.00516	0.00365	0.00915	0.00217	0.00252	-0.00098	0.00064	0.01901
（海浜病院－千葉医療圏内のDPC標準病院群平均の差）	0.00035	0.01510	-0.01257	0.00313	-0.00850	0.01096	0.00302	0.00781	0.00014	0.00851

出典：厚生労働省2018年度中央社会保険医療協議会資料「機能評価係数Ⅱの内訳（医療機関別）」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　③機能評価係数Ⅱ分析（体制評価係数）

- ✓ 2018年度における政策医療などに対する体制評価係数の取得状況は以下のとおり。
- ✓ 青葉病院ではがん、心血管疾患、精神、災害で、海浜病院では災害、周産期で上位に位置している。

医療機関名	医療機関群	がん	脳卒中	心筋梗塞等の心血管疾患	精神疾患	災害	周産期	へき地	救急	その他	地域医療指数
千葉市立青葉病院	DPC標準病院群	0.50	0.00	0.50	0.50	1.00	0.00	0	1.00	0.00	3.50
千葉市立海浜病院	DPC標準病院群	0.28	0.00	0.43	0.00	1.00	1.00	0	1.00	0.00	3.71
国立大学法人千葉大学医学部附属病院	大学病院本院群	0.45	0.00	1.00	0.50	1.00	1.00	0	0.60	0.50	5.05
独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	DPC標準病院群	0.98	1.00	0.00	0.50	1.00	0.00	0	1.00	0.00	4.48
医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	DPC標準病院群	0.00	1.00	0.50	0.00	0.25	0.00	0	1.00	1.00	3.75
医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	DPC標準病院群	0.00	1.00	1.00	0.00	0.25	0.00	0	1.00	0.00	3.25
千葉県こども病院	DPC標準病院群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	1.00	0	1.00	0.00	2.25
社会医療法人社団健脳会千葉脳神経外科病院	DPC標準病院群	0.00	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0	1.00	0.00	1.75
医療法人社団創進会みつわ台総合病院	DPC標準病院群	0.00	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0	1.00	0.00	1.50
医療法人社団翠明会山王病院	DPC標準病院群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0	1.00	0.00	1.25
独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院	DPC標準病院群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0	0.65	0.00	0.90
医療法人社団普照会井上記念病院	DPC標準病院群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0	0.54	0.00	0.79
千葉県がんセンター	DPC特定病院群	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0	0.00	0.50	0.75

出典：厚生労働省2018年度中央社会保険医療協議会資料「地域医療指数（体制評価指数）の内訳（医療機関別）」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　④MDC領域別の患者の流出入状況

✓ 千葉医療圏のDPC病院の受療動向は以下のとおりで、多くのMDC領域で供給が需要を上回っており他地域から患者が流入している傾向である。

◆DPC患者数ベースの患者のMDC領域別の流出入状況

千葉医療圏	2016年度																	
施設名	01 神経系	02 眼科系	03 耳鼻咽喉科系	04 呼吸器系	05 循環器系	06 消化器系	07 筋骨格系	08 皮膚・皮下組織	09 乳房	10 内分泌・栄養・代謝	11 腎・尿路系	12 女性生殖器系及び産褥期	13 血液・造血器・免疫臓器	14 新生児、先天性奇形	15 小児	16 外傷・熱傷・中毒	18 その他	合計
	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数	DPC患者数
千葉市立青葉病院	121	0	130	759	482	1,336	446	106	0	214	830	257	359	0	37	634	113	5,824
千葉市立海浜病院	161	390	536	750	480	1,829	26	654	78	275	127	427	44	289	240	99	67	6,472
千葉大学医学部附属病院	919	1,529	525	1,543	1,905	3,663	971	699	265	670	903	1,173	421	379	101	382	318	16,366
国立病院機構千葉医療センター	488	996	326	1,079	447	2,855	315	119	187	182	547	331	119	31	36	302	75	8,435
国立病院機構千葉東病院	0	98	10	58	14	109	61	17	0	128	478	0	11	0	25	26	31	1,066
千葉県がんセンター	177	0	240	667	14	2,063	390	30	351	82	1,016	298	445	0	0	12	54	5,839
山王病院	86	247	381	551	318	725	132	38	24	113	297	87	65	0	33	253	34	3,384
千葉メディカルセンター	563	493	79	485	2,565	2,057	436	66	50	88	199	520	41	31	120	1,054	89	8,936
千葉中央メディカルセンター	432	477	56	356	530	1,246	280	39	27	178	493	0	46	0	50	462	65	4,737
みつわ台総合病院	115	186	102	361	204	987	189	27	0	82	204	14	35	0	93	539	54	3,192
千葉県こども病院	191	114	259	436	27	291	222	102	0	164	186	0	75	1,073	160	84	41	3,425
最成病院	14	0	49	206	68	884	66	13	43	30	73	0	11	0	60	169	0	1,686
地域医療機能推進機構　千葉病院	17	0	21	100	383	710	12	0	0	18	637	0	13	0	21	18	15	1,965
稲毛病院	0	0	0	47	18	144	17	0	0	0	47	0	0	0	0	45	0	318
おゆみの中央病院	16	0	97	104	45	19	70	0	0	0	17	0	0	0	0	139	0	507
柏戸病院	97	0	25	208	98	88	21	0	0	57	38	0	0	0	25	20	0	677
井上記念病院	17	294	131	154	40	360	0	19	23	69	259	0	225	0	20	32	12	1,655
千葉県救急医療センター	276	0	12	50	660	176	0	0	0	15	15	0	0	0	0	284	10	1,498
千葉脳神経外科病院	1,166	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181	0	1,358
千葉健生病院	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
斎藤労災病院	21	0	15	105	34	241	18	13	0	18	20	0	14	0	21	54	0	574
平山病院	27	0	0	100	31	69	20	0	0	22	109	0	0	0	0	74	0	452
上記医療機関入院患者数合計①(供給)	4,904	4,824	3,005	8,119	8,363	19,886	3,692	1,942	1,048	2,405	6,495	3,107	1,924	1,803	1,042	4,863	978	78,400
医療圏内住所地入院患者数②(需要)	4,539	4,618	2,742	7,649	8,322	17,324	3,479	1,680	964	2,224	5,017	3,561	1,598	1,177	1,048	4,888	861	71,691
患者数差　①-②(需給差(見かけ上流出入差))	365	206	263	470	41	2,562	213	262	84	181	1,478	▲454	326	626	▲6	▲25	117	6,709

出典：2016年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑤患者住所地別の受診状況

- ✓ KDB(国保加入者を対象)による各区の入院患者の受療動向（精神病床を除く）では、市内全体の4割が中央区の医療機関を受診している状況である。
- ✓ 市外流出率は全市では概ね20%程度で二次医療圏の一般的な水準の範囲内にあるが、区別にみると花見川区、美浜区の市外流出率が高い傾向にある。

2017年度　全体入院医療機関別　延患者数

→入院先 ↓患者住所地	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	市外	総計
中央区	61,806	6,624	1,267	1,018	8,272	5,367	1,171	756	12,789	91,690
	67.4%	7.2%	1.4%	1.1%	9.0%	5.9%	1.3%	0.8%	13.9%	100.0%
花見川区	19,112	1,343	12,907	5,759	3,129	1,772	5,586	3,199	29,440	77,705
	24.6%	1.7%	16.6%	7.4%	4.0%	2.3%	7.2%	4.1%	37.9%	100.0%
稲毛区	28,751	2,751	2,827	10,493	8,109	1,664	2,300	1,228	15,366	69,510
	41.4%	4.0%	4.1%	15.1%	11.7%	2.4%	3.3%	1.8%	22.1%	100.0%
若葉区	31,574	4,172	1,255	5,420	26,011	2,186	1,995	336	15,706	84,147
	37.5%	5.0%	1.5%	6.4%	30.9%	2.6%	2.4%	0.4%	18.7%	100.0%
緑区	22,501	3,151	721	1,156	4,833	8,567	826	370	10,132	48,736
	46.2%	6.5%	1.5%	2.4%	9.9%	17.6%	1.7%	0.8%	20.8%	100.0%
美浜区	24,389	2,158	2,959	3,609	2,057	2,187	7,886	5,074	15,452	58,539
	41.7%	3.7%	5.1%	6.2%	3.5%	3.7%	13.5%	8.7%	26.4%	100.0%
総計	188,133	20,294	21,936	27,455	52,411	21,743	19,764	11,054	98,885	430,327
	43.7%	4.7%	5.1%	6.4%	12.2%	5.1%	4.6%	2.6%	23.0%	100.0%

KDB医療レセプト管理データの都合上、上記分析は75歳以下の患者に対しての動向となっており、後期高齢者の動向は含まれない。
2017年度では国保全被保険者数は214, 301名となっている。(2017年10月時点の千葉市の人口に対して約22%)

出典：KDB（2017年度）より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑤患者住所地別の受診状況（精神）

✓ 精神病床の各区の入院患者の受療動向は以下のとおりで、中央区で市内全体の約30%、下総精神医療センターが位置する緑区で約10%の患者を受け入れている。また、精神病床以外の患者と比較して市外への流出の割合が高くなっている。

2017年度　精神病床入院医療機関別　延患者数

→入院先 ↓患者住所地	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	市外	総計
中央区	22,340	1,004	0	0	1,728	4,462	411	0	12,258	41,199
	54.2%	2.4%	0.0%	0.0%	4.2%	10.8%	1.0%	0.0%	29.8%	100.0%
花見川区	6,674	287	0	0	598	2,300	762	0	18,609	28,943
	23.1%	1.0%	0.0%	0.0%	2.1%	7.9%	2.6%	0.0%	64.3%	100.0%
稲毛区	5,769	176	0	0	790	1,596	1,181	0	11,629	20,965
	27.5%	0.8%	0.0%	0.0%	3.8%	7.6%	5.6%	0.0%	55.5%	100.0%
若葉区	12,799	700	0	0	4,374	2,884	170	0	14,188	34,415
	37.2%	2.0%	0.0%	0.0%	12.7%	8.4%	0.5%	0.0%	41.2%	100.0%
緑区	5,950	153	0	0	701	5,118	249	0	13,432	25,450
	23.4%	0.6%	0.0%	0.0%	2.8%	20.1%	1.0%	0.0%	52.8%	100.0%
美浜区	4,333	369	0	0	1,120	811	447	0	9,578	16,289
	26.6%	2.3%	0.0%	0.0%	6.9%	5.0%	2.7%	0.0%	58.8%	100.0%
総計	57,865	2,689	0	0	9,311	17,171	3,220	0	79,694	167,261
	34.6%	1.6%	0.0%	0.0%	5.6%	10.3%	1.9%	0.0%	47.6%	100.0%

KDB医療レセプト管理データの都合上、上記分析は75歳以下の患者に対しての動向となっており、後期高齢者の動向は含まれない。
2017年度では国保全被保険者数は214, 301名となっている。(2017年10月時点の千葉市の人口に対して約22%)

出典：KDB（2017年度）より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑤患者住所地別の受診状況

✓ 入院患者の市外への流出状況をMDC領域別でみると06消化器系、01神経系、05循環器系の流出が花見川区を中心に多くなっているが、いずれも患者数が多い領域であり、領域による特徴はみられない。

2017年度　MDC領域別　流出延入院患者数

地区	MDC01 神経系	MDC02 眼科系	MDC03 耳鼻科系	MDC04 呼吸器系	MDC05 循環器系	MDC06 消化器系	MDC07 筋骨格系	MDC08 皮膚系	MDC09 乳房系	MDC10 内分泌系	MDC11 腎・尿路系	MDC12 女性系	MDC13 血液系	MDC14 新生児系	MDC15 小児系	MDC16 外傷系	MDC17 精神系	MDC18 その他	不明	総計
中央区	1,788	205	252	691	1,422	1,638	793	471	39	992	792	257	281	188		734	516	315	1,415	12,789
花見川区	3,161	1,088	594	2,492	3,656	4,301	2,727	671	156	2,542	1,547	356	878	88	19	1,377	564	648	2,575	29,440
稲毛区	2,229	310	246	1,138	1,409	2,647	877	476	111	1,139	816	306	634	86	4	1,056	519	165	1,198	15,366
若葉区	1,698	329	458	1,179	1,629	2,306	1,274	509	67	1,732	601	114	351	153	194	988	444	352	1,328	15,706
緑区	919	215	444	646	983	1,434	845	482	164	1,042	568	209	356	118		559	386	223	539	10,132
美浜区	1,709	545	577	1,208	1,687	2,526	1,146	229	108	1,220	680	277	684	19		1,240	380	151	1,066	15,452
総計	11,504	2,692	2,571	7,354	10,786	14,852	7,662	2,838	645	8,667	5,004	1,519	3,184	652	217	5,954	2,809	1,854	8,121	98,885
構成比率対総計	11.6%	2.7%	2.6%	7.4%	10.9%	15.0%	7.7%	2.9%	0.7%	8.8%	5.1%	1.5%	3.2%	0.7%	0.2%	6.0%	2.8%	1.9%	8.2%	100.0%
領域別流出率	21.3%	29.4%	25.9%	22.3%	23.6%	19.3%	29.4%	23.0%	24.0%	21.4%	23.5%	23.4%	20.8%	23.2%	8.0%	30.8%	22.7%	20.7%	22.2%	22.7%
(参考)全患者数	54,028	9,159	9,939	33,026	45,648	76,893	26,076	12,340	2,682	40,432	21,297	6,497	15,314	2,808	2,706	19,304	12,363	8,950	36,654	436,116
(参考)構成比率対全患者数	12.4%	2.1%	2.3%	7.6%	10.5%	17.6%	6.0%	2.8%	0.6%	9.3%	4.9%	1.5%	3.5%	0.6%	0.6%	4.4%	2.8%	2.1%	8.4%	100.0%

出典：KDB（2017年度）より作成

KDB医療レセプト管理データの都合上、上記分析は75歳以下の患者に対しての動向となっており、後期高齢者の動向は含まれない。
2017年度では国保全被保険者数は214, 301名となっている。(2017年10月時点の千葉市の人口に対して約22%)

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑥患者住所地別の受診状況(がん)

✓ 新生物での各区の入院患者の受療動向は以下のとおりで、市内の新生物入院患者の多くが中央区に集中しており、市内完結率も高い。市外流出率は市内全体では概ね20%程度で二次医療圏の一般的な水準の範囲内にあるが、区別にみると花見川区の市外流出率が高い傾向にある。

2017年度　新生物　入院医療機関別　延患者数

→入院先 ↓患者住所地	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	市外	総計
中央区	8,511	1,224	2	84	229	140	49	24	803	9,818
	86.7%	12.5%	0.0%	0.9%	2.3%	1.4%	0.5%	0.2%	8.2%	100.0%
花見川区	4,013	159	517	363	78	3	912	829	3,159	9,045
	44.4%	1.8%	5.7%	4.0%	0.9%	0.0%	10.1%	9.2%	34.9%	100.0%
稲毛区	5,180	414	95	791	225	0	219	185	1,349	7,859
	65.9%	5.3%	1.2%	10.1%	2.9%	0.0%	2.8%	2.4%	17.2%	100.0%
若葉区	5,599	767	60	473	1,536	30	63	22	1,001	8,762
	63.9%	8.8%	0.7%	5.4%	17.5%	0.3%	0.7%	0.3%	11.4%	100.0%
緑区	3,883	395	0	82	243	428	70	57	1,012	5,718
	67.9%	6.9%	0.0%	1.4%	4.2%	7.5%	1.2%	1.0%	17.7%	100.0%
美浜区	4,915	407	56	288	27	0	1,114	952	2,067	8,467
	58.0%	4.8%	0.7%	3.4%	0.3%	0.0%	13.2%	11.2%	24.4%	100.0%
総計	32,101	3,396	730	2,081	2,338	601	2,427	2,069	9,391	49,669
	64.6%	6.8%	1.5%	4.2%	4.7%	1.2%	4.9%	4.2%	18.9%	100.0%

KDB医療レセプト管理データの都合上、上記分析は75歳以下の患者に対しての動向となっており、後期高齢者の動向は含まれない。
2017年度では国保全被保険者数は214, 301名となっている。(2017年10月時点の千葉市の人口に対して約22%)

出典：KDB（2017年度）より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑥MDC（主要診断群）別シェア（がん）

- ✓ 主要ながんについて、千葉医療圏の各医療機関での診療状況は以下となっている。
- ✓ 青葉病院は急性白血病、腎盂・尿管、膀胱、腎臓等の悪性腫瘍について受け入れが多く、海浜病院は胃、大腸、甲状腺、乳房等の悪性腫瘍について受け入れ患者が比較的多い状況にある。

施設名	施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	独立行政法人国立病院機構千葉東病院	千葉県がんセンター	医療法人社団翠明会山王病院	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	医療法人社団創進会みつわ台総合病院	千葉県こども病院	医療法人社団有相会最成病院	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院	稲毛病院	医療法人社団普照会井上記念病院	社会医療法人社団健脳会千葉脳神経外科病院	医療法人社団福生会斎藤労災病院	合計
施設所在地	施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	中央区	稲毛区	中央区	若葉区	若葉区	緑区	花見川区	中央区	稲毛区	中央区	稲毛区	中央区	
DPC対象病	DPC対象病床数		320床	287床	805床	410床	152床	316床	285床	315床	212床	205床	204床	102床	154床	180床	109床	97床	50床	4,203床
010010	脳腫瘍	件数	0	0	136	20	0	143	0	20	0	0	14	0	0	0	0	12	0	345
		シェア率	0.0%	0.0%	39.4%	5.8%	0.0%	41.4%	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	100.0%
040040	肺の悪性腫瘍	件数	148	11	793	568	0	524	53	46	11	30	0	11	0	0	0	0	14	2,209
		シェア率	6.7%	0.5%	35.9%	25.7%	0.0%	23.7%	2.4%	2.1%	0.5%	1.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	100.0%
060020	胃の悪性腫瘍	件数	50	160	304	272	0	398	47	128	69	34	0	20	47	0	0	0	0	1,529
		シェア率	3.3%	10.5%	19.9%	17.8%	0.0%	26.0%	3.1%	8.4%	4.5%	2.2%	0.0%	1.3%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	件数	67	150	219	267	0	194	63	84	46	100	0	159	46	32	0	0	12	1,439
		シェア率	4.7%	10.4%	15.2%	18.6%	0.0%	13.5%	4.4%	5.8%	3.2%	6.9%	0.0%	11.0%	3.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.8%	100.0%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	件数	13	53	620	206	0	91	26	45	12	30	0	28	38	0	0	0	0	1,162
		シェア率	1.1%	4.6%	53.4%	17.7%	0.0%	7.8%	2.2%	3.9%	1.0%	2.6%	0.0%	2.4%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	件数	12	41	323	73	12	223	12	37	10	0	0	0	0	0	0	0	0	743
		シェア率	1.6%	5.5%	43.5%	9.8%	1.6%	30.0%	1.6%	5.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
070030	脊椎・脊髄腫瘍	件数	0	0	30	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
		シェア率	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
090010	乳房の悪性腫瘍	件数	0	70	260	179	0	341	21	45	11	0	0	33	0	0	0	0	0	960
		シェア率	0.0%	7.3%	27.1%	18.6%	0.0%	35.5%	2.2%	4.7%	1.1%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
100020	甲状腺の悪性腫瘍	件数	0	12	61	14	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144
		シェア率	0.0%	8.3%	42.4%	9.7%	0.0%	39.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
11001x	腎腫瘍	件数	10	0	30	0	0	30	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	83
		シェア率	12.0%	0.0%	36.1%	0.0%	0.0%	36.1%	0.0%	0.0%	15.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	件数	17	0	47	16	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125
		シェア率	13.6%	0.0%	37.6%	12.8%	0.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
110070	膀胱腫瘍	件数	82	0	129	100	0	232	22	12	41	20	0	0	0	0	18	0	0	656
		シェア率	12.5%	0.0%	19.7%	15.2%	0.0%	35.4%	3.4%	1.8%	6.3%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	100.0%
110080	前立腺の悪性腫瘍	件数	140	0	308	142	0	587	77	41	82	21	0	0	0	0	146	0	0	1,544
		シェア率	9.1%	0.0%	19.9%	9.2%	0.0%	38.0%	5.0%	2.7%	5.3%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	100.0%
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	件数	23	19	227	34	0	191	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	514
		シェア率	4.5%	3.7%	44.2%	6.6%	0.0%	37.2%	0.0%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
130010	急性白血病	件数	107	0	84	0	0	12	0	0	0	0	13	0	0	0	17	0	0	233
		シェア率	45.9%	0.0%	36.1%	0.0%	0.0%	5.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.3%	0.0%	0.0%	100.0%
–	主要がん総数	件数	669	516	3,571	1,891	12	3,088	321	478	295	235	27	251	131	32	181	12	26	11,736
		シェア率	5.7%	4.4%	30.4%	16.1%	0.1%	26.3%	2.7%	4.1%	2.5%	2.0%	0.2%	2.1%	1.1%	0.3%	1.5%	0.1%	0.2%	100.0%

出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑦患者住所地別の受診状況(糖尿病)

- ✓ 糖尿病での各区の入院患者の受療動向は以下のとおりで、市内の入院患者の多くが中央区に集中しており、市内完結率も高い。
- ✓ 市外流出率は全市では概ね20%程度で二次医療圏の一般的な水準の範囲内にあるが、区別にみると花見川区の市外流出率が高い傾向にある。

2017年度　糖尿病入院医療機関別　延患者数

→入院先 ↓患者住所地	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	市外	総計
中央区	2,711	375	83	41	275	123	21	3	293	3,547
	76.4%	10.6%	2.3%	1.2%	7.8%	3.5%	0.6%	0.1%	8.3%	100.0%
花見川区	623	52	683	376	139	97	211	139	858	2,987
	20.9%	1.7%	22.9%	12.6%	4.7%	3.2%	7.1%	4.7%	28.7%	100.0%
稲毛区	1,169	247	185	246	130	64	116	53	501	2,411
	48.5%	10.2%	7.7%	10.2%	5.4%	2.7%	4.8%	2.2%	20.8%	100.0%
若葉区	1,103	182	111	246	1,027	127	42	15	510	3,166
	34.8%	5.7%	3.5%	7.8%	32.4%	4.0%	1.3%	0.5%	16.1%	100.0%
緑区	997	291	35	81	432	166	31	8	528	2,270
	43.9%	12.8%	1.5%	3.6%	19.0%	7.3%	1.4%	0.4%	23.3%	100.0%
美浜区	933	72	138	179	94	61	321	169	447	2,173
	42.9%	3.3%	6.4%	8.2%	4.3%	2.8%	14.8%	7.8%	20.6%	100.0%
総計	7,536	1,219	1,235	1,169	2,097	638	742	387	3,137	16,554
	45.5%	7.4%	7.5%	7.1%	12.7%	3.9%	4.5%	2.3%	19.0%	100.0%

KDB医療レセプト管理データの都合上、上記分析は75歳以下の患者に対しての動向となっており、後期高齢者の動向は含まれない。
2017年度では国保全被保険者数は214, 301名となっている。(2017年10月時点の千葉市の人口に対して約22%)

出典：KDB（2017年度）より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑦MDC（主要診断群）別シェア（糖尿病）

✓ 糖尿病については国立病院機構千葉東病院、青葉病院、千葉中央メディカルセンターが特に患者を受け入れている状況となっている。海浜病院については二型糖尿病について一定の患者を受け入れている状況にある。

施設名	施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	独立行政法人国立病院機構千葉東病院	医療法人社団翠明会山王病院	医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	医療法人社団創進会みつわ台総合病院	医療法人社団普照会井上記念病院	医療法人柏葉会柏戸病院	合計
施設所在地	施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	稲毛区	若葉区	若葉区	中央区	中央区	
DPC対象病	DPC対象病床数		316床	287床	752床	410床	152床	285床	212床	205床	113床	78床	4,199床
100060	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	件数	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	16
		シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
100061	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
100070	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	件数	44	25	45	24	81	10	18	0	43	15	305
		シェア率	14.4%	8.2%	14.8%	7.9%	26.6%	3.3%	5.9%	0.0%	14.1%	4.9%	100.0%
100071	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	件数	42	18	32	30	13	0	76	0	0	10	221
		シェア率	19.0%	8.1%	14.5%	13.6%	5.9%	0.0%	34.4%	0.0%	0.0%	4.5%	100.0%
100080	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全なし。）	件数	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	20
		シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
100081	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）（末梢循環不全あり。）	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
100100	糖尿病足病変	件数	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
		シェア率	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
－	総数	件数	99	43	77	54	110	10	94	20	43	25	575
		シェア率	17.2%	7.5%	13.4%	9.4%	19.1%	1.7%	16.3%	3.5%	7.5%	4.3%	100.0%

出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑧患者住所地別の受診状況(循環器系)

- ✓ 循環器系での各区の入院患者の受療動向は以下のとおりで、市内の入院患者の多くは中央区へ集中している。
- ✓ 市外流出率は全市では概ね20%程度で二次医療圏の一般的な水準の範囲内にあるが、区別にみると花見川区の市外流出率が高い傾向にある。

2017年度　循環器系入院医療機関別　延患者数

→入院先 ↓患者住所地	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	市外	総計
中央区	8,889	771	185	272	1,392	993	143	20	2,100	13,974
	63.6%	5.5%	1.3%	1.9%	10.0%	7.1%	1.0%	0.1%	15.0%	100.0%
花見川区	2,960	223	2,004	1,452	363	467	749	284	4,525	12,520
	23.6%	1.8%	16.0%	11.6%	2.9%	3.7%	6.0%	2.3%	36.1%	100.0%
稲毛区	3,624	147	325	1,823	1,452	228	299	71	2,127	9,878
	36.7%	1.5%	3.3%	18.5%	14.7%	2.3%	3.0%	0.7%	21.5%	100.0%
若葉区	4,500	465	223	1,187	4,412	406	123	0	2,435	13,286
	33.9%	3.5%	1.7%	8.9%	33.2%	3.1%	0.9%	0.0%	18.3%	100.0%
緑区	3,316	330	215	203	816	1,256	85	10	1,250	7,141
	46.4%	4.6%	3.0%	2.8%	11.4%	17.6%	1.2%	0.1%	17.5%	100.0%
美浜区	3,936	205	784	695	439	169	1,083	690	2,281	9,387
	41.9%	2.2%	8.4%	7.4%	4.7%	1.8%	11.5%	7.4%	24.3%	100.0%
総計	27,225	2,141	3,736	5,632	8,874	3,519	2,482	1,075	14,718	66,186
	41.1%	3.2%	5.6%	8.5%	13.4%	5.3%	3.8%	1.6%	22.2%	100.0%

KDB医療レセプト管理データの都合上、上記分析は75歳以下の患者に対しての動向となっており、後期高齢者の動向は含まれない。
2017年度では国保全被保険者数は214, 301名となっている。(2017年10月時点の千葉市の人口に対して約22%)

出典：KDB（2017年度）より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑨MDC（主要診断群）別シェア（神経・循環器系疾患）

- ✓ MDC01神経系疾患、05循環器系疾患の主要疾患について、千葉医療圏の各医療機関での診療状況は以下となっている。
- ✓ 脳梗塞等処置を伴う疾患については、千葉脳神経外科病院、千葉メディカルセンター、千葉大学医学部附属病院等で件数が多い状況にある。

施設名	施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	千葉県がんセンター	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	医療法人社団翠明会山王病院	医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	医療法人社団創進会みつわ台総合病院	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院	医療法人社団普照会井上記念病院	医療法人社団有相会最成病院	千葉県救急医療センター	社会医療法人社団健脳会千葉脳神経外科病院	医療法人柏葉会柏戸病院	医療法人社団淳英会おゆみの中央病院	医療法人社団晴山会平山病院	合計
施設所在	施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	中央区	稲毛区	若葉区	若葉区	中央区	中央区	花見川区	美浜区	稲毛区	中央区	緑区	花見川区	–
DPC対象	DPC対象病床数		316床	287床	752床	410床	316床	315床	285床	212床	205床	160床	113床	100床	100床	97床	78床	50床	47床	3,843床
010010	脳腫瘍	件数	0	0	97	25	133	21	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	294
		シェア率	0.0%	0.0%	33.0%	8.5%	45.2%	7.1%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	件数	0	0	0	0	0	11	0	13	0	0	0	0	56	58	0	0	0	138
		シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.6%	42.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	件数	0	0	16	63	0	28	0	45	10	0	0	0	51	178	0	0	0	393
		シェア率	0.0%	0.0%	4.1%	16.0%	0.0%	7.1%	0.0%	11.5%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	13.5%	45.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
010050	非外傷性硬膜下血腫	件数	0	0	0	0	0	24	0	0	10	0	0	0	18	0	0	0	0	52
		シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	46.2%	0.0%	0.0%	19.2%	0.0%	0.0%	0.0%	34.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
010060	脳梗塞	件数	36	11	37	184	0	176	66	178	55	0	0	15	51	739	34	0	0	1,582
		シェア率	2.3%	0.7%	2.3%	11.6%	0.0%	11.1%	4.2%	11.3%	3.5%	0.0%	0.0%	0.9%	3.2%	46.7%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
–	その他の循環器系疾患（上掲以外のMDC01件数）	件数	85	150	769	216	44	303	20	178	40	17	17	-1	98	191	63	16	27	2,233
		シェア率	3.8%	6.7%	34.4%	9.7%	2.0%	13.6%	0.9%	8.0%	1.8%	0.8%	0.8%	0.0%	4.4%	8.6%	2.8%	0.7%	1.2%	100.0%
–	MDC01総数	件数	121	161	919	488	177	563	86	432	115	17	17	14	276	1,166	97	16	27	4,692
		シェア率	2.6%	3.4%	19.6%	10.4%	3.8%	12.0%	1.8%	9.2%	2.5%	0.4%	0.4%	0.3%	5.9%	24.9%	2.1%	0.3%	0.6%	100.0%

施設名	施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	千葉県がんセンター	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	医療法人社団翠明会山王病院	医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	医療法人社団創進会みつわ台総合病院	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院	医療法人社団普照会井上記念病院	医療法人社団有相会最成病院	千葉県救急医療センター	社会医療法人社団健脳会千葉脳神経外科病院	医療法人柏葉会柏戸病院	医療法人社団淳英会おゆみの中央病院	医療法人社団晴山会平山病院	合計
施設所在地	施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	中央区	稲毛区	若葉区	若葉区	中央区	中央区	花見川区	美浜区	稲毛区	中央区	緑区	花見川区	–
DPC対象病床数	DPC対象病床数		316床	287床	752床	410床	316床	315床	285床	212床	205床	160床	113床	100床	100床	97床	78床	50床	47床	3,843床
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	件数	145	349	554	243	0	1,378	21	285	31	198	0	0	102	0	17	15	0	3,338
		シェア率	4.3%	10.5%	16.6%	7.3%	0.0%	41.3%	0.6%	8.5%	0.9%	5.9%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.5%	0.4%	0.0%	100.0%
050070	頻脈性不整脈	件数	18	0	235	12	0	39	0	0	0	18	0	0	86	0	12	0	0	420
		シェア率	4.3%	0.0%	56.0%	2.9%	0.0%	9.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	20.5%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	100.0%
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。）	件数	13	0	121	0	0	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	221
		シェア率	5.9%	0.0%	54.8%	0.0%	0.0%	39.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
050161	解離性大動脈瘤	件数	0	0	20	0	0	69	0	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	130
		シェア率	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	53.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	件数	0	12	87	15	0	87	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	211
		シェア率	0.0%	5.7%	41.2%	7.1%	0.0%	41.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
050210	徐脈性不整脈	件数	46	31	104	20	0	52	0	15	14	21	0	14	40	0	0	0	0	357
		シェア率	12.9%	8.7%	29.1%	5.6%	0.0%	14.6%	0.0%	4.2%	3.9%	5.9%	0.0%	3.9%	11.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
–	その他の循環器系疾患（上掲以外のMDC05件数）	件数	260	88	784	157	14	853	297	230	159	146	40	54	381	0	69	30	31	3,593
		シェア率	7.2%	2.4%	21.8%	4.4%	0.4%	23.7%	8.3%	6.4%	4.4%	4.1%	1.1%	1.5%	10.6%	0.0%	1.9%	0.8%	0.9%	100.0%
–	MDC05総数	件数	482	480	1,905	447	14	2,565	318	530	204	383	40	68	660	0	98	45	31	8,270
		シェア率	5.8%	5.8%	23.0%	5.4%	0.2%	31.0%	3.8%	6.4%	2.5%	4.6%	0.5%	0.8%	8.0%	0.0%	1.2%	0.5%	0.4%	100.0%

出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（６）受療動向　⑩脳卒中、急性心筋梗塞等の急性期の治療の対応状況

✓ 短時間での治療開始が求められる処置に対応している医療機関、外科的治療に対応できる医療機関は、以下となっている。

脳卒中の急性期対応医療機関（千葉医療圏）　●…24時間対応している　○…24時間ではないが対応している

医療機関名	脳梗塞					脳内出血	くも膜下出血	
	発症後4.5時間以内のt-PAを用いた経静脈的血栓溶解療法	経皮的脳血栓回収術	開頭手術（バイパス手術、脳血管塞栓摘出術等	経皮的脳血管形成術（バルーン、ステント等）	内頸動脈内膜剥離術（CEA）	脳内血腫除去術	脳血管内手術（コイル塞栓術等）	脳動脈瘤クリッピング、脳動脈瘤被包術
千葉県救急医療センター【三次救急】	●	●	●	●	●	●	●	●
千葉大学医学部附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●
独立行政法人国立病院機構　千葉医療センター	●			○			○	○
千葉県がんセンター						●		
医療法人社団誠馨会　千葉中央メディカルセンター	●		●		●	●	○	●
社会医療法人社団健脳会　千葉脳神経外科病院	●	●	●	●	●	●	●	●
医療法人社団誠馨会　千葉メディカルセンター	●	●	●	●	●	●	●	●
医療法人社団創進会　みつわ台総合病院	○					○	○	○
医療法人社団親月会千葉中央外科内科	○							
	緊急性・高							

心筋梗塞等の心血管疾患の急性期対応医療機関（千葉医療圏）　◆…外科的治療（冠動脈インターベンション治療を含む）に対応

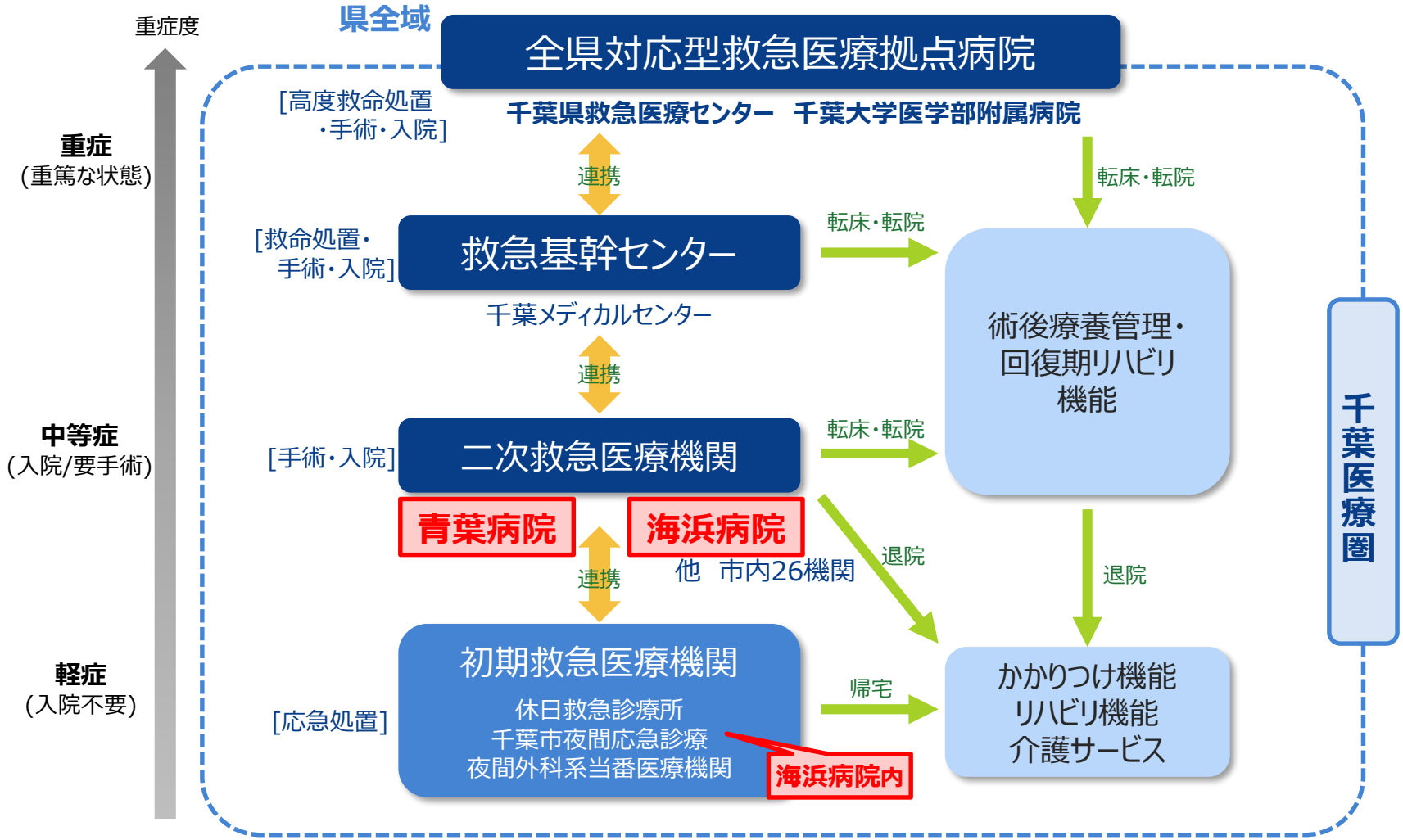
医療機関名	急性心筋梗塞	急性大動脈解離	急性心不全
千葉県救急医療センター【三次救急】	◆	◆	◆
千葉大学医学部附属病院	◆	◆	◆
独立行政法人国立病院機構　千葉医療センター	◆	◆	
千葉市立青葉病院	◆		
千葉市立海浜病院	◆		◆
医療法人社団誠馨会　千葉中央メディカルセンター	◆		◆
医療法人社団誠馨会　千葉メディカルセンター	◆	◆	◆
医療法人社団翠明会　山王病院		◆	

出典：H29　千葉県　医療機能調査(千葉県保健医療計画改定に関する調査)より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　①現状の体制

✓ 青葉病院、海浜病院は二次救急医療機関として、救急の中等症に対応している。三次救急医療機関としては、全県対応型の県救急医療センター、千葉大学医学部附属病院、医療圏内対応型の千葉メディカルセンターが千葉市内に配置されている。また、夜間の内科・小児科の初期診療を行うため、医師会の協力を得ながら海浜病院内に夜間応急診療所を開設している。

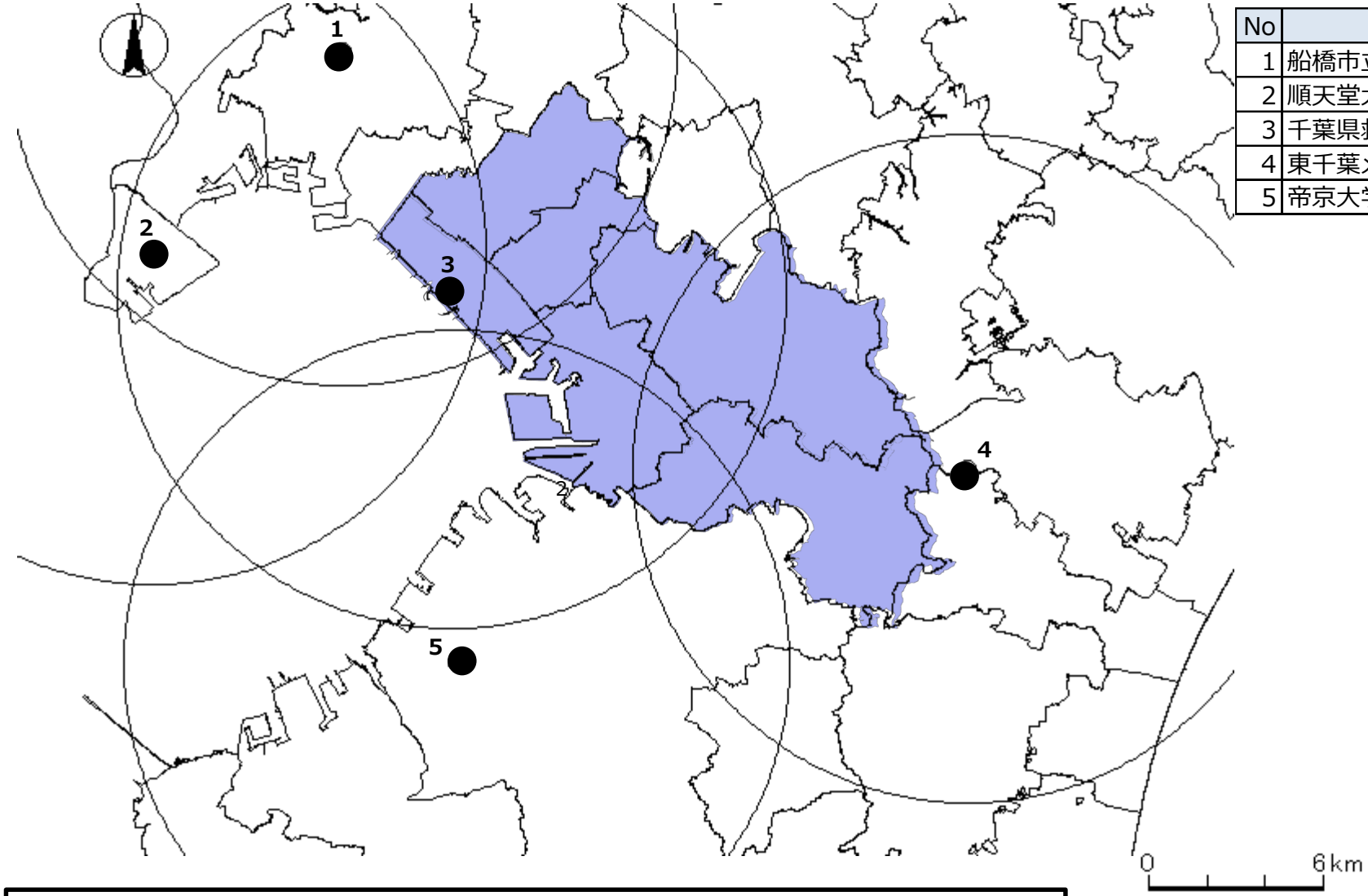
◆千葉市(千葉医療圏）における救急医療の循環型地域医療連携システム



出典：千葉県「保健医療計画」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　②救命救急センターの配置状況

✓　千葉市は全域において、千葉県救急医療センターをはじめとする各救命救急センターへ３０分で搬送可能な状況にある。



No	施設名
1	船橋市立医療センター
2	順天堂大学医学部附属浦安病院
3	千葉県救急医療センター
4	東千葉メディカルセンター
5	帝京大学ちば総合医療センター

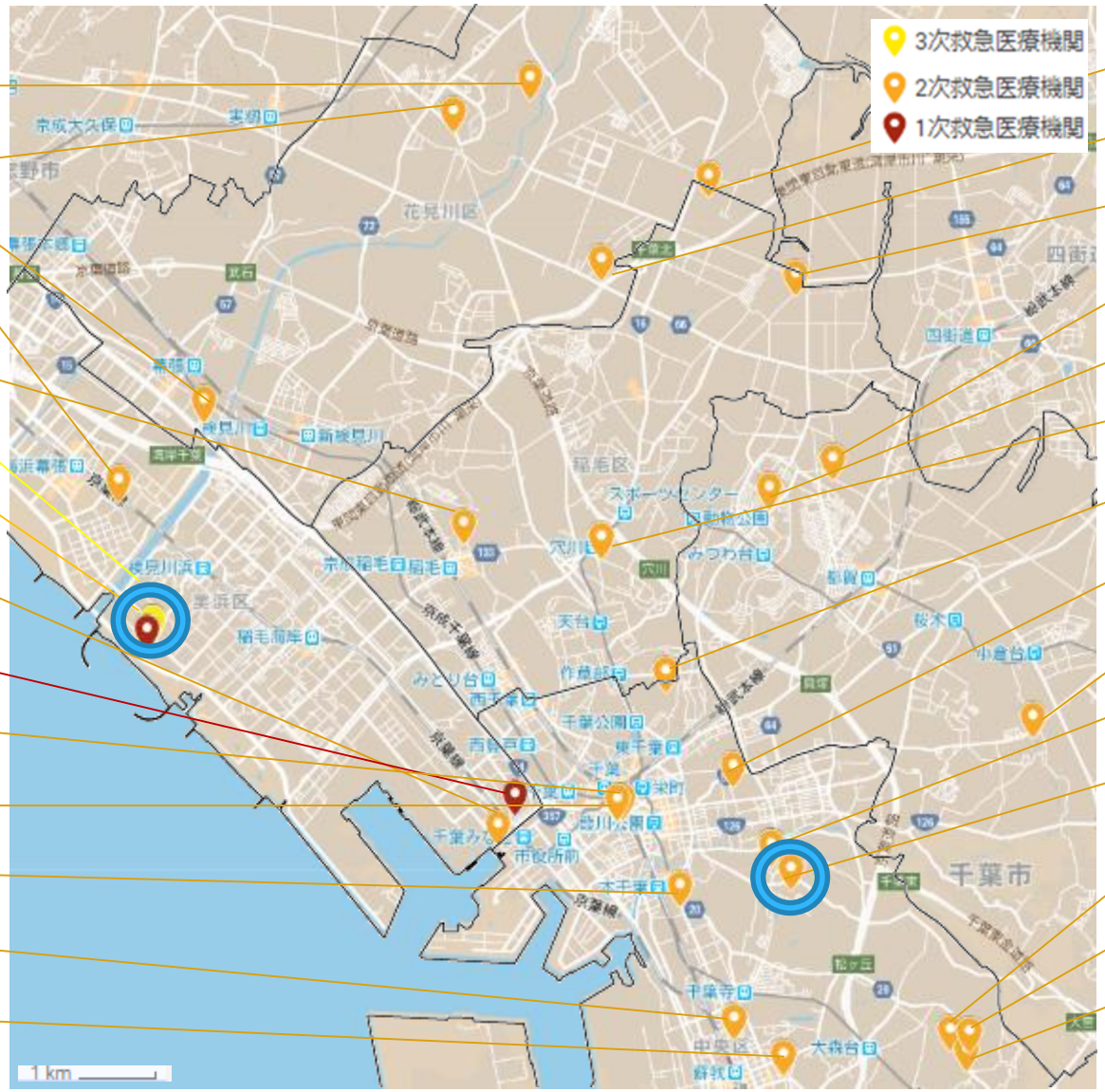
各救急救命センターから30分以内で移動可能(半径15キロ)範囲を表記

出典：千葉県「救命救急センター一覧」より作成、地図データ©2018google,ZENRIN

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　③救急病院の配置状況

✓ 千葉医療圏の救急医療機関の配置状況は以下となっている。中央区、若葉区の医療機関が多い状況にある。

- 最成病院 病床数：232床
- 平山病院 病床数：166床
- 千葉健生病院 病床数：166床
- みはま病院 病床数：50床
- 一般稲毛病院 病床数：180床
- 千葉県救急医療センター 病床数：100床
- **千葉市立海浜病院(千葉市夜間応急診療)**病床数：293床
- 千葉みなと病院 病床数：96床
- 千葉市休日救急診療所
- 三愛記念病院 病床数：130床
- 井上記念病院 病床数：176床
- 柏戸病院 病床数：170床
- 千葉メディカルセンター 病床数：315床
- 三愛記念そが病院 病床数：130床



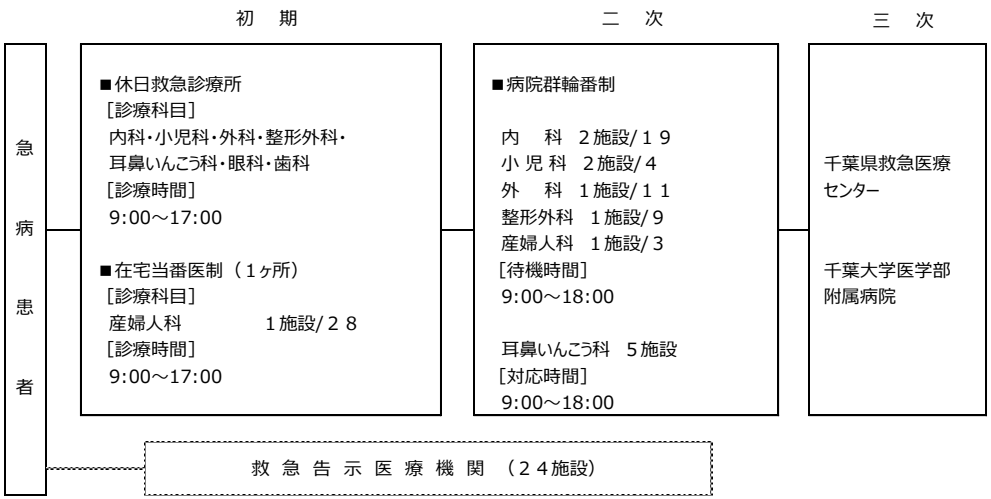
- 千葉脳神経外科病院 病床数：97床
- 幸有会記念病院 病床数：122床
- 山王病院 病床数：318床
- みつわ台総合病院 病床数：261床
- 梶田医院 病床数：19床
- 千葉中央外科内科 病床数：19床
- 国立病院機構千葉医療センター 病床数：455床
- 斎藤労災病院 病床数：92床
- 千葉中央メディカルセンター 病床数：272床
- 千葉大学医学部附属病院 病床数：850床
- **千葉市立青葉病院** 病床数：380床
- 国立病院機構千葉東病院 病床数：470床
- 地域医療機能推進機構千葉病院 病床数：199床
- 千葉県がんセンター 病床数：341床

出典：千葉県「救命救急医療機関一覧」より作成、地図データ©2018google,ZENRIN

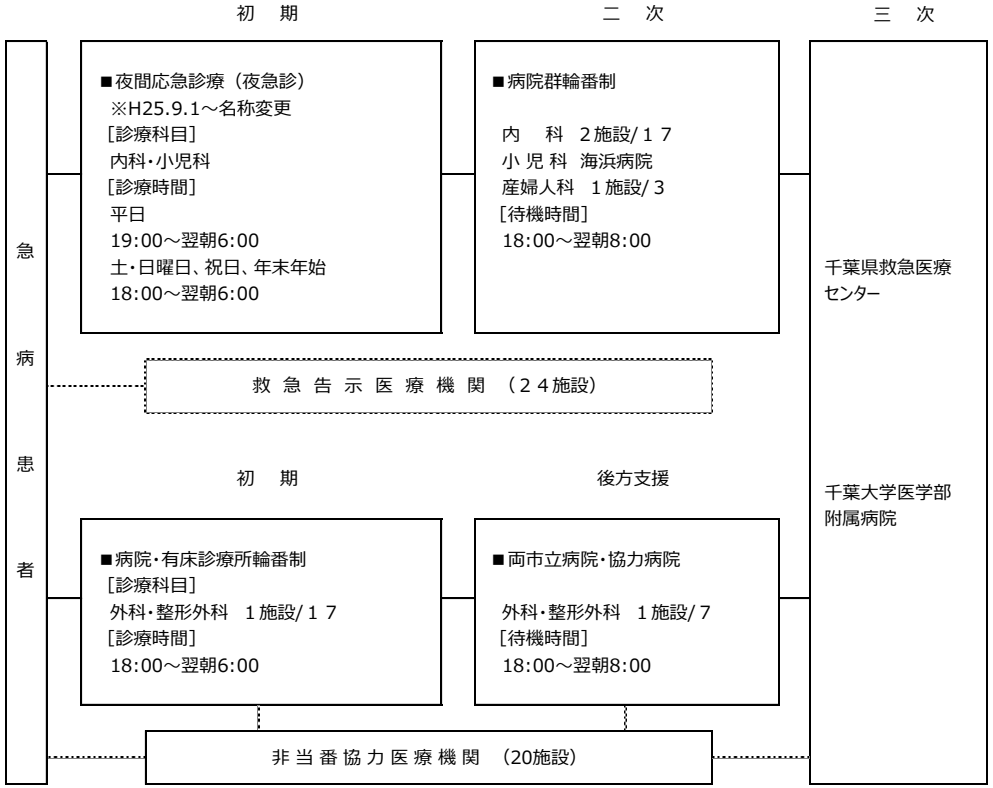
1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　④千葉市の救急医療体制

✓　千葉市の救急医療体制は以下のとおりで、両市立病院は初期診療の後方支援医療機関としての機能を果たしている。

○ 休日の昼間　　※表中の分数表示…分母は参加協力医療機関数、分子は当番病院数



○ 夜　間



（救急告示医療機関等）

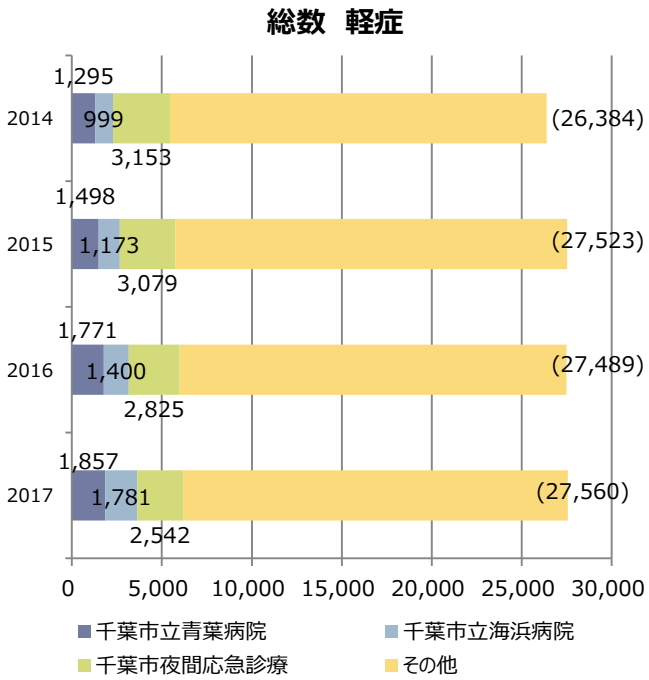
平成29年度　夜間・休日　内科二次輪番の状況

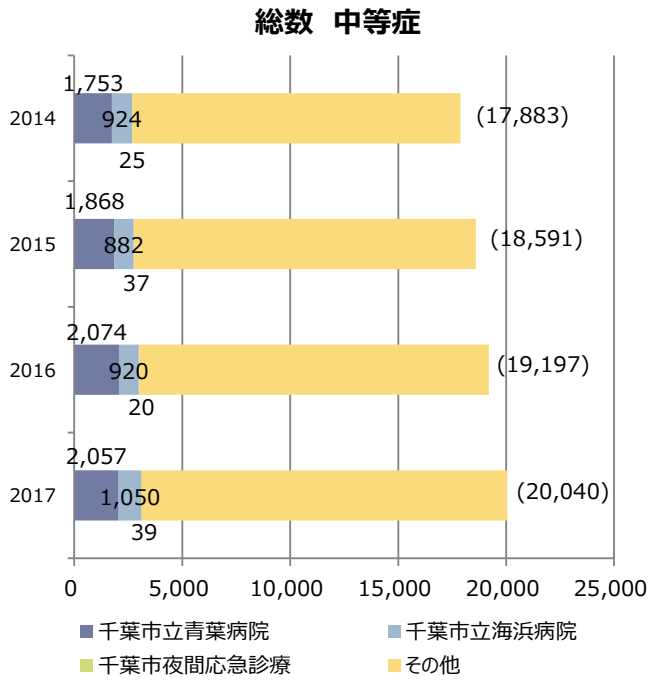
医療機関名	夜間（回）	休日（回）
千葉市立青葉病院	198	12
千葉市立海浜病院	52	12
その他の病院（18か所）	480	120
合計	730	144
市立病院の輪番回数の割合	34%	17%

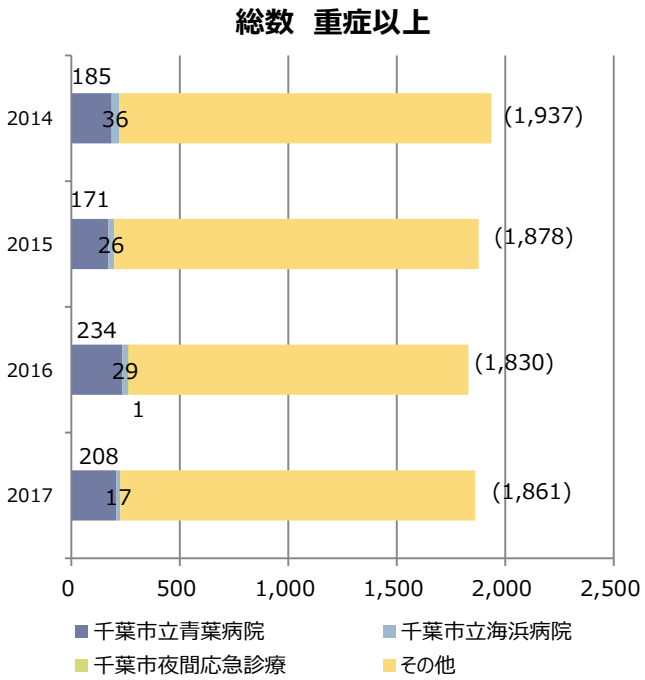
出典：2018年度千葉市救急医療体制図より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑤救急搬送件数の状況（重症度別）

✓ 救急搬送件数は2014年度から2017年度にかけて増加傾向にあり、特に、中等症の件数が増加している。



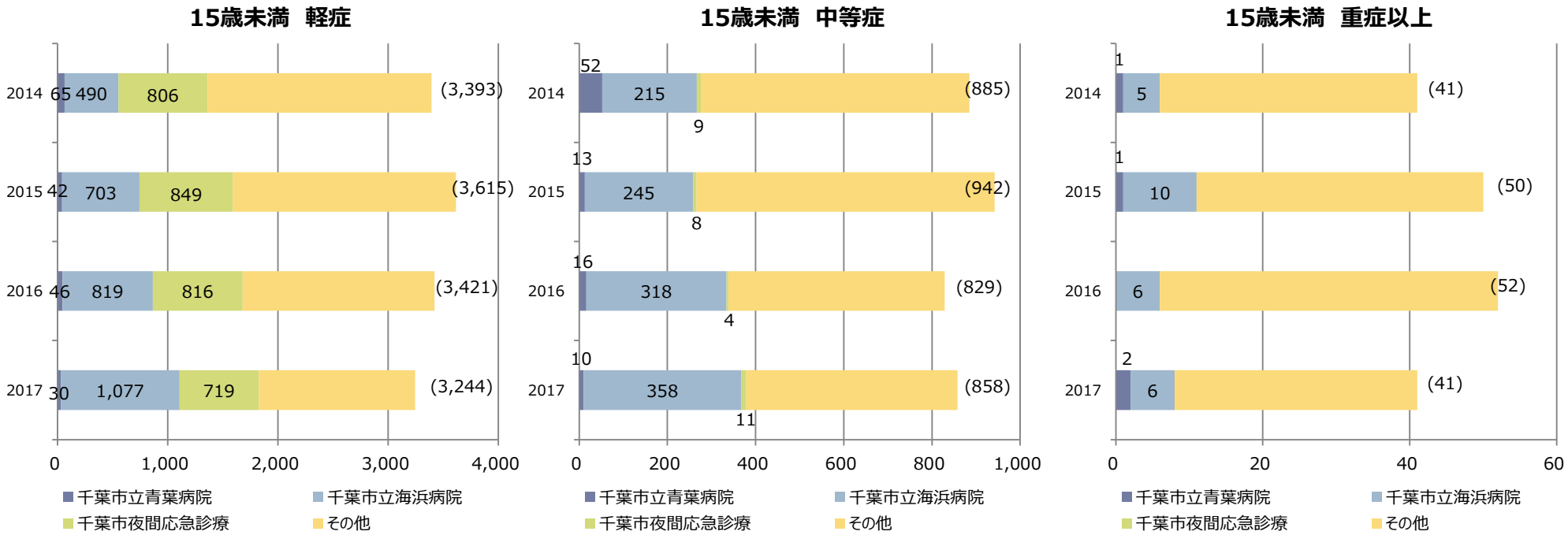




出典：2014～2017年度千葉市救急搬送データより作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑤救急搬送件数の状況（重症度別）

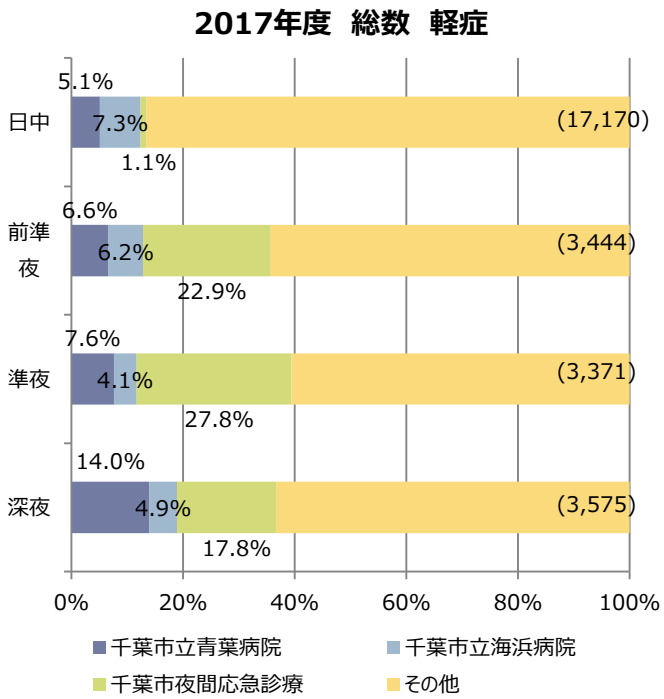
- ✓ 15歳未満の救急搬送件数は2015年度をピークに減少傾向にあり、特に軽症の件数が減少している。
- ✓ 一方で、海浜病院への搬送件数は軽症、中等症を中心に増加傾向にある。

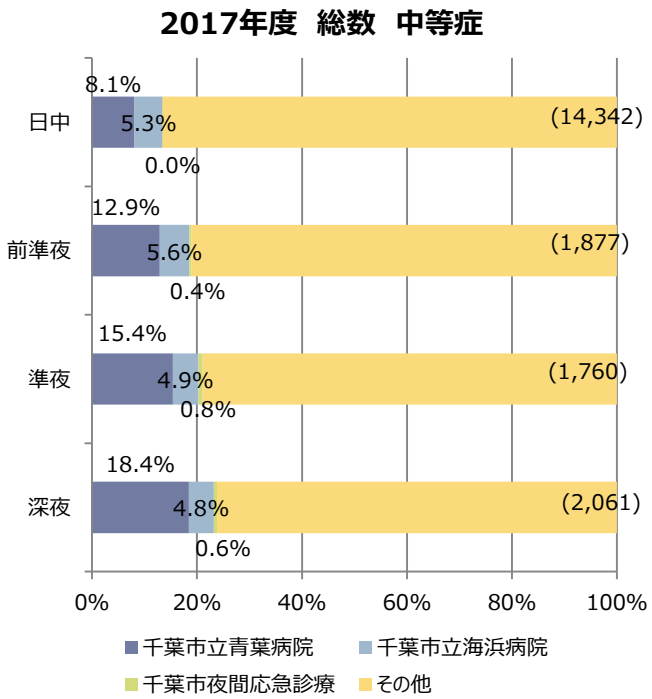


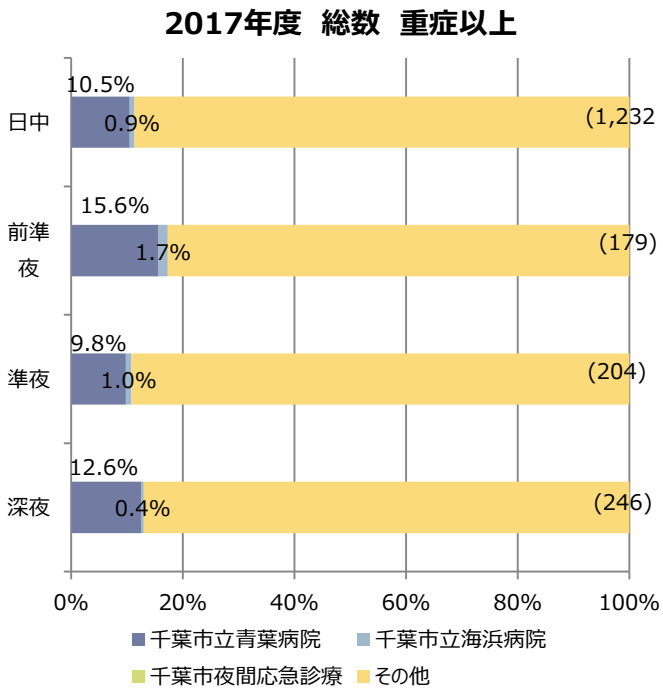
出典：2014～2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑤救急搬送件数の状況（重症度・時間帯別）

✓ 時間帯別の搬送件数は、全症例合計で日中が約32,700件、前準夜帯、準夜帯、深夜帯がそれぞれ5,500件前後となっている。両市立病院及び夜急診の受け入れシェアは、軽症・中等症の準夜帯、深夜帯で高くなっており、日中以外の時間帯での救急搬送が集中している状況にある。







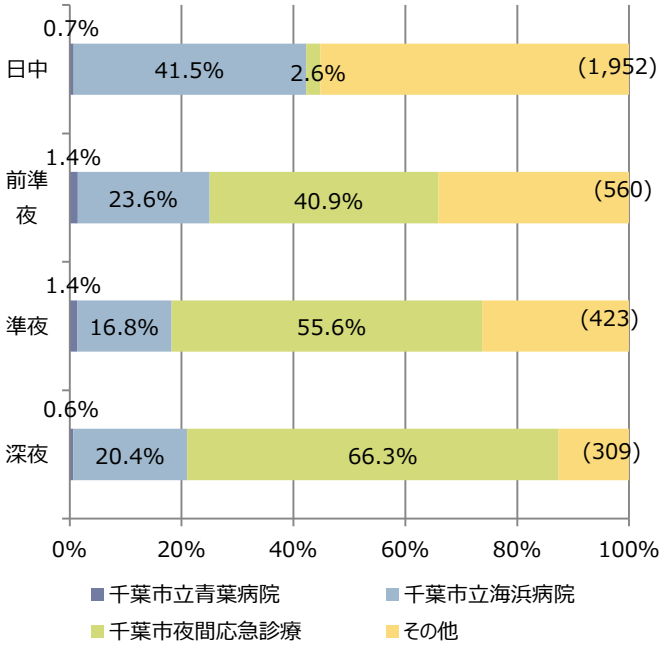
注)日中　：平日6～19時、休日6～18時
前準夜：平日19～21時、休日18～21時
準夜　：平日休日21～24時
深夜　：平日休日24～6時
の区分で集計

出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

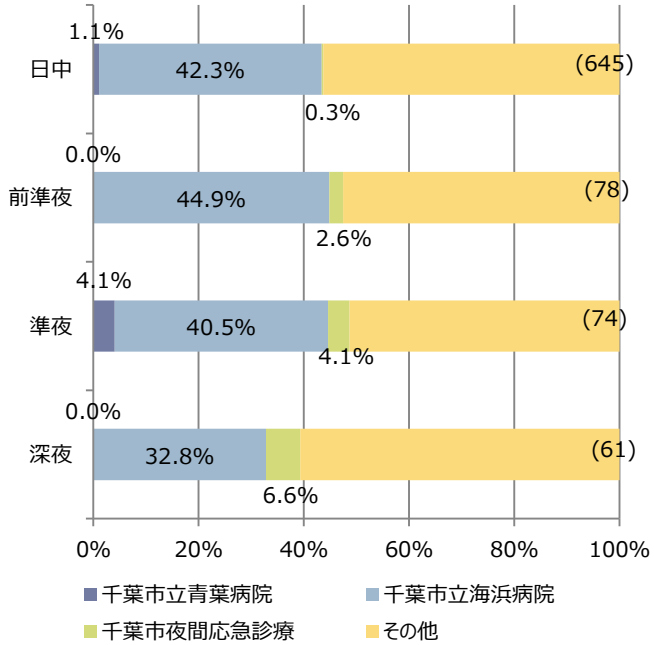
1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑤救急搬送件数の状況（重症度・時間帯別）

- ✓ 15歳未満の救急搬送件数は日中が最も多く深夜帯は少なくなる傾向にある。
- ✓ 一方で、両市立病院及び夜間応急診療（夜急診）のシェアは軽症を中心に前準夜帯以降で高くなる傾向にあり、前準夜帯以降の軽症患者の半数以上を夜急診で受け入れている状況にある。

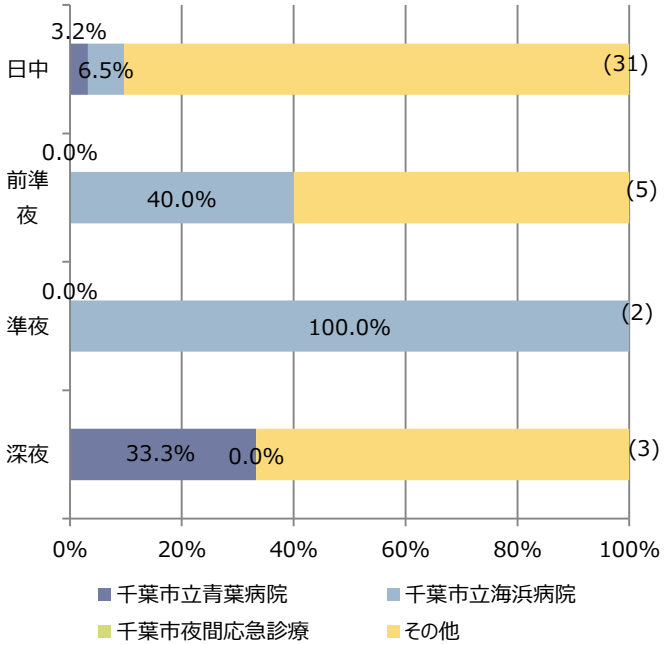
2017年度　15歳未満　軽症



2017年度　15歳未満　中等症



2017年度　15歳未満　重症以上



出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑤救急搬送件数の状況（MDC別）

✓ MDC別救急搬送の状況は以下のとおりで、外傷系、消化器系、循環器系疾患の搬送件数が多い状況となっている。また、眼科系、耳鼻咽喉科系、新生児疾患の増加率が高い傾向にある。

◆MDC別救急搬送件数の推移（2014-2017年度）

MDC別	2014	2015	2016	2017	2014－2015 増減率	2015－2016 増減率	2016－2017 増減率	増減率平均
神経系疾患	1,930	2,060	2,132	2,107	6.7%	3.5%	▲1.2%	3.0%
眼科系疾患	60	83	110	106	38.3%	32.5%	▲3.6%	22.4%
耳鼻咽喉科系疾患	423	499	529	602	18.0%	6.0%	13.8%	12.6%
呼吸器系疾患	4,492	4,671	4,742	4,819	4.0%	1.5%	1.6%	2.4%
循環器系疾患	5,339	5,512	5,711	5,488	3.2%	3.6%	▲3.9%	1.0%
消化器系疾患	6,616	6,851	6,907	6,907	3.6%	0.8%	0.0%	1.5%
筋骨格系疾患	1,205	1,218	1,495	1,481	1.1%	22.7%	▲0.9%	7.6%
皮膚・皮下組織の疾患	194	227	304	246	17.0%	33.9%	▲19.1%	10.6%
乳房の疾患	32	22	34	25	▲31.3%	54.5%	▲26.5%	▲1.1%
内分泌・栄養・代謝に関する疾患	473	409	432	388	▲13.5%	5.6%	▲10.2%	▲6.0%
腎・尿路系疾患	1,259	1,217	1,410	1,321	▲3.3%	15.9%	-6.3%	2.1%
女性生殖器系疾患	431	419	454	478	▲2.8%	8.4%	5.3%	3.6%
血液・造血器・免疫臓器の疾患	420	432	498	518	2.9%	15.3%	4.0%	7.4%
新生児疾患、先天性奇形	39	44	70	60	12.8%	59.1%	▲14.3%	19.2%
小児疾患	698	775	762	841	11.0%	▲1.7%	10.4%	6.6%
外傷・熱傷・中毒	13,871	13,894	12,682	13,292	0.2%	▲8.7%	4.8%	▲1.2%
精神疾患	470	470	433	408	0.0%	▲7.9%	▲5.8%	▲4.5%
その他の疾患	2,761	3,171	3,288	3,441	14.8%	3.7%	4.7%	7.7%
不明	5,505	6,025	6,537	6,945	9.4%	8.5%	6.2%	8.1%
総計	46,218	47,999	48,530	49,473	3.9%	1.1%	1.9%	2.3%

出典：2014～2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑥区別搬送状況(年齢3階級別推移)

✓ 区別の年齢3階級別の救急搬送件数の推移は以下のとおりで、総数は若葉区、中央区、緑区の順で増加率が高い状況である。

◆区別救急搬送件数の推移（2014-2017年度）

区別		2014	2015	2016	2017	2014－2015 増減率	2015－2016 増減率	2016－2017 増減率	増減率平均
中央区	総数	11,748	12,408	12,645	12,689	5.6%	1.9%	0.3%	2.6%
（内訳）	15歳未満	849	940	940	857	10.7%	0.0%	▲8.8%	0.6%
	15-64歳	5,263	5,628	5,639	5,453	6.9%	0.2%	▲3.3%	1.3%
	65歳以上	5,636	5,840	6,066	6,379	3.6%	3.9%	5.2%	4.2%
花見川区	総数	8,056	8,079	8,362	8,508	0.3%	3.5%	1.7%	1.8%
（内訳）	15歳未満	713	688	690	632	▲3.5%	0.3%	▲8.4%	▲3.9%
	15-64歳	2,660	2,611	2,673	2,707	▲1.8%	2.4%	1.3%	0.6%
	65歳以上	4,683	4,780	4,999	5,169	2.1%	4.6%	3.4%	3.4%
稲毛区	総数	6,824	7,038	6,893	7,268	3.1%	▲2.1%	5.4%	2.2%
（内訳）	15歳未満	657	662	595	572	0.8%	▲10.1%	▲3.9%	▲4.4%
	15-64歳	2,614	2,650	2,454	2,616	1.4%	▲7.4%	6.6%	0.2%
	65歳以上	3,553	3,726	3,844	4,080	4.9%	3.2%	6.1%	4.7%
若葉区	総数	7,140	7,395	7,626	7,894	3.6%	3.1%	3.5%	3.4%
（内訳）	15歳未満	569	636	607	587	11.8%	▲4.6%	▲3.3%	1.3%
	15-64歳	2,618	2,571	2,715	2,603	▲1.8%	5.6%	▲4.1%	▲0.1%
	65歳以上	3,953	4,188	4,304	4,704	5.9%	2.8%	9.3%	6.0%
緑区	総数	4,871	5,218	5,092	5,230	7.1%	▲2.4%	2.7%	2.5%
（内訳）	15歳未満	603	651	575	630	8.0%	▲11.7%	9.6%	2.0%
	15-64歳	1,802	1,982	1,820	1,844	10.0%	▲8.2%	1.3%	1.0%
	65歳以上	2,466	2,585	2,697	2,756	4.8%	4.3%	2.2%	3.8%
美浜区	総数	7,532	7,803	7,806	7,780	3.6%	0.0%	▲0.3%	1.1%
（内訳）	15歳未満	933	1,028	888	860	10.2%	▲13.6%	▲3.2%	▲2.2%
	15-64歳	3,158	3,191	3,215	3,152	1.0%	0.8%	▲2.0%	▲0.1%
	65歳以上	3,441	3,584	3,703	3,768	4.2%	3.3%	1.8%	3.1%
その他市町村		47	58	106	104	23.4%	82.8%	▲1.9%	34.8%
総計		46,218	47,999	48,530	49,473	3.9%	1.1%	1.9%	2.3%

出典：2014～2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑥区別搬送状況(件数)

- ✓ 発生地区別搬送先の状況、発生地区別収容までの時間は以下となっており、中央区、若葉区、美浜区への搬送割合が高い状況にある。
- ✓ 収容までの平均時間は差はあるもののいずれの区からもおおよそ40分台となっている。

◆上：発生地区別搬送先別患者数、下：発生地区別収容までの時間（2017年度）

2017年度全体　→搬送先

↓発生地区	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	うち夜急診	市外	計
中央区	7,699	1,590	125	255	1,968	246	1,705	395	674	691	12,689
	60.7%	12.5%	1.0%	2.0%	15.5%	1.9%	13.4%	3.1%	5.3%	5.4%	100.0%
花見川区	1,423	471	1,638	831	964	17	1,764	694	448	1,870	8,507
	16.7%	5.5%	19.3%	9.8%	11.3%	0.2%	20.7%	8.2%	5.3%	22.0%	100.0%
稲毛区	2,175	480	305	1,389	1,524	35	1,326	440	422	514	7,268
	29.9%	6.6%	4.2%	19.1%	21.0%	0.5%	18.2%	6.1%	5.8%	7.1%	100.0%
若葉区	1,858	435	32	183	3,751	107	660	199	241	1,303	7,894
	23.5%	5.5%	0.4%	2.3%	47.5%	1.4%	8.4%	2.5%	3.1%	16.5%	100.0%
緑区	2,183	537	30	57	824	815	576	116	277	745	5,230
	41.7%	10.3%	0.6%	1.1%	15.8%	15.6%	11.0%	2.2%	5.3%	14.2%	100.0%
美浜区	2,358	605	439	518	807	70	2,579	1,004	520	1,008	7,779
	30.3%	7.8%	5.6%	6.7%	10.4%	0.9%	33.2%	12.9%	6.7%	13.0%	100.0%
市外	19	4	3	5	15	1	6	1	0	55	104
	18.3%	3.8%	2.9%	4.8%	14.4%	1.0%	5.8%	1.0%	0.0%	52.9%	100.0%
計	17,715	4,122	2,572	3,238	9,853	1,291	8,616	2,849	2,582	6,186	49,471
	35.8%	8.3%	5.2%	6.5%	19.9%	2.6%	17.4%	5.8%	5.2%	12.5%	100.0%

※総計57,137件から搬送先不明7,666件を除く

	2017件数				覚知から収容まで	
発生地区	軽症	中等症	重症以上	計	平均	中央
中央区	7,262	4,965	459	12,686	0:41	0:38
花見川区	4,440	3,707	359	8,506	0:45	0:42
稲毛区	4,244	2,762	262	7,268	0:43	0:39
若葉区	4,650	2,948	295	7,893	0:40	0:37
緑区	2,736	2,278	215	5,229	0:49	0:47
美浜区	4,184	3,342	249	7,775	0:44	0:40
市外	44	38	22	104	0:54	0:51

出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑥区別搬送状況(時間帯別)

✓ 時間帯別の発生地区別搬送先の状況は以下となっており、中央区、若葉区、美浜区は日中以外の時間帯で搬送先となる割合が高くなる。

◆時間帯別発生地区別搬送先別患者数（2017年度）

2017年度日中　→搬送先

↓発生地区	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	うち夜急診	市外	計
中央区	5,401	876	70	171	1,177	185	820	250	44	490	8,314
	65.0%	10.5%	0.8%	2.1%	14.2%	2.2%	9.9%	3.0%	0.5%	5.9%	100.0%
花見川区	844	226	1,234	637	610	7	1,019	507	35	1,416	5,767
	14.6%	3.9%	21.4%	11.0%	10.6%	0.1%	17.7%	8.8%	0.6%	24.6%	100.0%
稲毛区	1,471	253	212	1,102	1,036	18	694	300	31	351	4,884
	30.1%	5.2%	4.3%	22.6%	21.2%	0.4%	14.2%	6.1%	0.6%	7.2%	100.0%
若葉区	1,197	238	17	116	2,622	76	316	127	18	854	5,198
	23.0%	4.6%	0.3%	2.2%	50.4%	1.5%	6.1%	2.4%	0.3%	16.4%	100.0%
緑区	1,439	303	12	33	457	688	244	73	20	554	3,427
	42.0%	8.8%	0.4%	1.0%	13.3%	20.1%	7.1%	2.1%	0.6%	16.2%	100.0%
美浜区	1,455	267	320	368	464	49	1,654	770	39	776	5,086
	28.6%	5.2%	6.3%	7.2%	9.1%	1.0%	32.5%	15.1%	0.8%	15.3%	100.0%
市外	14	2	3	3	13	1	3	1	0	40	77
	18.2%	2.6%	3.9%	3.9%	16.9%	1.3%	3.9%	1.3%	0.0%	51.9%	100.0%
計	11,821	2,165	1,868	2,430	6,379	1,024	4,750	2,028	187	4,481	32,753
	36.1%	6.6%	5.7%	7.4%	19.5%	3.1%	14.5%	6.2%	0.6%	13.7%	100.0%

※総計36,937件から搬送先不明4,184件を除く

2017年度前準夜　→搬送先

↓発生地区	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	うち夜急診	市外	計
中央区	724	183	20	28	280	22	297	59	205	62	1,433
	50.5%	12.8%	1.4%	2.0%	19.5%	1.5%	20.7%	4.1%	14.3%	4.3%	100.0%
花見川区	170	60	155	68	117	2	263	66	147	144	919
	18.5%	6.5%	16.9%	7.4%	12.7%	0.2%	28.6%	7.2%	16.0%	15.7%	100.0%
稲毛区	235	69	35	95	170	6	210	54	120	48	799
	29.4%	8.6%	4.4%	11.9%	21.3%	0.8%	26.3%	6.8%	15.0%	6.0%	100.0%
若葉区	196	45	3	28	330	13	118	29	74	138	826
	23.7%	5.4%	0.4%	3.4%	40.0%	1.6%	14.3%	3.5%	9.0%	16.7%	100.0%
緑区	239	54	8	11	128	41	106	14	87	63	596
	40.1%	9.1%	1.3%	1.8%	21.5%	6.9%	17.8%	2.3%	14.6%	10.6%	100.0%
美浜区	282	88	40	54	121	4	325	99	162	91	917
	30.8%	9.6%	4.4%	5.9%	13.2%	0.4%	35.4%	10.8%	17.7%	9.9%	100.0%
市外	0	0	0	1	1	0	0	0	0	8	10
	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	100.0%
計	1,846	499	261	285	1,147	88	1,319	321	795	554	5,500
	33.6%	9.1%	4.7%	5.2%	20.9%	1.6%	24.0%	5.8%	14.5%	10.1%	100.0%

※総計6,464件から搬送先不明964件を除く

出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑥区別搬送状況(時間帯別)

✓ 時間帯別の発生地区別地区別搬送先の状況は以下となっており、中央区、若葉区、美浜区は日中以外の時間帯で搬送先となる割合が高くなる。

◆時間帯別発生地区別搬送先別患者数（2017年度）

2017年度準夜　→搬送先

↓発生地区	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	うち夜急診	市外	計
中央区	657	207	22	26	228	19	326	41	257	72	1,350
	48.7%	15.3%	1.6%	1.9%	16.9%	1.4%	24.1%	3.0%	19.0%	5.3%	100.0%
花見川区	165	71	103	65	115	7	230	47	150	139	824
	20.0%	8.6%	12.5%	7.9%	14.0%	0.8%	27.9%	5.7%	18.2%	16.9%	100.0%
稲毛区	203	47	29	100	150	10	214	39	149	53	759
	26.7%	6.2%	3.8%	13.2%	19.8%	1.3%	28.2%	5.1%	19.6%	7.0%	100.0%
若葉区	198	46	3	23	370	13	130	26	88	143	880
	22.5%	5.2%	0.3%	2.6%	42.0%	1.5%	14.8%	3.0%	10.0%	16.3%	100.0%
緑区	230	65	6	6	118	41	134	11	112	66	601
	38.3%	10.8%	1.0%	1.0%	19.6%	6.8%	22.3%	1.8%	18.6%	11.0%	100.0%
美浜区	291	110	48	50	112	9	334	62	194	69	913
	31.9%	12.0%	5.3%	5.5%	12.3%	1.0%	36.6%	6.8%	21.2%	7.6%	100.0%
市外	3	1	0	0	1	0	1	0	0	4	9
	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	44.4%	100.0%
計	1,747	547	211	270	1,094	99	1,369	226	950	546	5,336
	32.7%	10.3%	4.0%	5.1%	20.5%	1.9%	25.7%	4.2%	17.8%	10.2%	100.0%

※総計6,415件から搬送先不明1,079件を除く

2017年度深夜　→搬送先

↓発生地区	中央区	うち青葉	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	うち海浜	うち夜急診	市外	計
中央区	917	324	13	30	283	20	262	45	168	67	1,592
	57.6%	20.4%	0.8%	1.9%	17.8%	1.3%	16.5%	2.8%	10.6%	4.2%	100.0%
花見川区	244	114	146	61	122	1	252	74	116	171	997
	24.5%	11.4%	14.6%	6.1%	12.2%	0.1%	25.3%	7.4%	11.6%	17.2%	100.0%
稲毛区	266	111	29	92	168	1	208	47	122	62	826
	32.2%	13.4%	3.5%	11.1%	20.3%	0.1%	25.2%	5.7%	14.8%	7.5%	100.0%
若葉区	267	106	9	16	429	5	96	17	61	168	990
	27.0%	10.7%	0.9%	1.6%	43.3%	0.5%	9.7%	1.7%	6.2%	17.0%	100.0%
緑区	275	115	4	7	121	45	92	18	58	62	606
	45.4%	19.0%	0.7%	1.2%	20.0%	7.4%	15.2%	3.0%	9.6%	10.2%	100.0%
美浜区	330	140	31	46	110	8	266	73	125	72	863
	38.2%	16.2%	3.6%	5.3%	12.7%	0.9%	30.8%	8.5%	14.5%	8.3%	100.0%
市外	2	1	0	1	0	0	2	0	0	3	8
	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	37.5%	100.0%
計	2,301	911	232	253	1,233	80	1,178	274	650	605	5,882
	39.1%	15.5%	3.9%	4.3%	21.0%	1.4%	20.0%	4.7%	11.1%	10.3%	100.0%

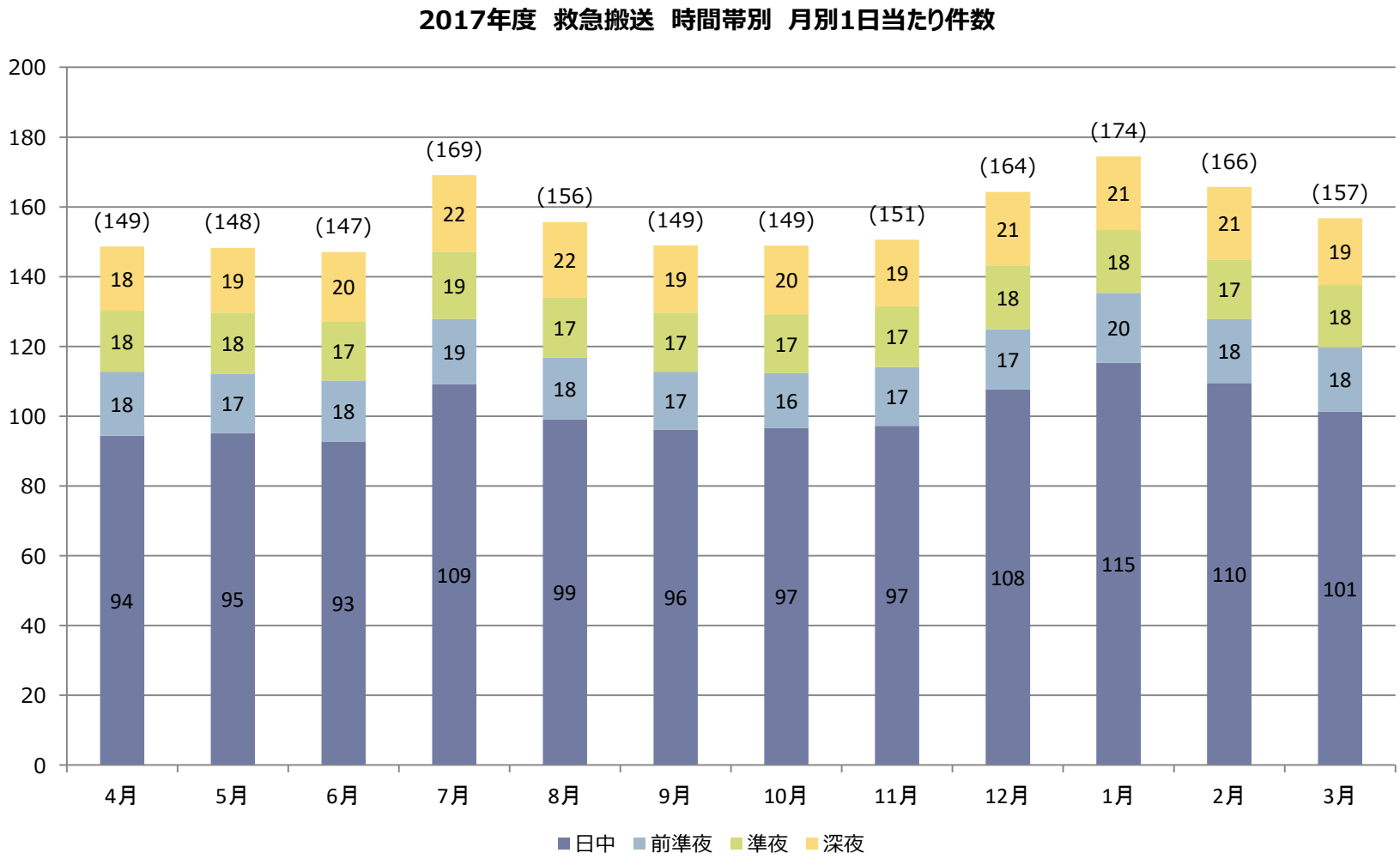
※総計7,321件から搬送先不明1,439件を除く

出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑦月別搬送状況

✓　月別1日当たり搬送件数の状況は以下のとおりで、7月と12~2月がピークとなる傾向にある。

◆月別1日当たり搬送患者数（2017年度）



出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑧市外への搬送状況

✓ 主要な市外搬送先としては四街道市、習志野市の医療機関が多くなっている。MDC領域としては外傷・熱傷・中毒、消化器系、呼吸器系、循環器系の搬送患者が多い状況にある。

◆MDC領域別搬送件数（上：市外主要搬先・下：両市立病院）（2017年度）

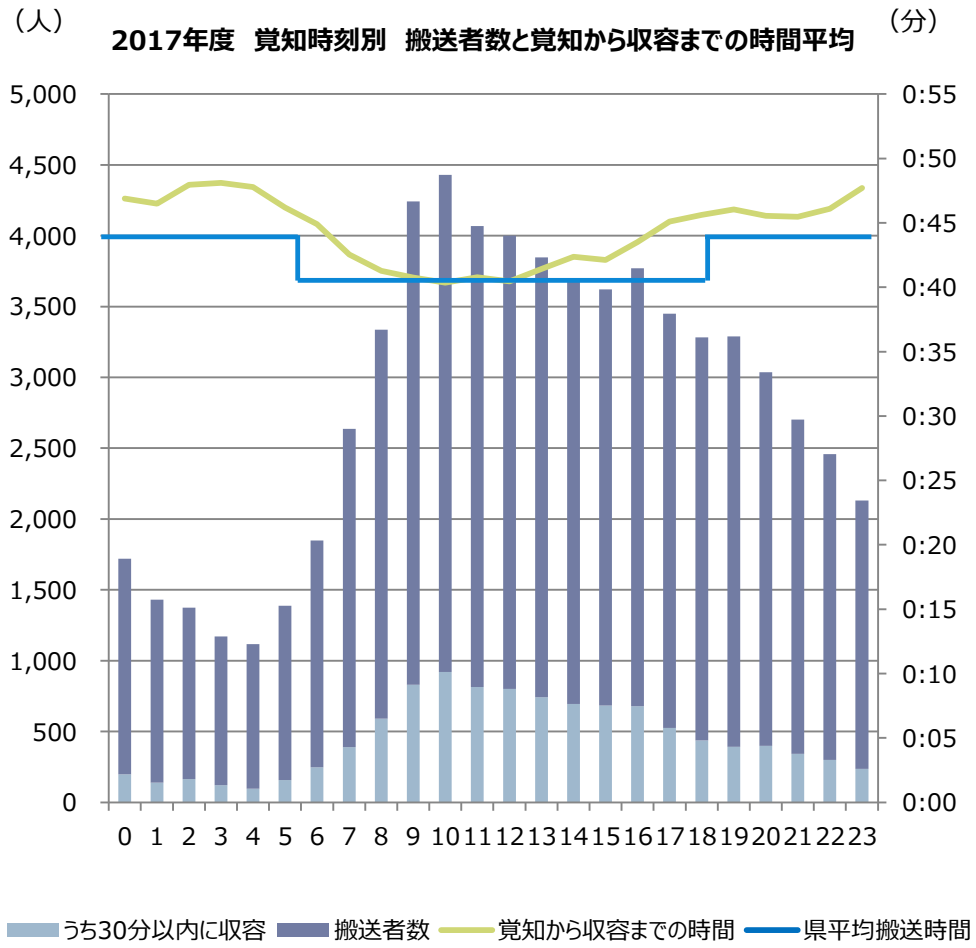
	01 神経系	02 眼科系	03 耳鼻咽喉科系	04 呼吸器系	05 循環器系	06 消化器系、肝臓・胆道・膵臓	07 筋骨格系	08 皮膚・皮下組織	09 乳房の疾患	10 内分泌・栄養・代謝	11 腎・尿路系及び男性生殖器系	12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	13 血液・造血器・免疫臓器	14 新生児、先天性奇形	15 小児疾患	16 外傷・熱傷・中毒	17 精神疾患	18 その他の疾患	19 不明	総計
習志野市　5医療機関	48	0	7	195	156	178	103	3	0	10	45	4	20	0	0	819	1	104	195	1,888
四街道市　2医療機関	77	2	25	232	110	235	80	13	1	13	46	1	14	0	13	470	5	169	313	1,819
市原市　3医療機関	22	1	2	72	86	69	5	3	0	12	11	10	10	2	3	76	0	27	51	462
八千代市　1医療機関	25	2	7	48	91	43	1	2	0	1	9	16	5	1	6	85	2	43	21	408
浦安市　2医療機関	20	22	10	12	40	33	6	2	0	2	1	7	3	0	2	67	2	8	19	256
佐倉市　1医療機関	6	2	4	34	31	40	2	2	0	1	4	4	4	1	0	32	1	9	24	201
東金市　1医療機関	2	0	0	15	32	10	1	1	0	1	0	3	2	1	0	32	0	21	7	128
船橋市　2医療機関	4	0	2	14	29	17	1	0	0	1	3	3	2	0	0	6	1	4	7	94
市川市　1医療機関	6	0	1	8	7	9	4	2	0	0	1	1	0	0	0	15	1	9	13	77
成田市　1医療機関	6	1	0	4	5	5	1	0	0	2	0	1	0	0	0	7	1	3	3	39
合計	216	30	58	634	587	639	204	28	1	43	120	50	60	5	24	1,609	14	397	653	5,372

	01 神経系	02 眼科系	03 耳鼻咽喉科系	04 呼吸器系	05 循環器系	06 消化器系、肝臓・胆道・膵臓	07 筋骨格系	08 皮膚・皮下組織	09 乳房の疾患	10 内分泌・栄養・代謝	11 腎・尿路系及び男性生殖器系	12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	13 血液・造血器・免疫臓器	14 新生児疾患、先天性奇形	15 小児疾患	16 外傷・熱傷・中毒	17 精神疾患	18 その他の疾患	19 不明	総計
千葉市立青葉病院	104	2	62	502	351	672	134	20	0	55	111	32	75	1	0	987	45	388	581	4,122
千葉市立海浜病院	145	4	63	299	158	494	14	20	4	19	20	143	87	31	327	506	6	149	360	2,849

出典：2017年度千葉市救急搬送データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑨救急搬送時間（時間帯別）

✓ 覚知時刻別、覚知から収容までの時間の平均値は以下となっており、時間帯別でみた場合は、18時から6時までの時間帯で、特に収容までの時間がかかる傾向にある。



出典：2017年度千葉市救急搬送データ、2017年度千葉県救急搬送実態調査データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑩搬送時間、医療機関交渉回数

✓ 搬送時間、医療機関交渉回数ともに千葉県平均を上回る。特に軽症の場合の交渉回数が多い。

二次保健医療圏	搬送時間(分)						医療機関交渉回数			
	全体		昼間(6～18時)		夜間(18～翌6時)		全体	重症	中等症	軽症
	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	中央値	平均値	平均値	平均値	平均値
千葉県全体	43.40	40	42.82	39	44.40	41	1.33	1.26	1.31	1.36
千葉	44.08	40	42.57	39	46.67	43	1.60	1.58	1.54	1.65
東葛南部	40.61	38	40.23	38	41.22	38	1.26	1.28	1.25	1.26
東葛北部	38.57	36	38.14	36	39.29	37	1.11	1.13	1.11	1.12
印旛	46.60	43	45.39	42	48.67	45	1.33	1.28	1.30	1.36
香取海匝	44.85	42	44.63	41	45.24	43	1.37	1.28	1.38	1.36
山武長生夷隅	53.32	49	52.70	48	54.45	50	1.44	1.30	1.49	1.43
安房	52.24	48	52.08	48	52.60	50	1.21	1.05	1.21	1.25
君津	48.42	44	48.62	44	48.06	44	1.54	1.26	1.46	1.62
市原	45.73	42	45.01	42	46.92	42	1.35	1.25	1.36	1.36

出典：2017年度千葉県救急搬送実態調査データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑪救急搬送件数の将来推計(全体)

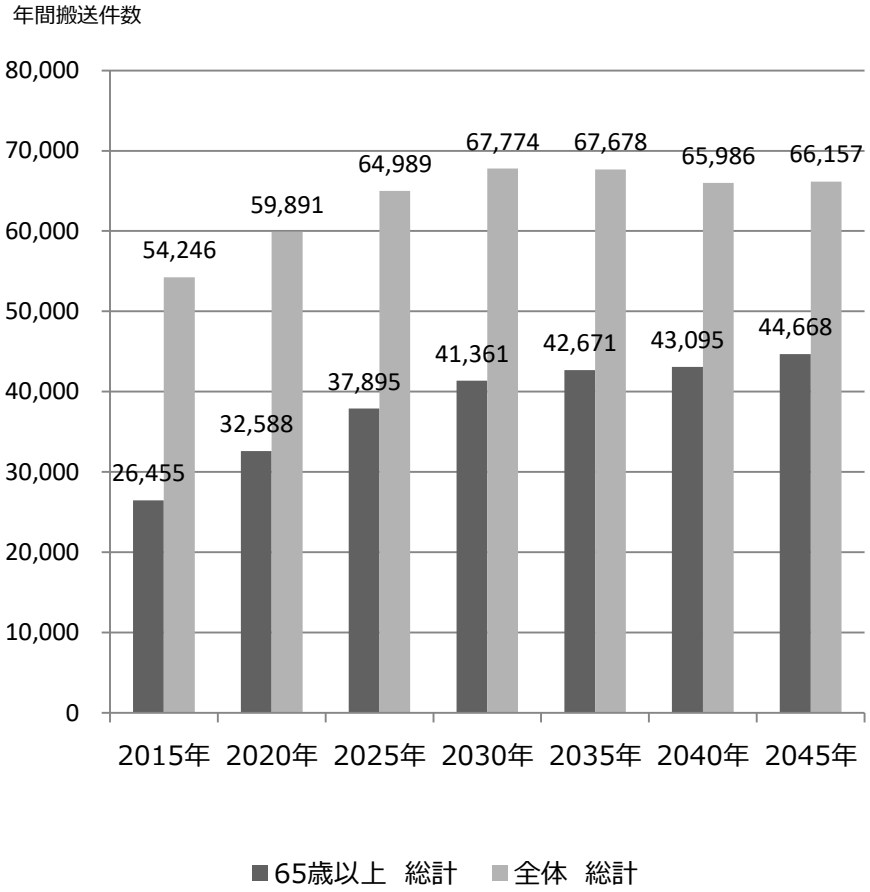
✓ 救急搬送件数の将来推計結果としては2015年時点の受療動向が維持された設定の場合で、2030年に一度ピークを迎える予測結果となっている。疾患としては、呼吸器系、循環器系疾患が、年齢階層別では65歳以上の搬送件数が特に増加する見込みである。

◆千葉市疾患別年間将来推計救急搬送件数

合計 全体

診断群番号	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2015-2030 増減率
総計	54,246	59,891	64,989	67,774	67,678	65,986	66,157	24.9%
MDC 01 神経系疾患	2,060	2,190	2,283	2,296	2,246	2,197	2,196	11.4%
MDC 02 眼科系疾患	83	86	86	86	83	82	81	3.2%
MDC 03 耳鼻咽喉科系疾患	500	534	569	584	585	576	569	16.9%
MDC 04 呼吸器系疾患	4,671	5,445	6,192	6,653	6,774	6,612	6,687	42.4%
MDC 05 循環器系疾患	5,513	6,436	7,291	7,802	7,916	7,803	7,937	41.5%
MDC 06 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	6,855	7,452	7,977	8,241	8,143	7,919	7,920	20.2%
MDC 07 筋骨格系疾患	1,219	1,387	1,539	1,611	1,593	1,552	1,579	32.2%
MDC 08 皮膚・皮下組織の疾患	227	248	266	271	269	263	263	19.4%
MDC 09 乳房の疾患	22	22	21	20	20	20	20	-7.7%
MDC 10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患	409	460	503	525	518	507	512	28.3%
MDC 11 腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	1,217	1,328	1,425	1,469	1,473	1,441	1,429	20.7%
MDC 12 女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	419	395	379	368	356	341	327	-12.2%
MDC 13 血液・造血器・免疫臓器の疾患	432	454	468	473	467	455	450	9.5%
MDC 14 新生児疾患、先天性奇形	44	42	39	39	38	37	35	-12.1%
MDC 15 小児疾患	775	741	689	676	671	648	612	-12.8%
MDC 16 外傷・熱傷・中毒	13,906	15,041	16,069	16,570	16,428	15,934	15,864	19.2%
MDC 17 精神疾患	699	773	855	906	907	864	855	29.6%
MDC 18 その他	9,164	10,047	10,832	11,274	11,262	10,952	10,944	23.0%
不明	6,031	6,810	7,506	7,910	7,930	7,783	7,878	31.2%

◆千葉市年齢階層別年間救急搬送件数推計



出典：2015年度千葉市救急搬送データ及び千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑫救急受入体制についての課題

✓ 千葉医療圏では夜間の初期救急医療機関を海浜病院内で運営しており、その搬送先として、二次輪番病院17病院が登録されているが、それぞれ以下のような課題を抱えていて、各関係医療機関や医師会との検討や協議を行っている。

初期救急についての課題

①千葉市医師会員の高齢化により、参加医師の確保が難しくなっている。
【参加医師の約半数が50歳以上】

②救急搬送件数について夜間も多数の患者を受け入れており、初期診療としての機能を超えている。

③海浜病院内に設置していることから、市民が求めるサービス水準が高くなり、初期としての診療では納得してもらえない場合がある。

二次救急についての課題

①二次輪番病院のうち、救急搬送の受入数が多い病院については、病床利用率が限界に近いため、将来救急搬送件数が増加した際、新規の救急が受けられないといった事態が生じる。

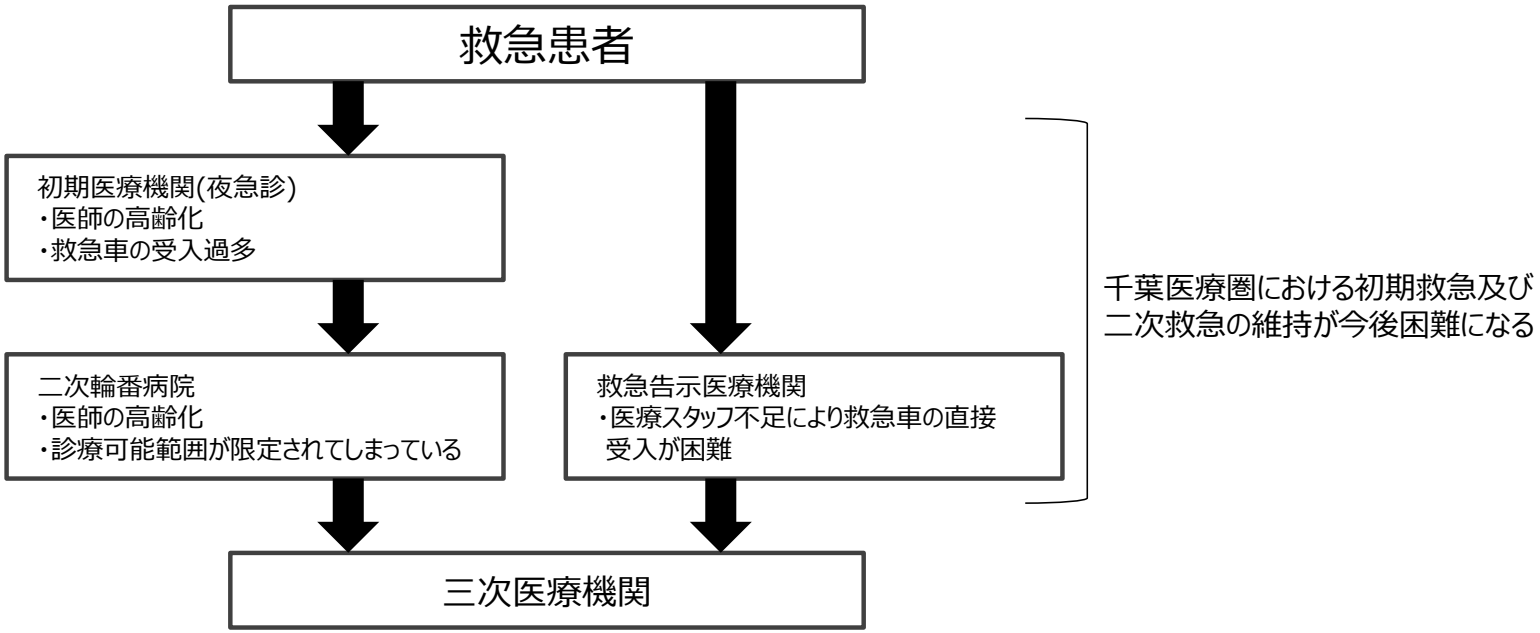
②それ以外の二次輪番病院に関しても、医師の高齢化が進んでいるため、常勤による当直体制自体が組めず、非常勤が大半である。
また、スタッフ自体の数も少ないため、患者の受入数及び診療が可能な範囲に限りがある。

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑬救急受入体制についての課題

✓ 千葉医療圏における救急受入体制についての課題をまとめると以下のとおりである。

千葉医療圏全体の救急課題まとめ

①初期救急医療機関である千葉市夜間応急診療（夜急診）の維持が難しくなる。
②夜間時間帯の救急車からの直接搬送に対応できる医療機関が少なく、今後患者が増えた場合、受入自体できなくなってしまう可能性がある。
③夜急診から二次輪番病院へ搬送する場合、初期の段階で検査・確定診断を行っていないと受け入れできない場合がある。

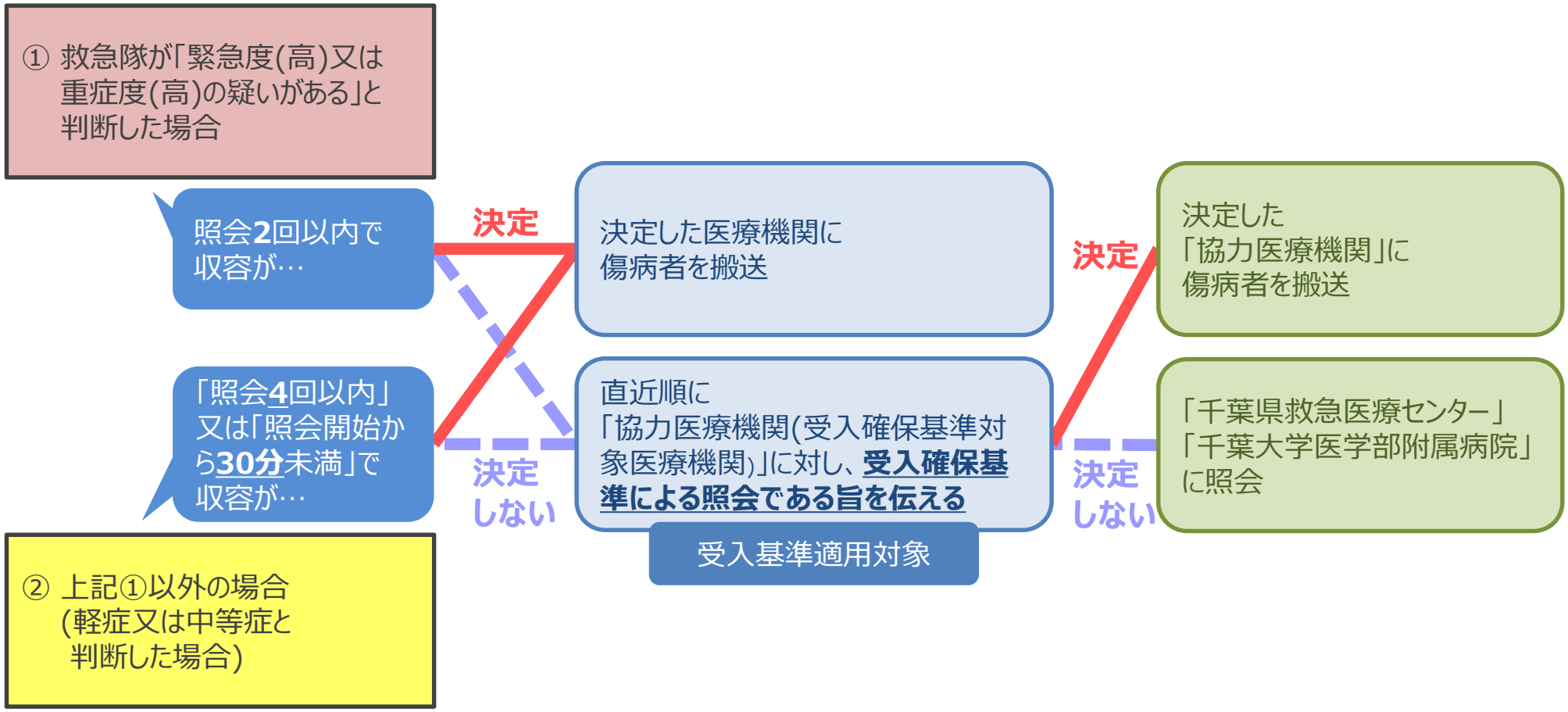


よって初期＋二次の診療が可能な医療体制の構築が不可欠となる

1．千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑭千葉市の救急搬送困難時の体制

- ✓ 千葉市では、「千葉県傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」の受入基準適用となった患者に対し、協力医療機関6病院へ受入を要請している。
- ✓ 両市立病院は協力医療機関(受入確保基準対象医療機関)として登録しており、他病院で受入が困難な患者を積極的に受け入れている体制である。

「千葉県傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」に定める受入医療機関確保基準
【救急隊業務フロー】



出典：千葉県「傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（７）救急医療　⑮千葉市の救急搬送困難時の体制

- ✓ 2018年8月実施開始から11月末までの受入基準適用患者数は644人（全搬送患者の4.8%）となり、6医療機関への受入患者数の合計は579人（受入基準適用患者の89.9%）となった。
- ✓ 受入基準が適用されたが、6医療機関への受入に至らなかった際の搬送先については、その他市内医療機関及び市外医療機関へ搬送されている。

【２０１８年８月～２０１８年１１月速報】

«運用状況»

	H30.8月	H30.9月	H30.10月	H30.11月	計
全対象者数	3,867	3,106	3,225	3,202	13,400
受入基準適用患者数	193	169	143	139	644
受入基準適用率	4.99%	5.44%	4.43%	4.34%	4.80%
受入患者数	175	151	128	125	579
患者受入率	90.7%	89.3%	89.5%	89.9%	89.9%

«受入患者数内訳»

千葉市立青葉病院	215
千葉市立海浜病院	55
A病院	105
B病院	89
C病院	68
D病院	47
計	579

出典：搬送困難事例受入確保基準照会状況より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（８）周産期医療　①入院患者数推計

✓ 受療率変動時の千葉市の傷病別入院患者数推計結果では、XV妊娠、分娩及び産褥、XVI　周産期に発生した病態は2015年以降、横ばい若しくは減少していく見込みとなっている。

◆千葉市傷病別将来推計入院患者数(人/日)（1999年～2014年までの千葉県受療率変動を踏襲した推計）（再掲）

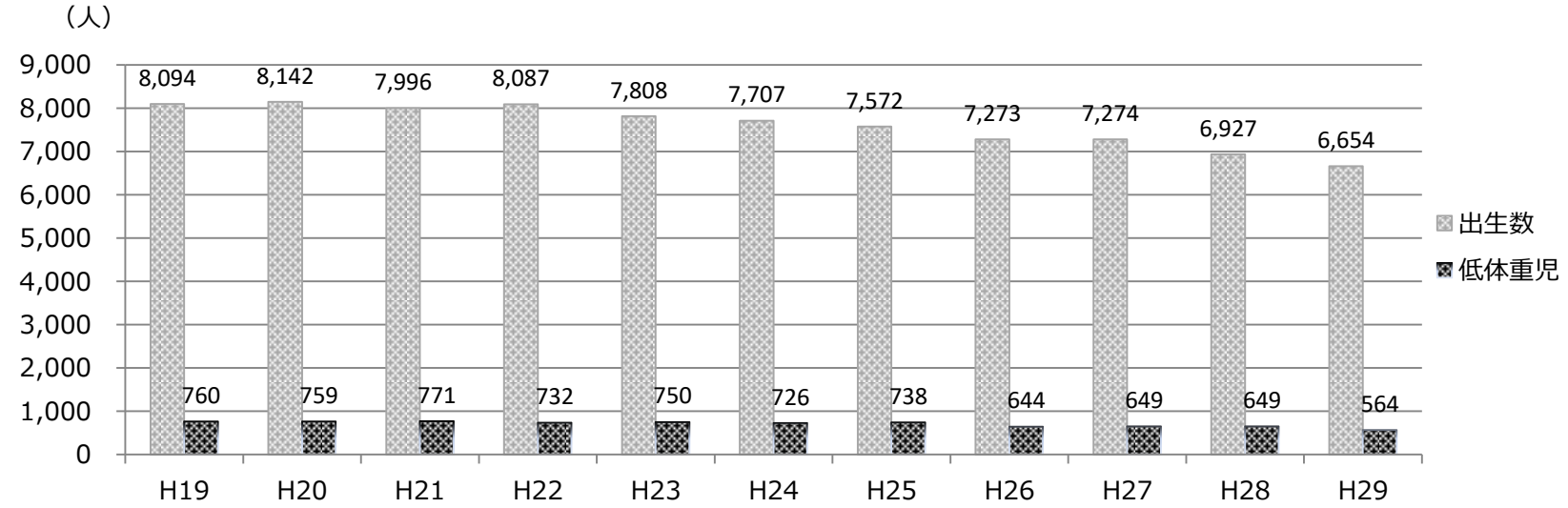
傷病分類	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
総数	7,045	7,707	8,339	8,472	8,246	8,170	8,398
Ⅰ　感染症及び寄生虫症	105	113	121	122	118	117	120
Ⅱ　新生物	896	948	990	1,007	998	1,002	1,011
（うち悪性新生物）	783	831	871	888	883	887	895
Ⅲ　血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	40	44	47	48	47	47	48
Ⅳ　内分泌，栄養及び代謝疾患	174	197	218	221	213	211	221
（うち糖尿病）	103	114	124	126	122	121	126
Ⅴ　精神及び行動の障害	1,395	1,425	1,455	1,462	1,427	1,384	1,358
Ⅵ　神経系の疾患	469	516	560	564	545	539	559
Ⅶ　眼及び付属器の疾患	72	78	83	84	84	85	87
Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患	13	14	14	14	14	14	14
Ⅸ　循環器系の疾患	1,319	1,513	1,703	1,751	1,700	1,691	1,770
（うち心疾患（高血圧性のものを除く））	301	346	390	401	389	388	406
（うち脳血管疾患）	917	1,053	1,188	1,222	1,187	1,180	1,235
Ⅹ　呼吸器系の疾患	513	601	686	700	673	672	716
ⅩⅠ　消化器系の疾患	419	460	497	505	492	491	508
ⅩⅡ　皮膚及び皮下組織の疾患	56	63	69	70	68	67	70
ⅩⅢ　筋骨格系及び結合組織の疾患	326	362	395	404	395	395	408
ⅩⅣ　腎尿路生殖器系の疾患	251	278	303	307	300	302	314
ⅩⅤ　妊娠，分娩及び産褥	89	78	74	73	70	67	63
ⅩⅥ　周産期に発生した病態	40	38	35	34	34	33	31
ⅩⅦ　先天奇形，変形及び染色体異常	42	40	37	36	35	34	32
ⅩⅧ　症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅨ　損傷，中毒及びその他の外因の影響	698	795	888	906	874	865	905
ⅩⅩⅠ　健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	40	41	43	43	42	41	41

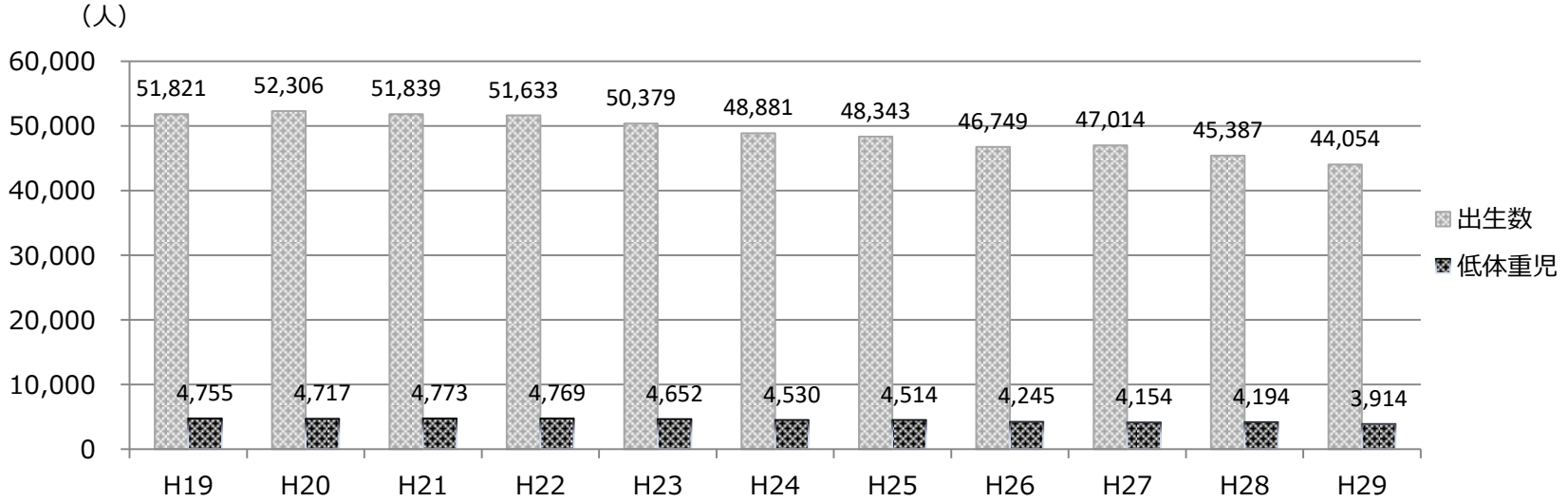
出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（８）周産期医療　②出生数、低体重児出生数の推移

✓　千葉市、千葉県ともに、出生数は減少傾向にある。

◆出生数、低体重児出生数の推移（上段：千葉市、下段：千葉県）



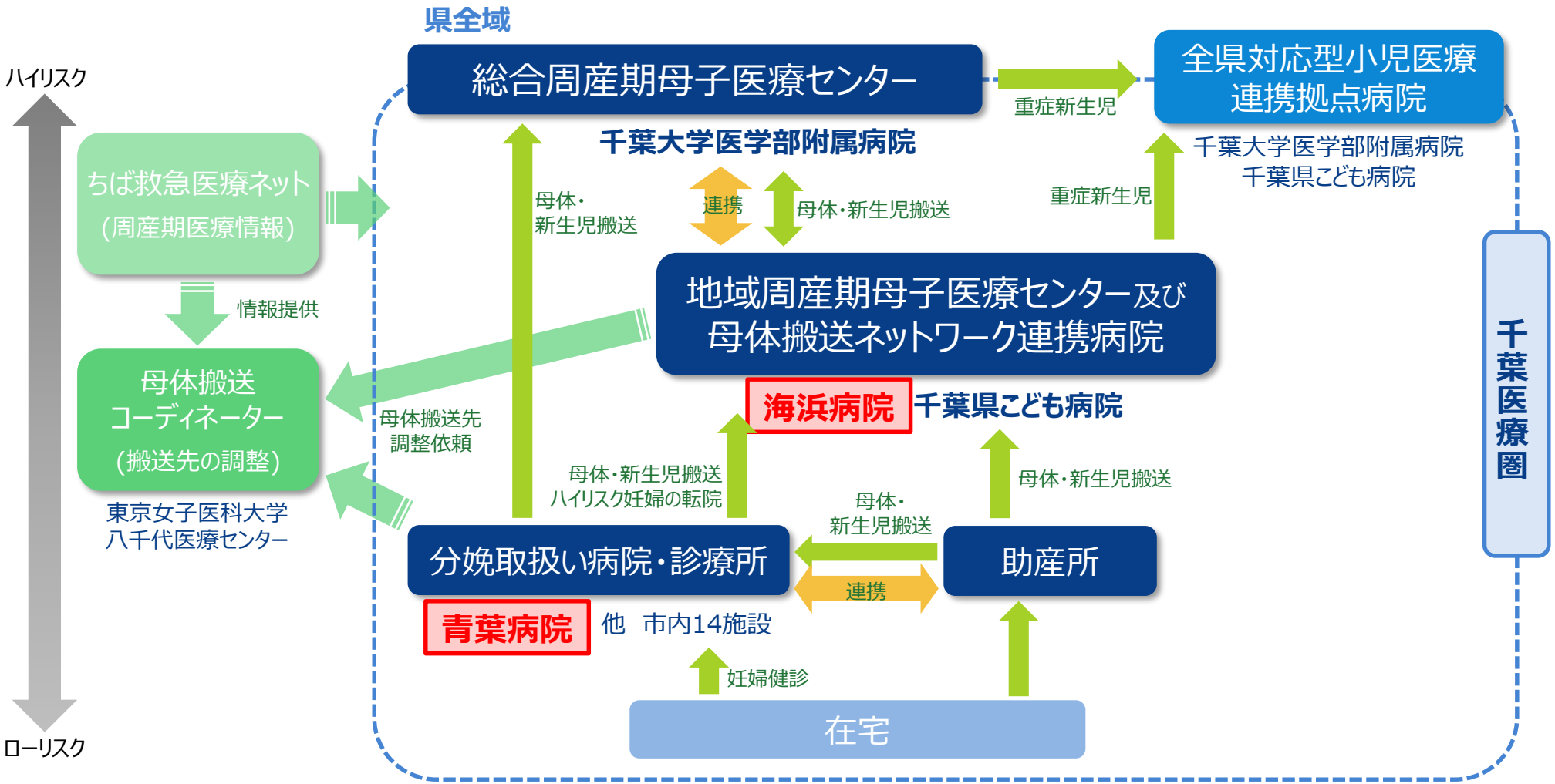


出典：千葉県「衛生年報」（2007年～2016年）

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（８）周産期医療　③市内医療機関との役割分担

✓ 海浜病院は地域周産期母子医療センターとして、産科・新生児科を設け、市内のハイリスク妊娠に対応している。また青葉病院でも分娩を取り扱っており、主に正常分娩に対応している。

◆千葉市(千葉医療圏）における周産期医療の循環型地域医療連携システム



出典：千葉県「保健医療計画」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（８）周産期医療　④MDC別シェア（周産期）

- ✓ 妊娠、分娩、産褥および周産期領域におけるDPC患者の受療状況では、総数では千葉大学医学部附属病院が最も多く、海浜病院、千葉メディカルセンターが続いている。
- ✓ 上記以外の医療機関では、周産期領域の患者はほとんど受け入れていない状況にある。
- ✓ 領域別では、妊娠早期の出血や妊娠中の糖尿病や高血圧症、分娩異常が千葉大医学部附属病院、早産、切迫早産、胎児及び胎児付属物の異常が海浜病院、子宮外妊娠及び妊娠合併症が千葉メディカルセンターで最も高いシェアを占めている。

施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	医療法人社団翠明会山王病院	合計
施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	稲毛区	－
DPC対象病床数		316床	287床	752床	410床	315床	285床	2,365床
異所性妊娠（子宮外妊娠）	件数	0	0	12	0	30	0	42
	シェア率	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	71.4%	0.0%	100.0%
妊娠早期の出血	件数	0	0	12	0	10	0	22
	シェア率	0.0%	0.0%	54.5%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%
妊娠高血圧症候群関連疾患	件数	0	25	26	0	0	0	51
	シェア率	0.0%	49.0%	51.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠合併症等	件数	0	0	0	0	21	0	21
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
早産、切迫早産	件数	10	102	67	12	27	0	218
	シェア率	4.6%	46.8%	30.7%	5.5%	12.4%	0.0%	100.0%
胎児及び胎児付属物の異常	件数	0	144	142	0	76	18	380
	シェア率	0.0%	37.9%	37.4%	0.0%	20.0%	4.7%	100.0%
前置胎盤および低置胎盤	件数	0	19	19	0	0	0	38
	シェア率	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
妊娠中の糖尿病	件数	0	0	53	0	0	0	53
	シェア率	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
分娩の異常	件数	0	17	135	0	21	24	197
	シェア率	0.0%	8.6%	68.5%	0.0%	10.7%	12.2%	100.0%
総数	件数	10	307	466	12	185	42	1,022
	シェア率	1.0%	30.0%	45.6%	1.2%	18.1%	4.1%	100.0%

出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（８）周産期医療　④MDC別シェア（新生児）

- ✓ 新生児領域におけるDPC患者の受療状況では、総数では千葉県こども病院が最も多く、海浜病院、千葉大学医学部附属病院が続いている。
- ✓ 上記以外の医療機関では、新生児領域の患者はほとんど受け入れていない状況にある。
- ✓ 領域別では、先天性疾患全域が千葉県こども病院、低出産体重に関する障害が海浜病院、直腸肛門奇形や胆道の先天異常が千葉大学医学部附属病院のシェアが最も高く、領域ごとに一定のすみ分けができているものと推察される。

施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	千葉県こども病院	合計
施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	緑区	－
DPC対象病床数		316床	287床	752床	410床	315床	204床	2,284床
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	件数	0	269	152	18	27	21	487
	シェア率	0.0%	55.2%	31.2%	3.7%	5.5%	4.3%	100.0%
脳、脊髄の先天異常	件数	0	0	0	0	0	28	28
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
先天性耳瘻孔、副耳	件数	0	0	0	0	0	34	34
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
動脈管開存症、心房中隔欠損症	件数	0	0	0	0	0	57	57
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
先天性心疾患（動脈管開存症、心房中隔欠損症を除く。）	件数	0	0	17	0	0	303	320
	シェア率	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	94.7%	100.0%
直腸肛門奇形、ヒルシュスプルング病	件数	0	0	12	0	0	10	22
	シェア率	0.0%	0.0%	54.5%	0.0%	0.0%	45.5%	100.0%
胆道の先天異常（拡張症）	件数	0	0	10	0	0	0	10
	シェア率	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
手足先天性疾患	件数	0	0	12	0	0	98	110
	シェア率	0.0%	0.0%	10.9%	0.0%	0.0%	89.1%	100.0%
股関節先天性疾患、大腿骨先天性疾患	件数	0	0	0	0	0	22	22
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
先天性水腎症、先天性上部尿路疾患	件数	0	0	0	0	0	20	20
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
先天性下部尿路疾患	件数	0	0	0	0	0	105	105
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
停留精巣	件数	0	0	27	0	0	66	93
	シェア率	0.0%	0.0%	29.0%	0.0%	0.0%	71.0%	100.0%
その他の先天異常	件数	0	0	0	0	0	15	15
	シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
総数	件数	0	269	230	18	27	779	1,323
	シェア率	0.0%	20.3%	17.4%	1.4%	2.0%	58.9%	100.0%

出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（９）小児医療　①入院患者数推計

- ✓ 受療率変動時の千葉市の15歳未満傷病別入院患者数推計結果は以下となっている。
- ✓ 2015年以降一貫して減少していく見込みとなっている。

◆千葉市15歳未満傷病別将来推計入院患者数(人/日)（1999年～2014年までの千葉県受療率変動を踏襲した推計）

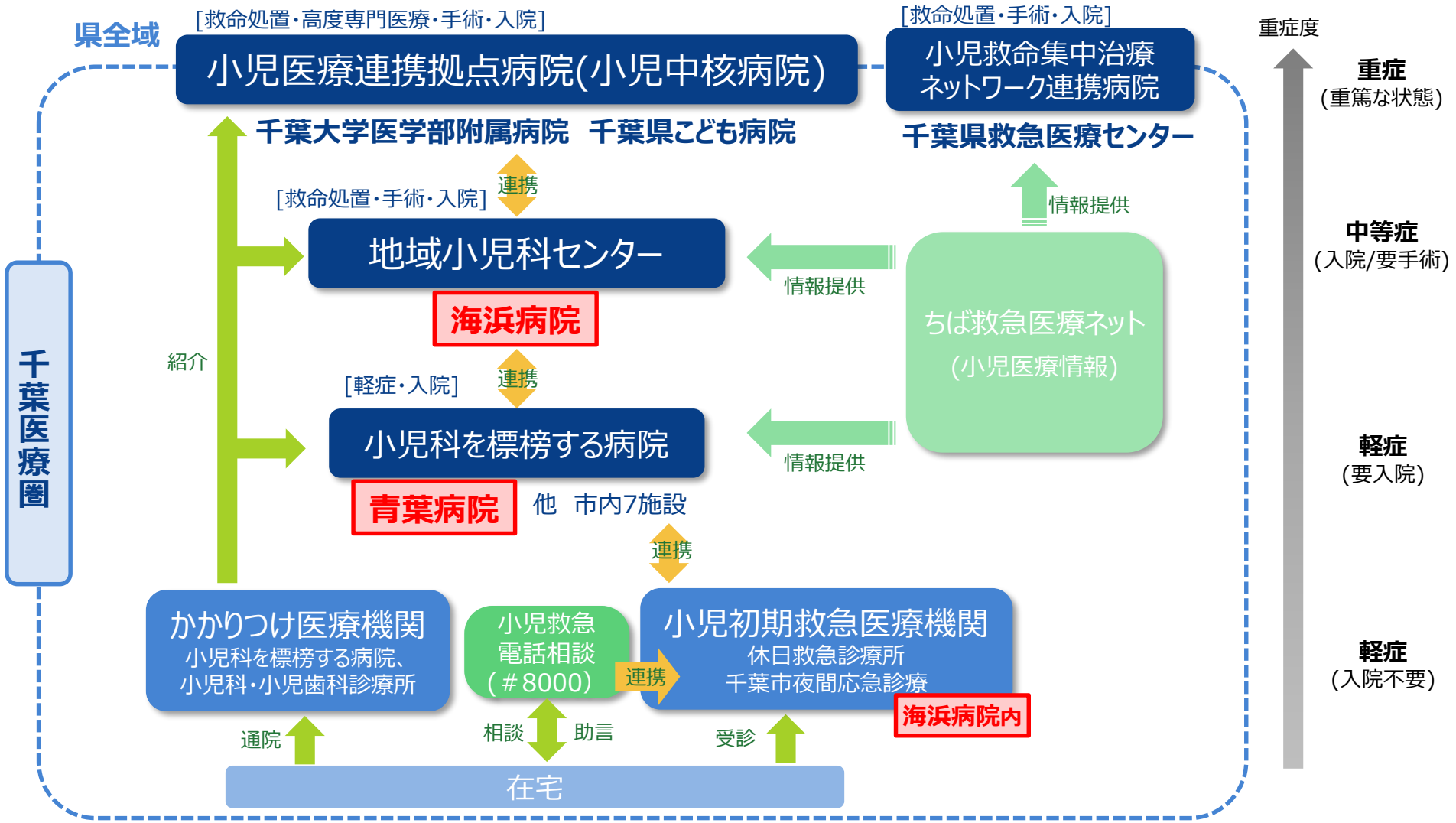
傷病分類	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
総数	193	178	164	157	153	149	142
Ⅰ　感染症及び寄生虫症	4	4	4	4	3	3	3
Ⅱ　新生物	11	10	9	9	9	8	8
（うち悪性新生物）	9	8	7	7	6	6	6
Ⅲ　血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	3	2	2	2	2	2
Ⅳ　内分泌，栄養及び代謝疾患	5	4	4	4	4	4	4
（うち糖尿病）	0	0	0	0	0	0	0
Ⅴ　精神及び行動の障害	10	9	8	8	7	7	7
Ⅵ　神経系の疾患	22	20	18	17	16	16	15
Ⅶ　眼及び付属器の疾患	1	1	1	1	1	1	1
Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患	1	1	1	1	1	1	1
Ⅸ　循環器系の疾患	5	4	4	4	4	4	3
（うち心疾患（高血圧性のものを除く））	1	1	0	0	0	0	0
（うち脳血管疾患）	2	2	2	2	2	2	2
Ⅹ　呼吸器系の疾患	33	30	27	26	26	25	24
ⅩⅠ　消化器系の疾患	7	7	6	6	6	6	5
ⅩⅡ　皮膚及び皮下組織の疾患	2	1	1	1	1	1	1
ⅩⅢ　筋骨格系及び結合組織の疾患	5	5	4	4	4	4	4
ⅩⅣ　腎尿路生殖器系の疾患	6	6	5	5	5	5	4
ⅩⅤ　妊娠，分娩及び産褥	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅥ　周産期に発生した病態	39	37	34	33	33	32	30
ⅩⅦ　先天奇形，変形及び染色体異常	24	22	20	20	19	19	18
ⅩⅧ　症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅨ　損傷，中毒及びその他の外因の影響	11	10	9	8	8	8	8
ⅩⅩⅠ　健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3	2	2	2	2	2	2

出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（９）小児医療　②市内医療機関との役割分担

✓ 海浜病院は地域小児科センターとして、小児一般診療・専門治療および、365日小児科医が常時待機しての小児救急に対応している。また青葉病院でも小児科を設置しており、入院を含む小児一般診療に対応している。

◆千葉市(千葉医療圏）における小児医療の循環型地域医療連携システム



出典：千葉県「保健医療計画」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（９）小児医療　③傷病別・病院別の受療状況

- ✓ 小児特有の疾患におけるDPC患者の受療状況では、総数では海浜病院が最も多く、千葉県こども病院、千葉メディカルセンターが続いている。
- ✓ 疾患別では、熱性けいれんや川崎病が海浜病院、ウイルス性腸炎がみつわ台総合病院、細菌性腸炎が千葉メディカルセンターでシェアが高い状況にある。

施設名		千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院	千葉大学医学部附属病院	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター	医療法人社団翠明会山王病院	医療法人社団誠馨会千葉中央メディカルセンター	医療法人社団創進会みつわ台総合病院	千葉県こども病院	独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院	医療法人社団普照会井上記念病院	医療法人社団有相会最成病院	医療法人柏葉会柏戸病院	合計
施設所在地		中央区	美浜区	中央区	中央区	中央区	稲毛区	若葉区	若葉区	緑区	中央区	中央区	花見川区	中央区	–
DPC対象病床数		316床	287床	752床	410床	315床	285床	212床	205床	204床	160床	113床	100床	78床	3,437床
ウイルス性腸炎	件数	32	85	41	27	89	33	23	92	74	14	17	51	25	603
	シェア率	5.3%	14.1%	6.8%	4.5%	14.8%	5.5%	3.8%	15.3%	12.3%	2.3%	2.8%	8.5%	4.1%	100.0%
細菌性腸炎	件数	0	26	11	0	29	0	21	0	0	0	0	0	0	87
	シェア率	0.0%	29.9%	12.6%	0.0%	33.3%	0.0%	24.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
熱性けいれん	件数	0	41	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	68
	シェア率	0.0%	60.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	39.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
川崎病	件数	0	80	36	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	147
	シェア率	0.0%	54.4%	24.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総数	件数	32	232	88	27	118	33	44	92	132	14	17	51	25	905
	シェア率	3.5%	25.6%	9.7%	3.0%	13.0%	3.6%	4.9%	10.2%	14.6%	1.5%	1.9%	5.6%	2.8%	100.0%

出典：厚生労働省2016年度診療報酬専門組織・DPC評価分科会資料「MDC別医療機関別件数」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（１０）精神医療　①市内入院患者数推計

- ✓ 受療率変動時の千葉市の傷病別入院患者数推計結果は以下となっており、Ⅴ　精神及び行動の障害は2030年をピークとして減少していく見込み。
- ✓ 千葉県保健医療計画上の精神基準病床数は10,674床、既存病床数は12,525床であり、将来的な入院需要増減に対応するための病床数調整が必要である。

◆千葉市傷病別将来推計入院患者数(人/日)（1999年～2014年までの千葉県受療率変動を踏襲した推計）（再掲）

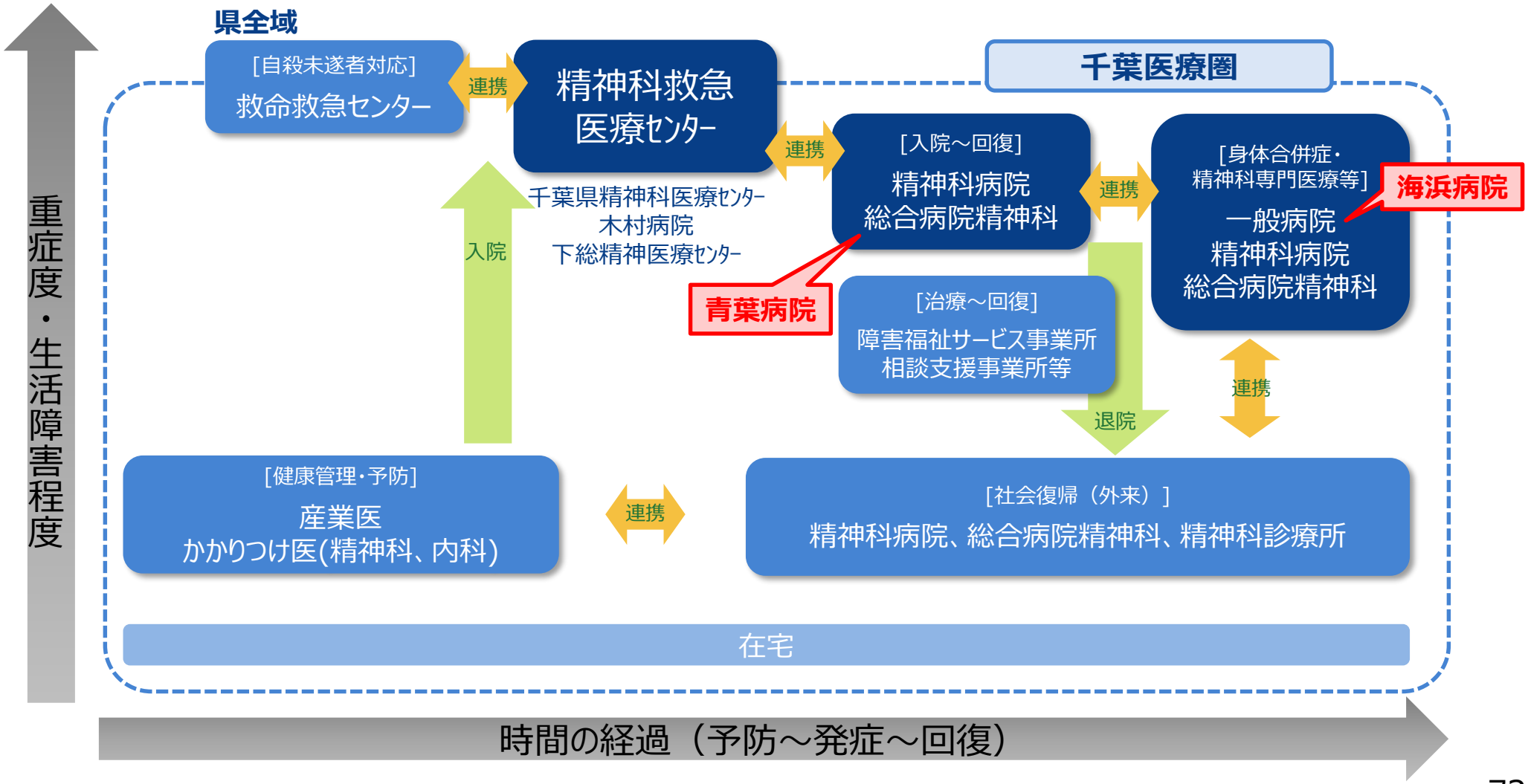
傷病分類	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
総数	7,045	7,707	8,339	8,472	8,246	8,170	8,398
Ⅰ　感染症及び寄生虫症	105	113	121	122	118	117	120
Ⅱ　新生物	896	948	990	1,007	998	1,002	1,011
（うち悪性新生物）	783	831	871	888	883	887	895
Ⅲ　血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	40	44	47	48	47	47	48
Ⅳ　内分泌，栄養及び代謝疾患	174	197	218	221	213	211	221
（うち糖尿病）	103	114	124	126	122	121	126
Ⅴ　精神及び行動の障害	1,395	1,425	1,455	1,462	1,427	1,384	1,358
Ⅵ　神経系の疾患	469	516	560	564	545	539	559
Ⅶ　眼及び付属器の疾患	72	78	83	84	84	85	87
Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患	13	14	14	14	14	14	14
Ⅸ　循環器系の疾患	1,319	1,513	1,703	1,751	1,700	1,691	1,770
（うち心疾患（高血圧性のものを除く））	301	346	390	401	389	388	406
（うち脳血管疾患）	917	1,053	1,188	1,222	1,187	1,180	1,235
Ⅹ　呼吸器系の疾患	513	601	686	700	673	672	716
ⅩⅠ　消化器系の疾患	419	460	497	505	492	491	508
ⅩⅡ　皮膚及び皮下組織の疾患	56	63	69	70	68	67	70
ⅩⅢ　筋骨格系及び結合組織の疾患	326	362	395	404	395	395	408
ⅩⅣ　腎尿路生殖器系の疾患	251	278	303	307	300	302	314
ⅩⅤ　妊娠，分娩及び産褥	89	78	74	73	70	67	63
ⅩⅥ　周産期に発生した病態	40	38	35	34	34	33	31
ⅩⅦ　先天奇形，変形及び染色体異常	42	40	37	36	35	34	32
ⅩⅧ　症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	0	0	0	0	0	0
ⅩⅨ　損傷，中毒及びその他の外因の影響	698	795	888	906	874	865	905
ⅩⅩⅠ　健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	40	41	43	43	42	41	41

出典：千葉市「千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」、「厚生労働省　患者調査（1999~2014年）」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１０）精神医療　②市内医療機関との役割分担

✓ 青葉病院は精神身体合併症や措置入院への対応を中心とした成人精神病棟のほか全国でも数少ない児童・思春期病棟を設け、精神科入院医療を提供している。海浜病院には精神病床・精神科の標榜はなく、一部の精神科患者に身体合併症の診療を行っている。

◆千葉市(千葉医療圏）における精神科医療の循環型地域医療連携システム

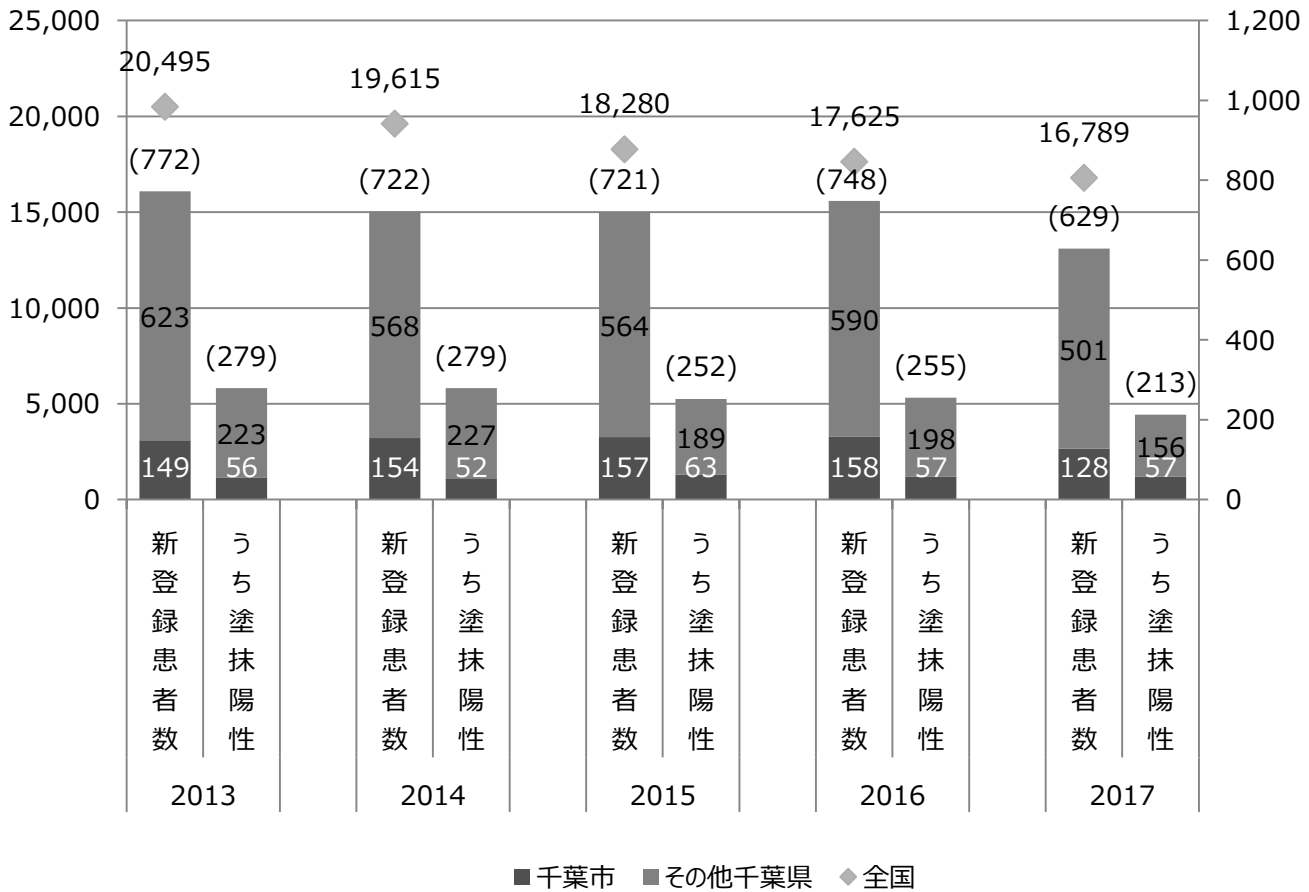


出典：千葉県「保健医療計画」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（１１）結核医療　①県内・市内入院患者数推移

✓ 経年では結核新規登録患者数は全国的には減少傾向にある。2017年は前年と比較して千葉県、千葉市ともに登録患者数は減少しているが、入院患者となる千葉市の塗抹陽性患者は横ばいで推移している。

◆新規登録活動性結核患者数の推移



注：各年の人数は結核発生届時の状況のため、市の入院勧告者数とは異なる。

出典：公益財団法人結核予防会結核研究所 「疫学情報センター公開データ」、厚生労働省「結核登録者情報調査年報集計結果」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１１）結核医療　②県内･市内医療機関との役割分担

- ✓ 千葉県内の入院可能な結核病床は92床、結核モデル病床は16床ある。千葉医療圏では国立病院機構千葉東病院が結核病床を19床保有しているが、2018年4月から休床状態にある。
- ✓ 千葉県保健医療計画の結核病床基準病床数は72床である。

※　結核モデル病床…

結核患者の高齢化に伴い、合併症や精神障害をもつ結核患者に対し、一般病棟または精神病棟において治療のため適切な基準を満たすよう整備された病床。

◆千葉県の結核病床保有病院

○結核病床保有病院(休止中を除く)

●結核モデル病床保有病院(2018年4月1日現在)

◎ 2018年4月休止

出典：千葉県「保健医療計画」、地域医療構想調整会議資料より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１１）結核医療　③市内患者の受療状況

✓ 千葉医療圏の結核患者の2017年度までの入院状況は以下のとおりで、7割弱の患者は市内医療機関(国立病院機構千葉東病院)に入院している。

◆結核患者入院状況（年度別千葉市内発生入院患者数）

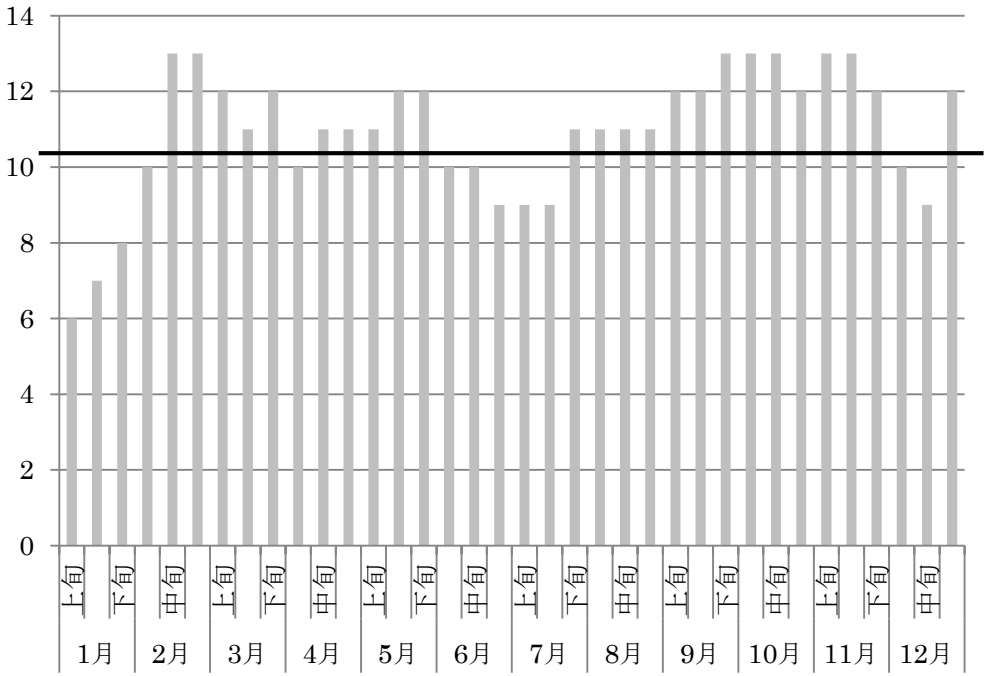
	実患者数				平均在院日数				延患者数				
	市内		市外	総計	市内		市外	総計	市内		市外	総計	市内割合
		うち千葉東				うち千葉東				うち千葉東			
2015年度	57	51	7	64	33.2	33.2	33	33.2	1,892	1,694	231	2,123	89.1%
2016年度	52	51	20	72	64.7	62.7	77.3	68.2	3,362	3,198	1,546	4,908	68.5%
2017年度	34	32	20	54	63.9	63.1	51.1	59.1	2,172	2,020	1,021	3,193	68.0%

出典：千葉市「2015～2017年度市内結核患者情報」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１１）結核医療　④市内入院患者数推移（２０１７年）

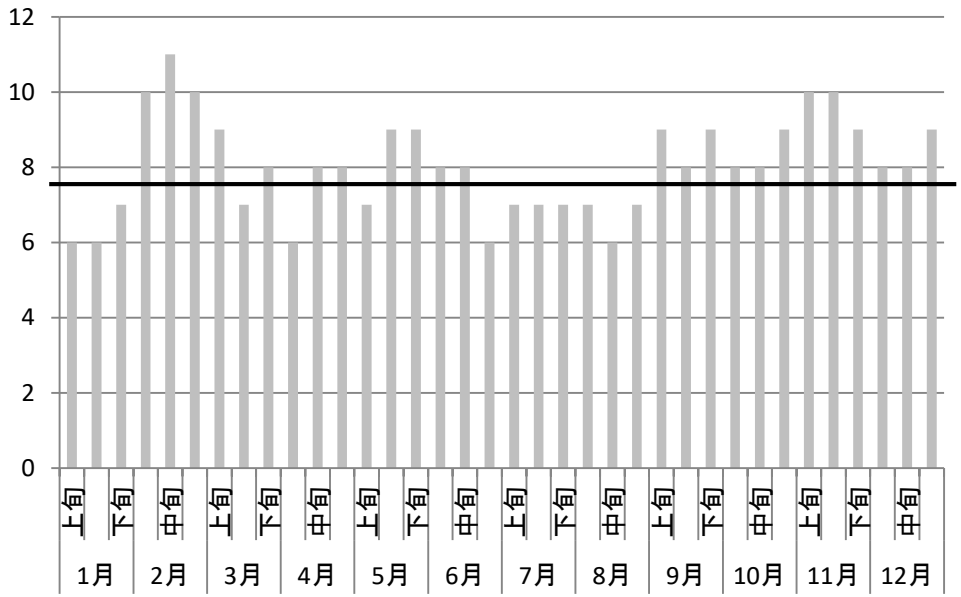
- ✓ ２０１７年の入院勧告者は６３人、そのうち４４人が国立病院機構千葉東病院に入院しており、平均すると、１日あたり１０人の入院勧告者のうち、７人が国立病院機構千葉東病院に入院していた。
- ✓ 国立病院機構千葉東病院の結核病床は2018年４月から休止しているため、市内の結核病床の稼働がなくなり、約７人/日程度と想定される患者への対応が課題となる。

◆入院勧告者数全体の状況



入院者数（　平均：約１０人／日　）

◆国立病院機構千葉東病院の入院勧告者数の状況



入院者数（　平均：約７人／日　）

※　２０１６年中に入院勧告され、２０１７年になっても継続して入院している患者も含む

出典：千葉市入院勧告者データより作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１１）結核医療　④市内入院患者数推移（２０１８年）

✓　２０１８年において、国立病院機構千葉東病院の結核病床が休床状態の中、市内で発生した患者は、市内の感染床病床やモデル病床及び市外の結核病床で受入を行っている。

◆市内入院勧告患者の受入状況

（１月～１０月末）

病床種別	入院者数
一般病床（市内）※	7
感染症病床（市内）	5
感染症病床（県内）	1
モデル病床（県内）	1
モデル病床（県外）	1
結核病床（市内）	1
結核病床（県内）	28
結核病床（県外）	4
計	48
（塗抹陽性者 42 人、転院者 6 人）	

（１０月末日時点の受入状況）

病床種別	入院者数
一般病床（市内）※	1
感染症病床（市内）	2
結核病床（県内）	8
計	11

※患者の容体が悪いため転院できない状態にあったことなどを理由に塗抹陽性結核患者の入院勧告を行ったもの

出典：千葉市入院勧告者データより作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（１２）感染症医療　①県内・市内医療機関との役割分担

- ✓ 青葉病院は感染症病床を6床設置しており、第二種感染症指定医療機関に指定されている。より危険性の高い感染症に対応する特定・第一種感染症指定医療機関には、成田市の成田赤十字病院が指定されている。
- ✓ 千葉県保健医療計画では感染症病床基準病床数60床に対し、既存病床数60床で充足している状況にある。

◆千葉県および千葉市(千葉医療圏）における感染症医療体制

特定感染症指定医療機関
- 厚生労働大臣が指定、全国に数カ所
- 新感染症、一類・二類感染症の入院治療に対応

第一種感染症指定医療機関
- 都道府県知事が指定、原則都道府県ごとに１ヶ所
- 一類・二類感染症の入院治療に対応

第二種感染症指定医療機関
- 都道府県知事が指定、原則二次医療圏域ごとに１ヶ所
- 二類感染症の入院治療に対応

感染症外来協力医療機関
- 感染症患者専用の外来受診施設が整備されている医療機関

県全域

成田赤十字病院
(特定:2床、第1種:1床、第2種:4床)

連携

千葉医療圏

青葉病院　(第2種:6床)

千葉大学医学部附属病院（第2種: 5床)

連携

県内14施設

新感染症	一類感染症	二類感染症
人から人に伝染する疾患で、既知の感染症と症状等が明らかに違うもので危険性の高い感染症。	エボラ出血熱、マールブルク病、ペストなど。感染力が強く感染した場合には危険な状態になるもの。原則入院。	中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、ジフテリアなど。危険性の高い感染症。

出典：千葉県「保健医療計画」より作成

1. 千葉医療圏等の現状と課題　（１３）在宅医療　①在宅医療等患者数推計

✓ 訪問診療を受けている患者数、療養病床の入院患者及び老健入所者等を在宅医療対象者として設定した場合、千葉県保健医療計画上では千葉医療圏の在宅医療等需要は2035年まで増加し、2013年比1.3倍程度の需要となる見込みである。

「慢性期機能および在宅医療等の需要の将来推計の考え方」

平成 27 年 3 月 18 日「第 9 回地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会」資料より抜粋

①一般病床の障害者数・難病患者数（障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院基本料及び特殊疾患入院医療管理料を算定している患者数）については、慢性期機能の医療需要として推計。

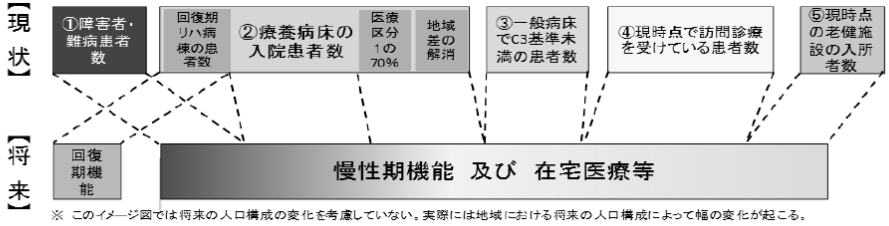
②療養病床の入院患者数については、医療資源投入量とは別に、以下の考え方で慢性期機能及び在宅医療等の医療需要を推計する。

- 医療区分 1 の患者数の 70%は、将来時点で在宅医療等で対応する患者数として推計。
- その他の入院患者数については、入院受療率の地域差があることを踏まえ、これを解消していくことで、将来時点の慢性期・在宅医療等の医療需要として推計。（療養病床で回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している患者数は、回復期の医療需要とする。）

③一般病床で医療資源投入量が 175 点未満の患者数については、在宅復帰に向けた調整を要する幅を見込み、当該点数未満の患者数を慢性期・在宅医療等の医療需要として推計。

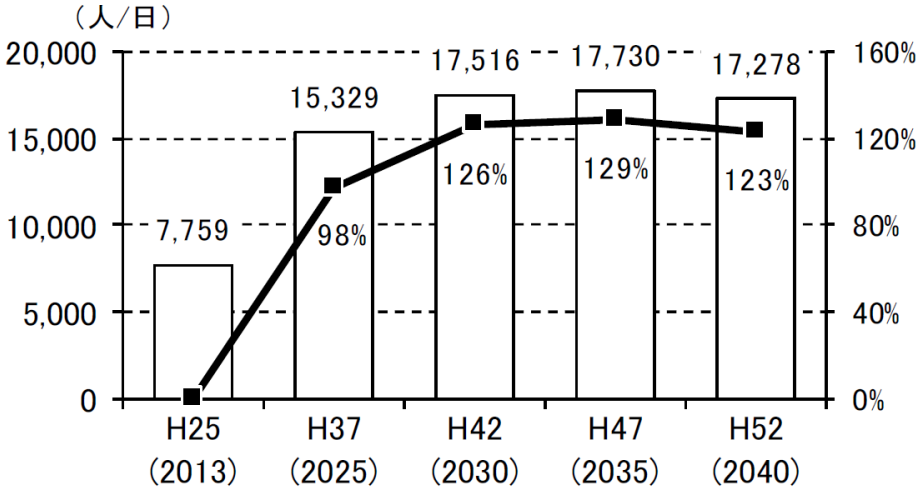
④訪問診療を受けている患者数については、在宅医療等の医療需要として推計。

⑤老健施設の入所者数については、在宅医療等の医療需要として推計。



※ このイメージ図では将来の人口構成の変化を考慮していない。実際には地域における将来の人口構成によって幅の変化が起こる。

図表　在宅医療等需要推移と変化率（千葉区域）

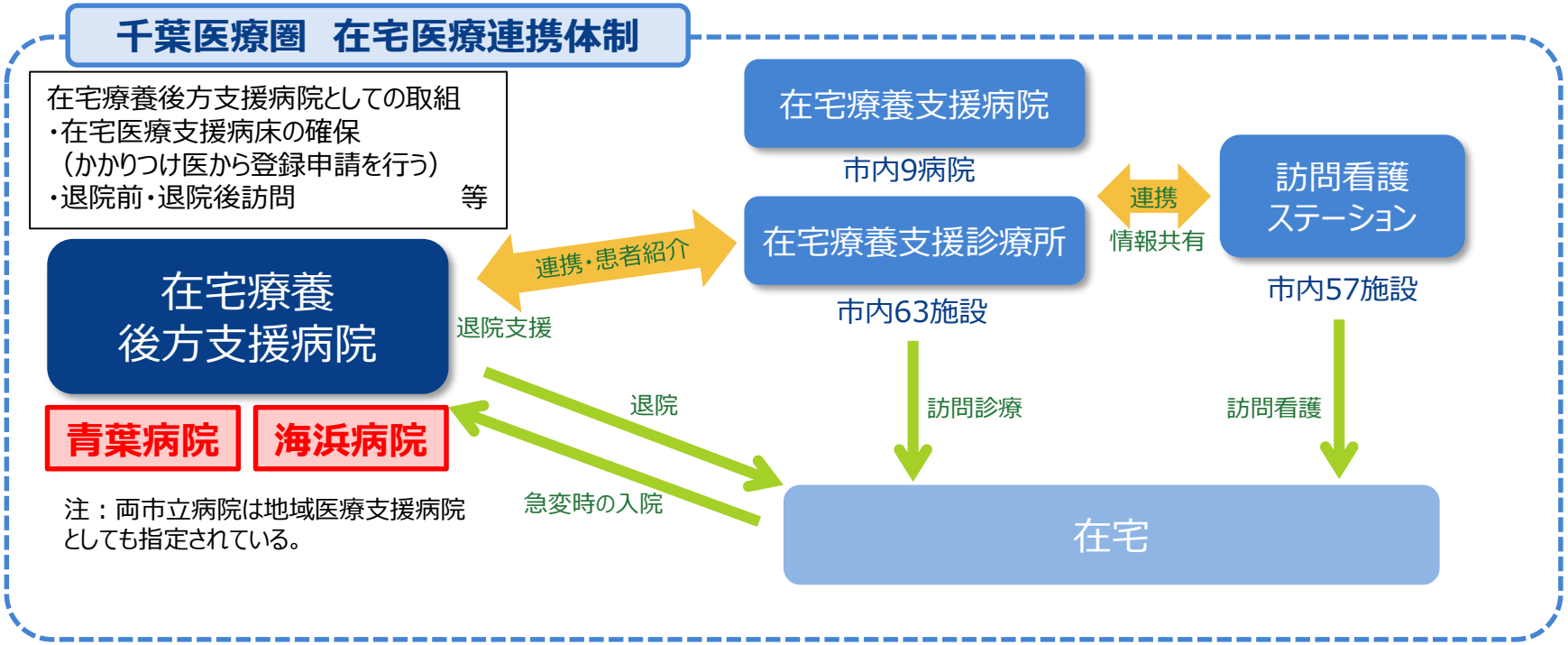


「地域医療構想策定支援ツール」（厚生労働省）により推計。

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１３）在宅医療　②市内医療機関との役割分担

✓ 青葉病院、海浜病院とも、在宅療養後方支援病院の施設基準を取得しており、千葉市内における在宅医療連携体制の一翼を担っている。在宅療養後方支援病院は、在宅医療を行う診療所等と連携し、在宅療養患者に予め急変時の入院先として登録していただくことにより、患者のスムーズな受入を図っている。

◆千葉市(千葉医療圏）における在宅医療連携体制



出典：千葉県「保健医療計画」より作成

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１３）在宅医療　③両市立病院の果たしている役割

✓　青葉病院・海浜病院は地域医療支援病院として、地域の医療従事者向けの研修を行う等の役割を果たしている。

◆両市立病院の地域医療支援関連活動状況

項目			千葉市立青葉病院	千葉市立海浜病院
紹介患者に対する医療の提供	紹介	紹介率	68.9%	66.9%
		紹介患者数	9,448人	7,425人
	逆紹介	逆紹介率	81.3%	73.5%
		逆紹介患者数	11,152人	8,151人
救急医療の提供	重症救急患者のための病床確保状況		15床	7床
	救急医療の提供の実績	(A)救急用又は患者輸送自動車により搬送した救急患者数	4,277人	2,588人
		(B)上記以外の救急患者数	3,105人	2,582人
		(A)+(B)の合計	7,382人	5,170人
	救急車又は患者搬送用自動車		救急用自動車 1台	救急用自動車 1台
医療機器等の共同利用の実施	共同利用に係る病床	病床数	8床	5床
		病床利用率	0%	0%
	その他共同利用の範囲	医療機器	MRI、CT、RI、ESML、その他診断機器	CT、ガンマカメラ、マンモグラフィー装置、その他診断機器
		施設	会議室、図書館、栄養指導・糖尿病教室	講義室、図書館、研究室
地域の医療従事者に対する研修の実施	地域の医療従事者向け	研修の内容	・在宅医療コーディネータ研修会 ・医療安全研修 ・地域連携講演会　漢方処理セミナー ・千葉市医療連携カンファレンス ・在宅医療連携カンファレンス ・青葉病院糖尿病地域連携カンファレンス ・青葉病院ICLSコース ・青葉オープンカンファレンス ・青葉インフェクションカンファレンス	・公開カンファレンス ・症例検討会（内科・小児科） ・周産期・新生児カンファレンス ・虐待公開研修 ・医療安全研修 ・感染防止合同カンファレンス ・災害拠点病院合同訓練 ・がん看護研修会 ・NST養成コース（施設認定） ・海浜病院NCPRコース
	患者相談件数		51,897件 （5,056人）	43,881件 （6,788人）
その他地域医療支援に係る取り組み			・地域の保健・医療・福祉の関係機関と連携 ・在宅医療支援病床の提供 ・情報発信	・在宅ケアサービスの調整 ・医療機関・福祉介護施設等への転院 ・入所支援 ・退院後訪問看護師同行訪問

出典：千葉市「地域医療支援病院の業務報告書（2017年度）」及び各病院HP

1．千葉医療圏等の現状と課題　（１４）千葉医療圏のSWOT分析による整理

Strength　強み

- 人口当たりの急性期病床・回復期病床は、ともに県平均を上回り、全国並みの整備。
- 急性期病院の再整備や回復期病床の整備が近年進んでいる。
- 千葉大学医学部附属病院、県がんセンター、県救急医療センター、県精神科医療センター、県こども病院といった特殊な医療を提供する医療機関も多く立地している。
- 人口当たりの医師数は県平均を大きく上回り全国平均をも上回っている。
- がん、循環器、周産期系では各医療機関によるすみ分けが進んでいる。
- 市内全域がいずれかの救命救急センターからおおむね30分圏内となっており、重傷救急搬送患者への対応が可能である。
- 青葉病院には全国でも数少ない児童・思春期病棟を設けている。
- 海浜病院は周産期・小児医療において、千葉医療圏で中核的な役割を担っている。

Weakness　弱み

- 大規模な公立の総合病院がない。
- 準夜から深夜にかけて県平均よりも救急搬送時間がかかっている。
- 救急の医療機関交渉回数が県内の他医療圏に比べて高くなっている。
- 医師の高齢化等により初期救急や輪番病院の医師等の確保が難しくなっている。
- 国立病院機構千葉東病院の結核病床休床に伴い、市内での結核患者への対応が困難になっている。

Opportunity　機会

- 医療機能の分化・連携の促進が求められている。
- 地域医療構想では急性期の病床が過剰とされている。
- 地域医療構想では回復期の病床が不足する見込み。
- 在宅医療等の需要は2035年まで増加が見込まれている。

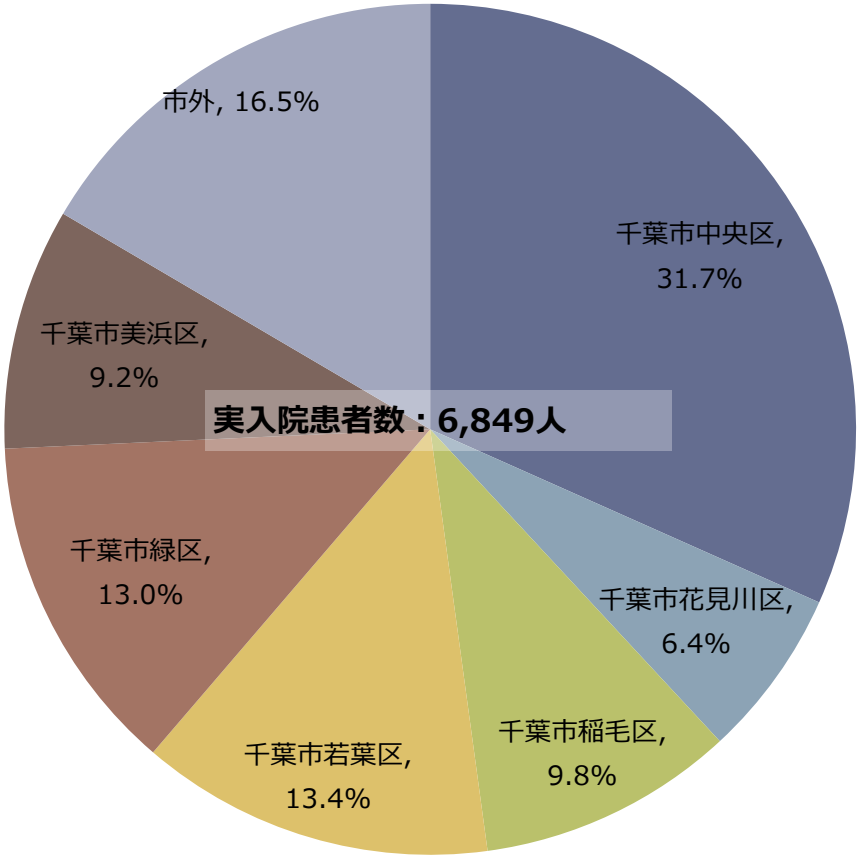
Threat　脅威

- 2030年まで患者数が増加する。特に循環器系や呼吸器系の増加が見込まれる。
- 市外流出率は全体として高くないものの、花見川区、美浜区は比較的高い。
- 救急搬送は近年増加傾向にあり、今後も呼吸器系や循環器系を中心に大きく増加する見込み。
- 準夜・深夜になるにつれ救急搬送先の両市立病院のシェアが高くなっている。
- 結核病床は、県全体（三次医療圏）としては基準病床を満たしている。

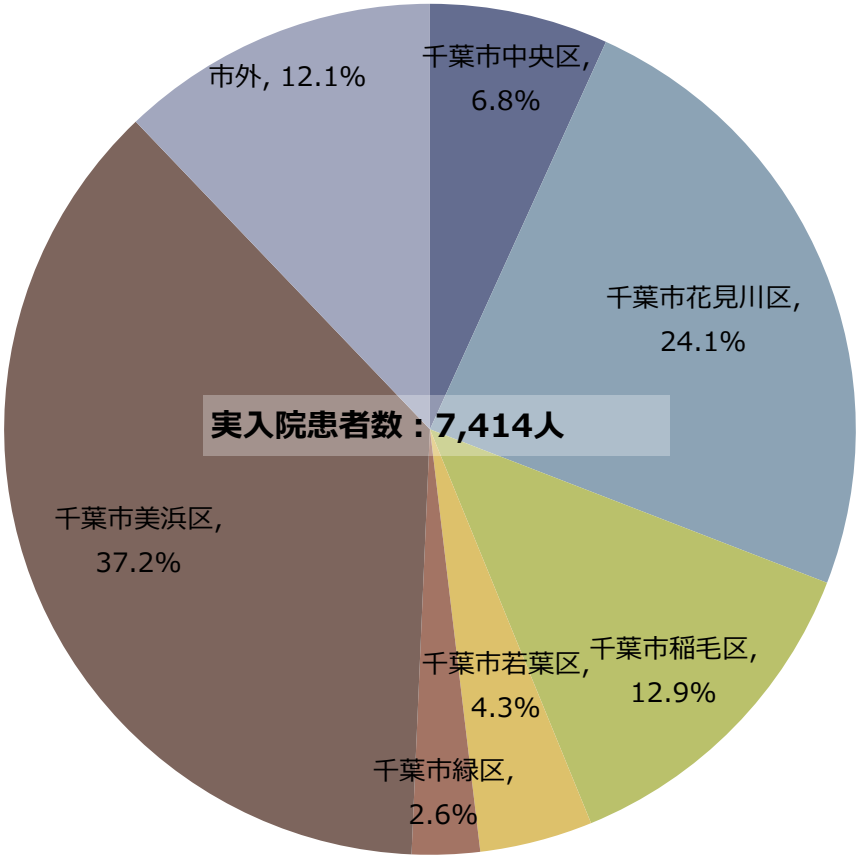
2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 入院患者住所地

✓ DPCデータによる両市立病院の住所地別実患者割合では80%以上の患者が市内の患者となっている。青葉病院は病院の所在地である中央区からの患者が最も多いものの、他の区からも一定の割合がある。海浜病院は病院の所在地である美浜区及び隣接の花見川区からの患者で約半数を超えている。

2017年度　患者住所地別実患者数（青葉）



2017年度　患者住所地別実患者数（海浜）



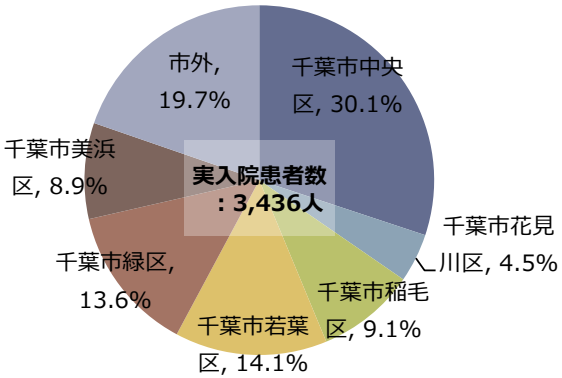
注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。また、入院年月日が退院年月日と同日のものを含む。

出典：両市立病院DPCデータより作成

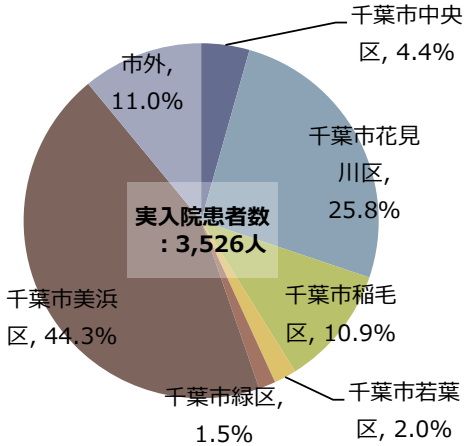
2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 入院区分別患者住所地

✓ DPCデータによる両市立病院の予定入院・予定外入院で区分した場合、両市立病院とも予定入院・予定外入院がほぼ同じ割合である。青葉病院は予定入院において市外の患者割合が高くなる傾向にある。

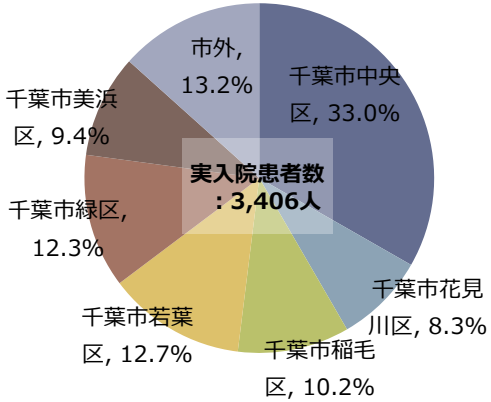
2017年度　患者住所地別
予定入院（青葉）



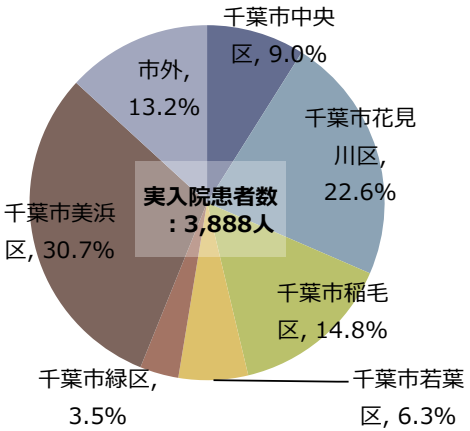
2017年度　患者住所地別
予定入院（海浜）



2017年度　患者住所地別
予定外入院（青葉）



2017年度　患者住所地別
予定外入院（海浜）

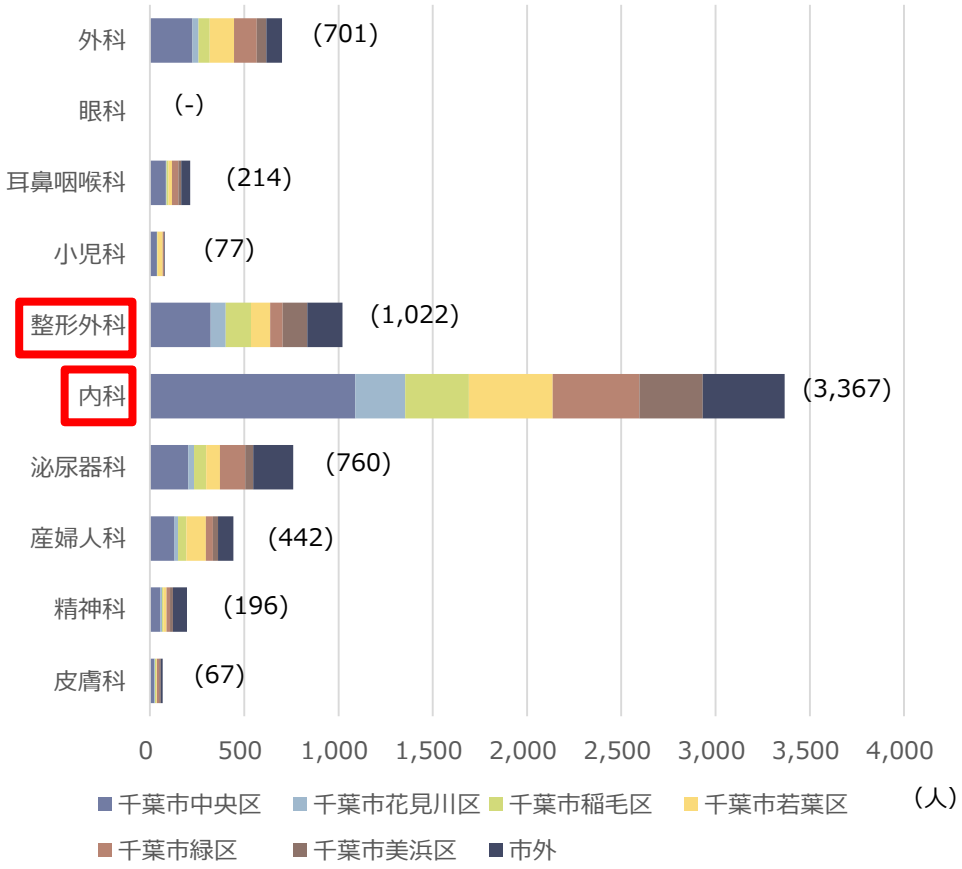


注：救急医療入院以外の予定外入院、救急医療入院を予定外入院として集計している。青葉病院は記載のなかった7名を除き集計している。
出典：両市立病院DPCデータより作成

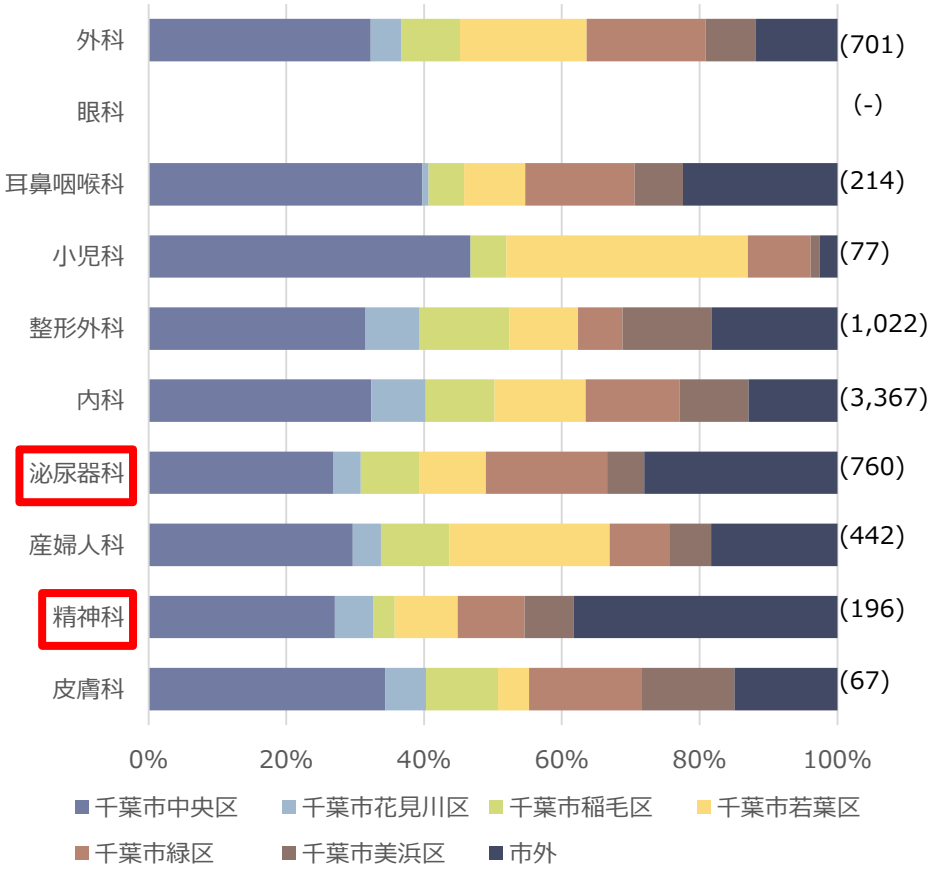
2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 青葉 診療科別患者住所地

- ✓ 青葉病院は内科、整形外科の入院患者数が多く、両診療科とも市内からの患者の割合が高くなっている。
- ✓ 一方で市外からの入院患者が多い診療科は精神科及び泌尿器科で、特に精神科は市外からの患者の割合が約40%となっている。

2017年度　診療科別・患者住所地別実入院患者数（青葉）



2017年度　診療科別・患者住所地別実入院患者数構成割合（青葉）



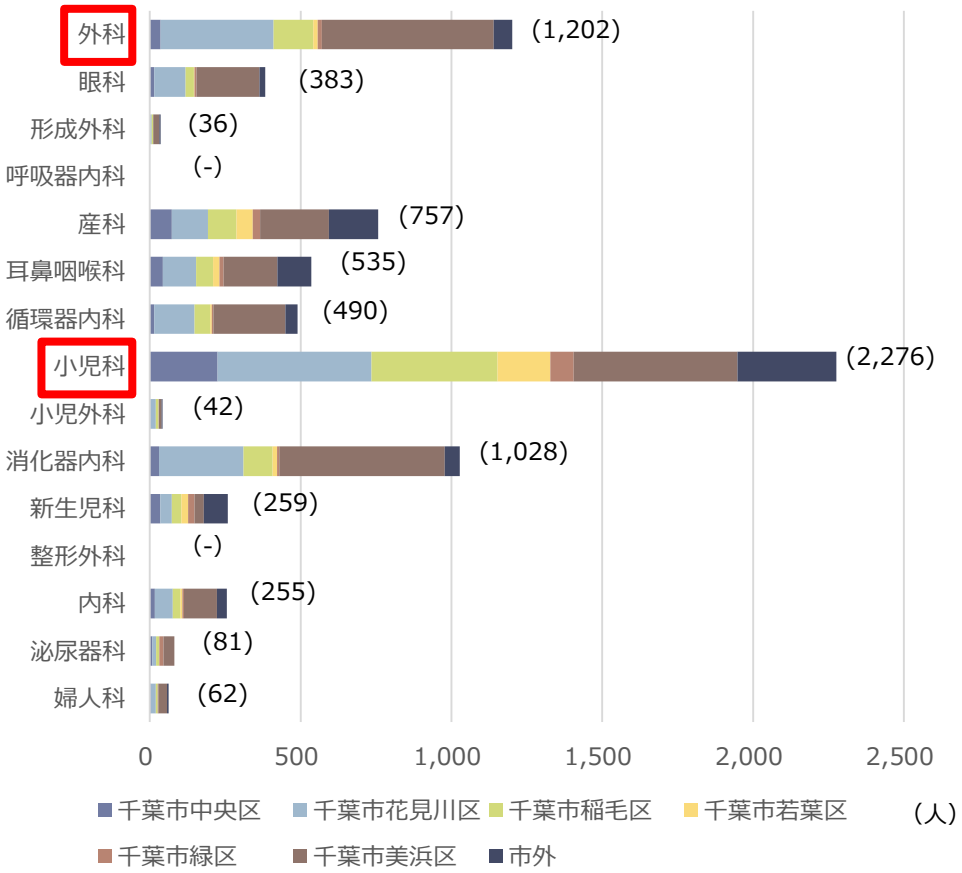
注：実入院患者数10人未満については「-」で表示している。

出典：両市立病院DPCデータより作成

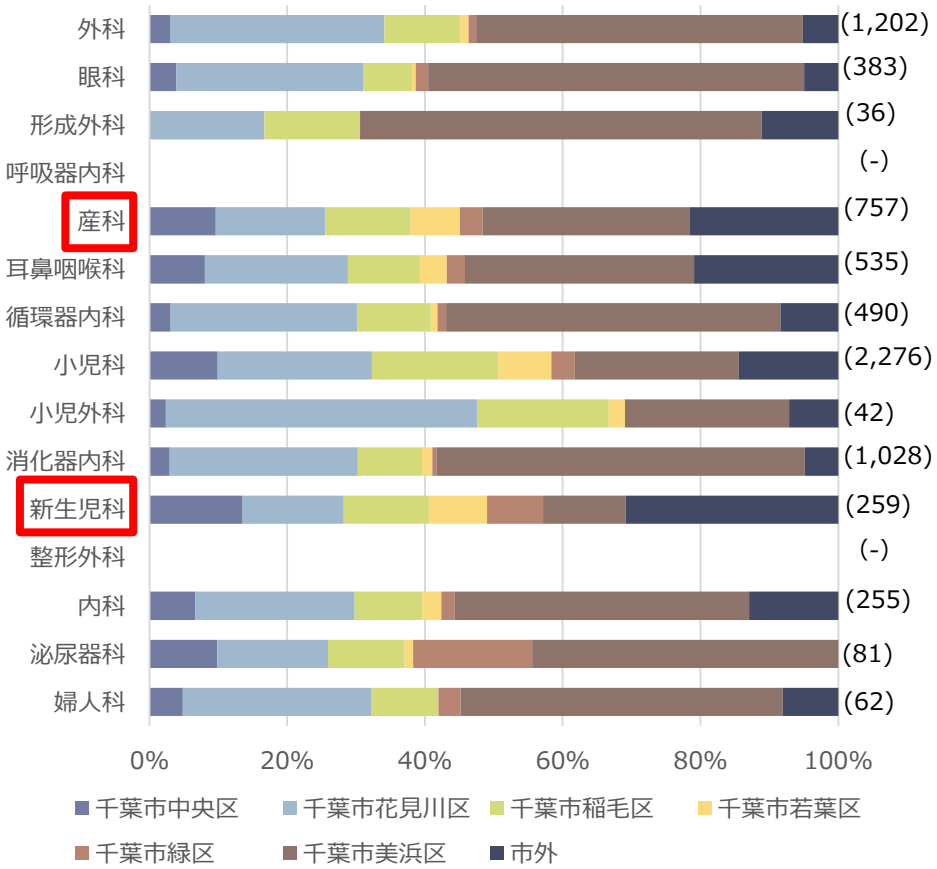
2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 海浜 診療科別患者住所地

✓ 海浜病院は外科、小児科の入院患者数が多く、両診療科とも市内からの患者の割合が高くなっている。
✓ 一方で市外からの入院患者が多い診療科は新生児科及び産科で、市外からの患者の割合は約20%強となっている。

2017年度　診療科別・住所地別実入院患者数構成割合（海浜）



2017年度　診療科別・住所地別実入院患者数構成割合（海浜）

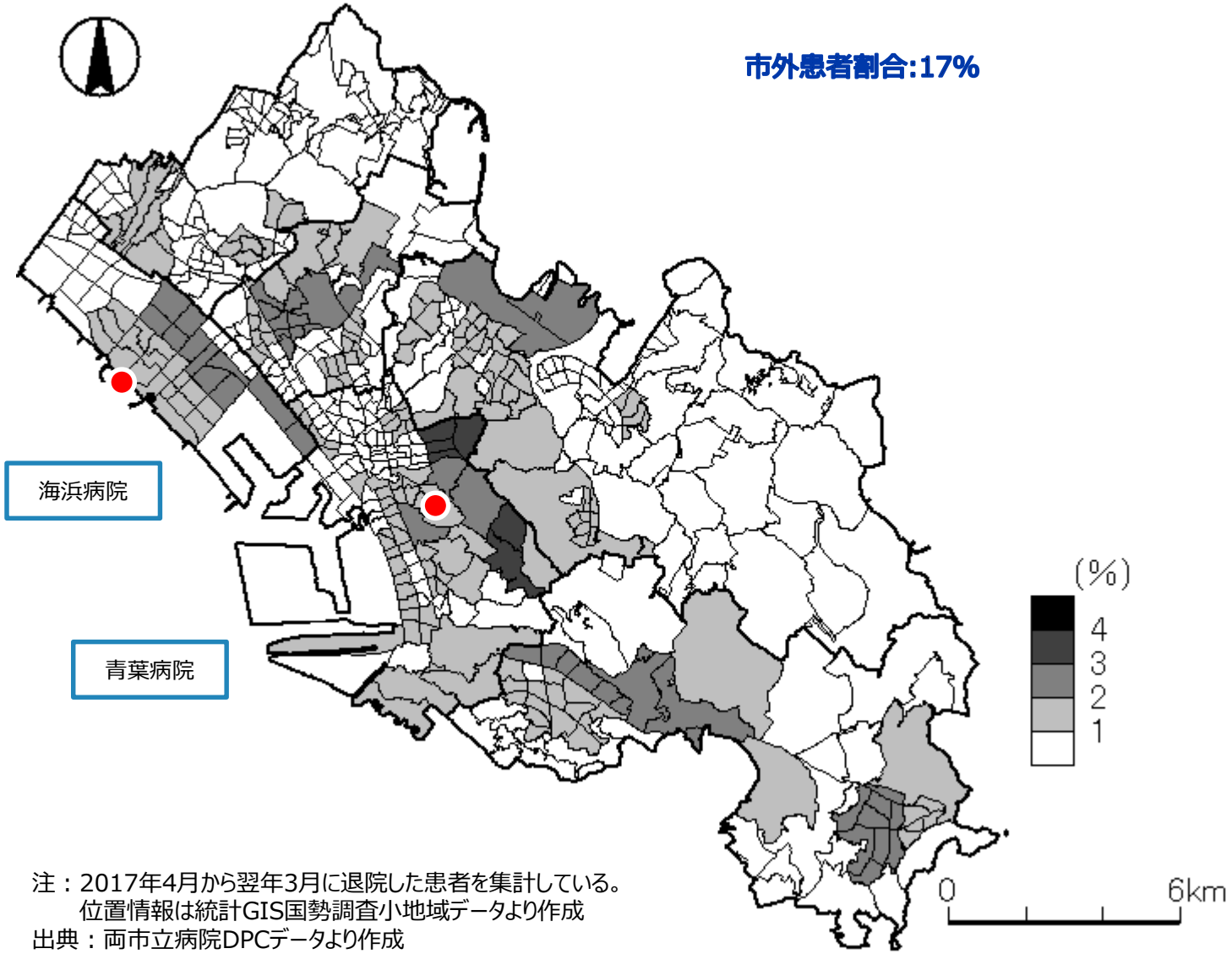


注：実入院患者数10人未満については「-」で表示している。
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 青葉 全入院患者

✓ 青葉病院の入院患者は、中央区からの患者が多いものの、市内全域から来ている状況にある。

◆入院患者の地区別構成割合（青葉）



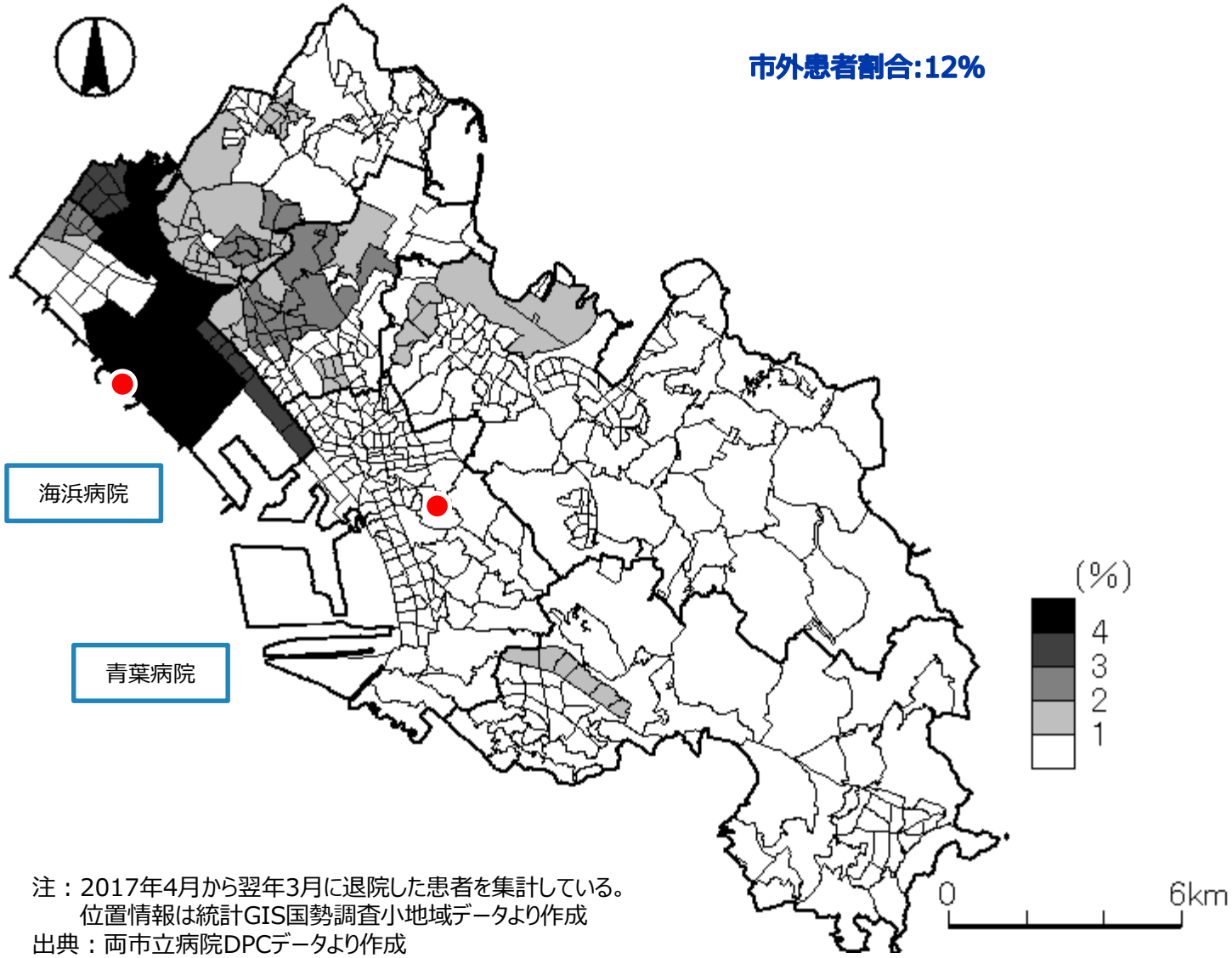
合計	6,849
中央区	2,169
花見川区	440
稲毛区	668
若葉区	920
緑区	890
美浜区	629
市外	1,133

注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。
　　位置情報は統計GIS国勢調査小地域データより作成
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 海浜 全入院患者

✓ 海浜病院の入院患者は、青葉病院と比較して、美浜区及び花見川区からの割合が高い状況にある。

◆入院患者の地区別構成割合（海浜）



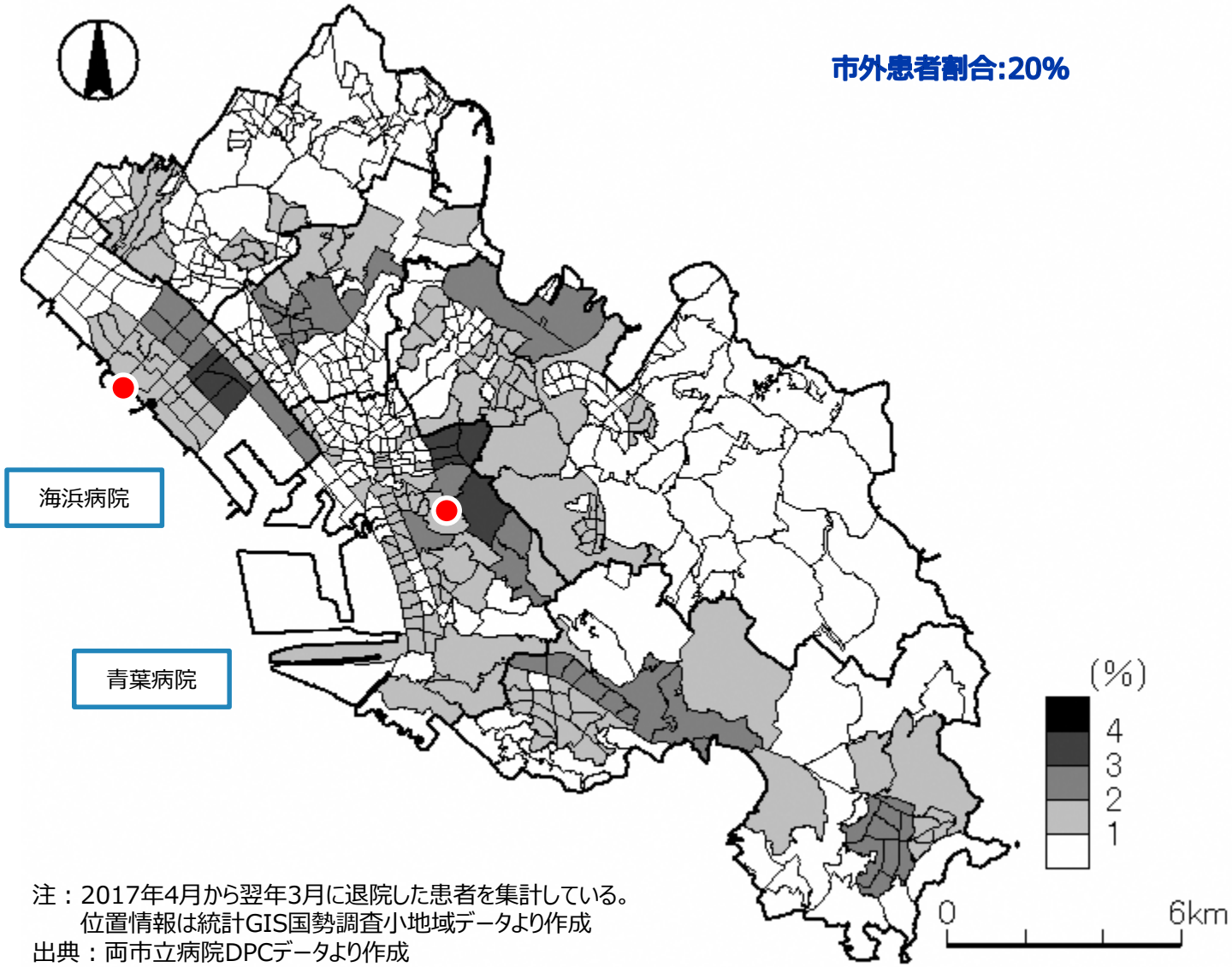
合計	7,414
中央区	503
花見川区	1,786
稲毛区	960
若葉区	318
緑区	191
美浜区	2,756
市外	900

注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。
　　位置情報は統計GIS国勢調査小地域データより作成
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 青葉 予定入院患者

✓ 青葉病院の予定入院患者は、中央区からの患者が多いものの、市内全域から来ている状況にある。

◆予定入院患者の地区別構成割合（青葉）



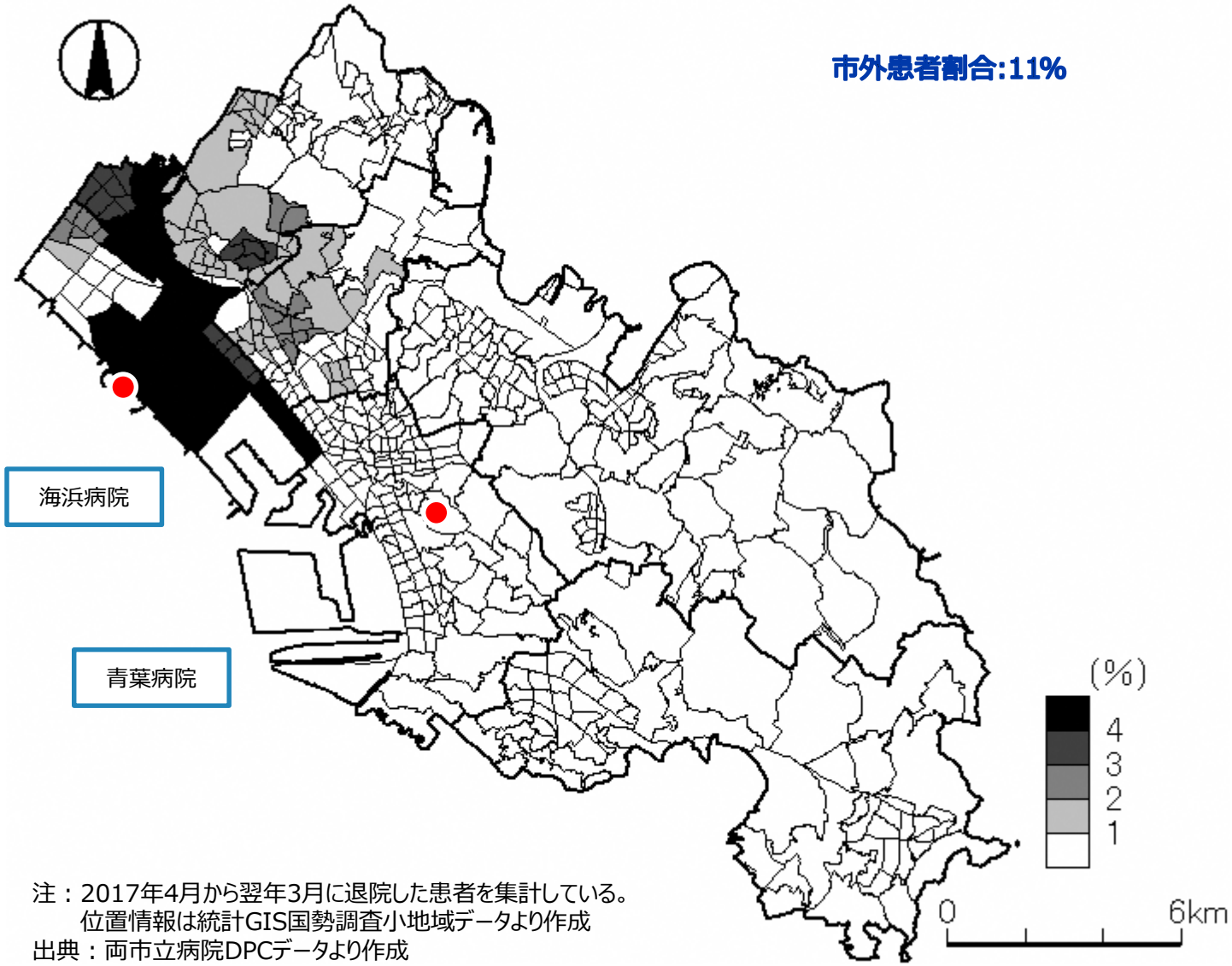
合計	3,436
中央区	1,034
花見川区	155
稲毛区	314
若葉区	484
緑区	467
美浜区	305
市外	677

注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。
　　位置情報は統計GIS国勢調査小地域データより作成
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 海浜 予定入院患者

✓ 海浜病院の予定入院患者は、青葉病院と比較して、美浜区及び花見川区からの割合が高い状況にある。

◆予定入院患者の地区別構成割合（海浜）



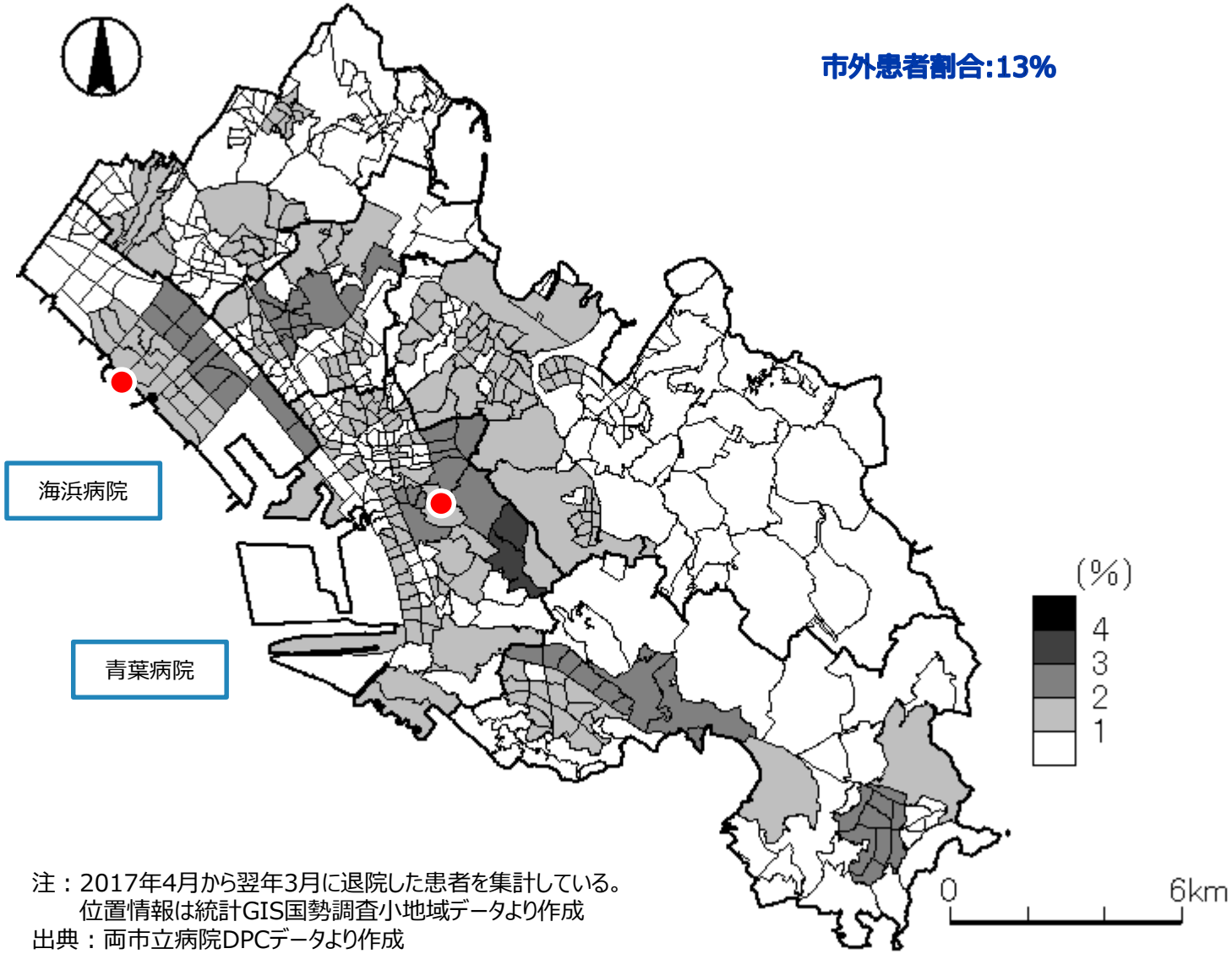
合計	3,526
中央区	155
花見川区	909
稲毛区	386
若葉区	72
緑区	54
美浜区	1,563
市外	387

注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。
　　位置情報は統計GIS国勢調査小地域データより作成
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 青葉 予定外入院患者

✓ 青葉病院の予定外入院患者は、中央区からの患者が多いものの、市内全域から来ている状況にある。

◆予定外入院患者の地区別構成割合（青葉）



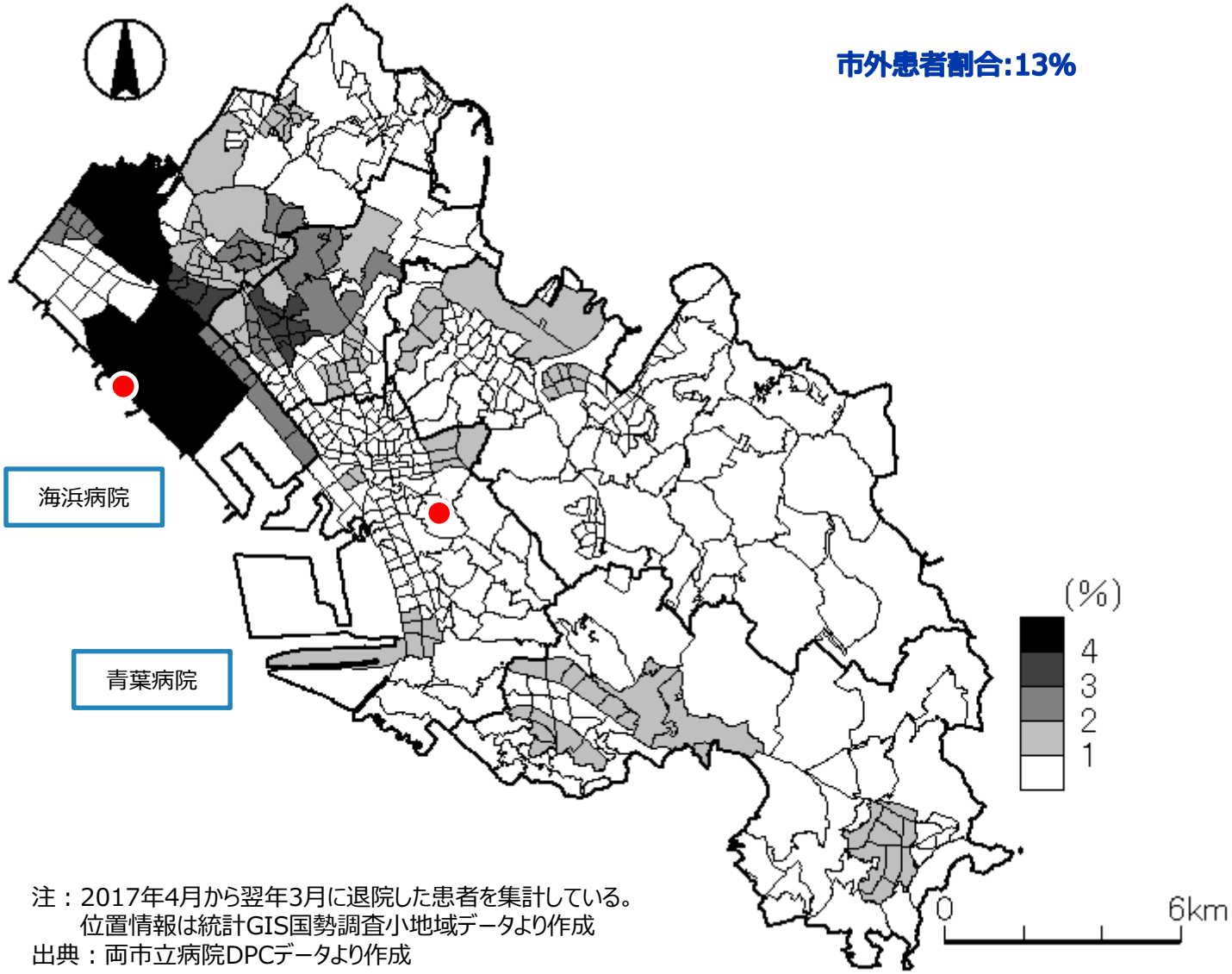
合計	3,406
中央区	1,133
花見川区	285
稲毛区	352
若葉区	435
緑区	422
美浜区	324
市外	455

注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。
　　位置情報は統計GIS国勢調査小地域データより作成
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 海浜 予定外入院患者

✓ 海浜病院の予定外入院患者は、青葉病院と比較して、美浜区及び花見川区からの割合が高い状況にある。

◆予定外入院患者の地区別構成割合（海浜）



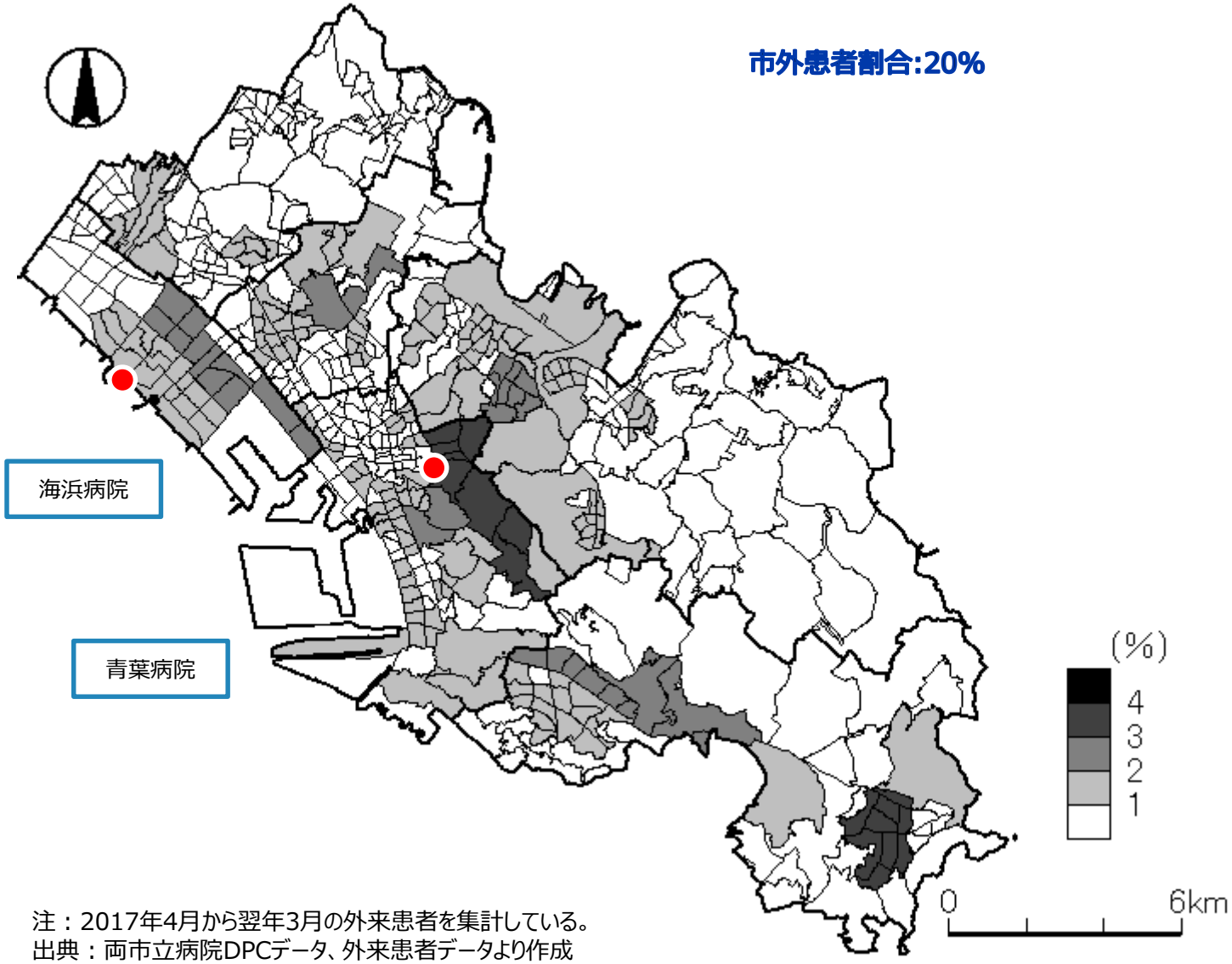
合計	3,888
中央区	348
花見川区	877
稲毛区	574
若葉区	246
緑区	137
美浜区	1,193
市外	513

注：2017年4月から翌年3月に退院した患者を集計している。
　　位置情報は統計GIS国勢調査小地域データより作成
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 青葉 外来患者

✓ 青葉病院の外来患者は、中央区からの患者が多いものの、市内全域から来ている状況にある。

◆外来患者の地区別構成割合（青葉）



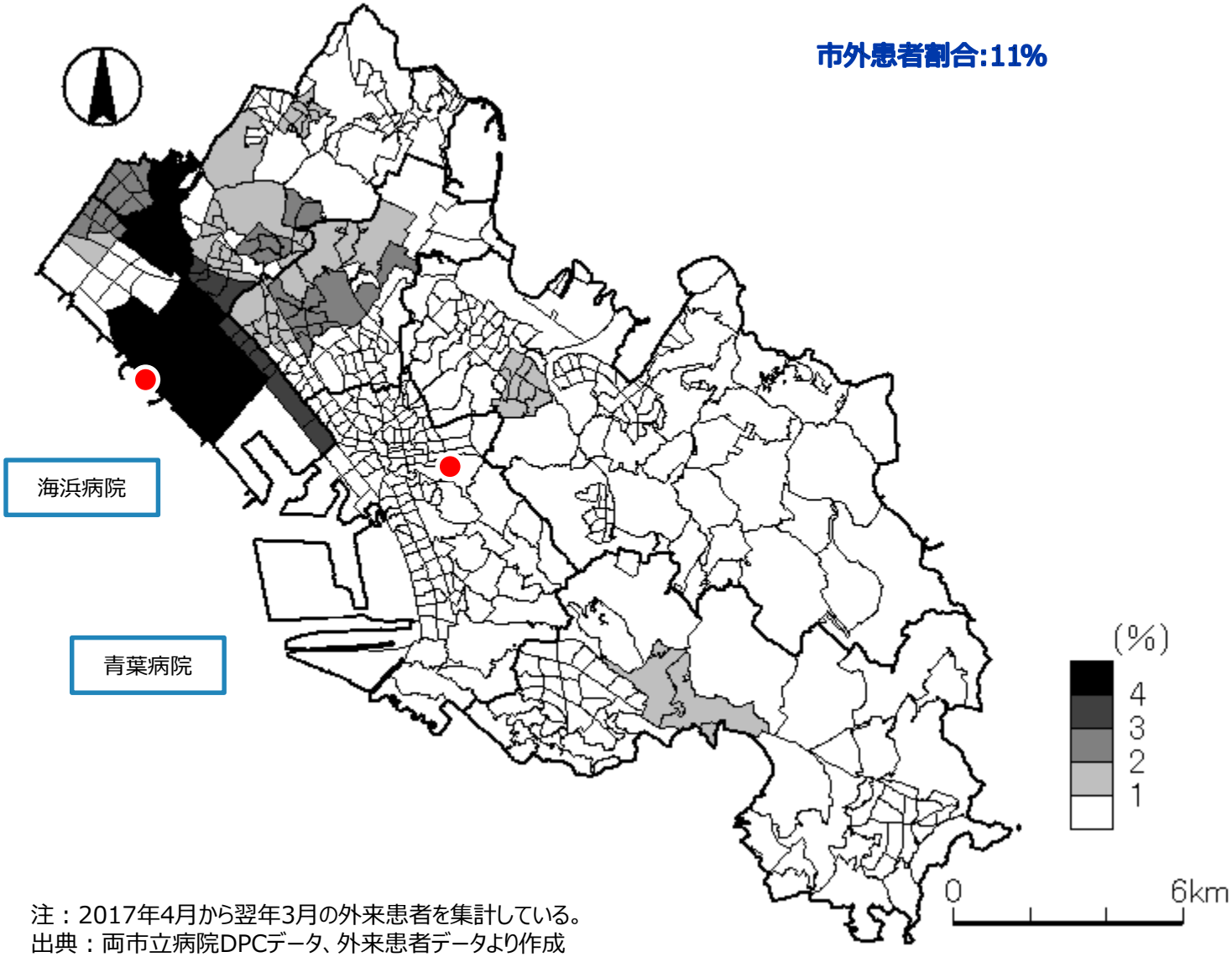
合計	165,785
中央区	56,819
花見川区	7,718
稲毛区	15,911
若葉区	21,987
緑区	19,798
美浜区	10,784
市外	32,768

注：2017年4月から翌年3月の外来患者を集計している。
出典：両市立病院DPCデータ、外来患者データより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 海浜 外来患者

✓ 海浜病院の外来患者は、青葉病院と比較して、美浜区及び花見川区からの割合が高い状況にある。

◆外来患者の地区別構成割合（海浜）



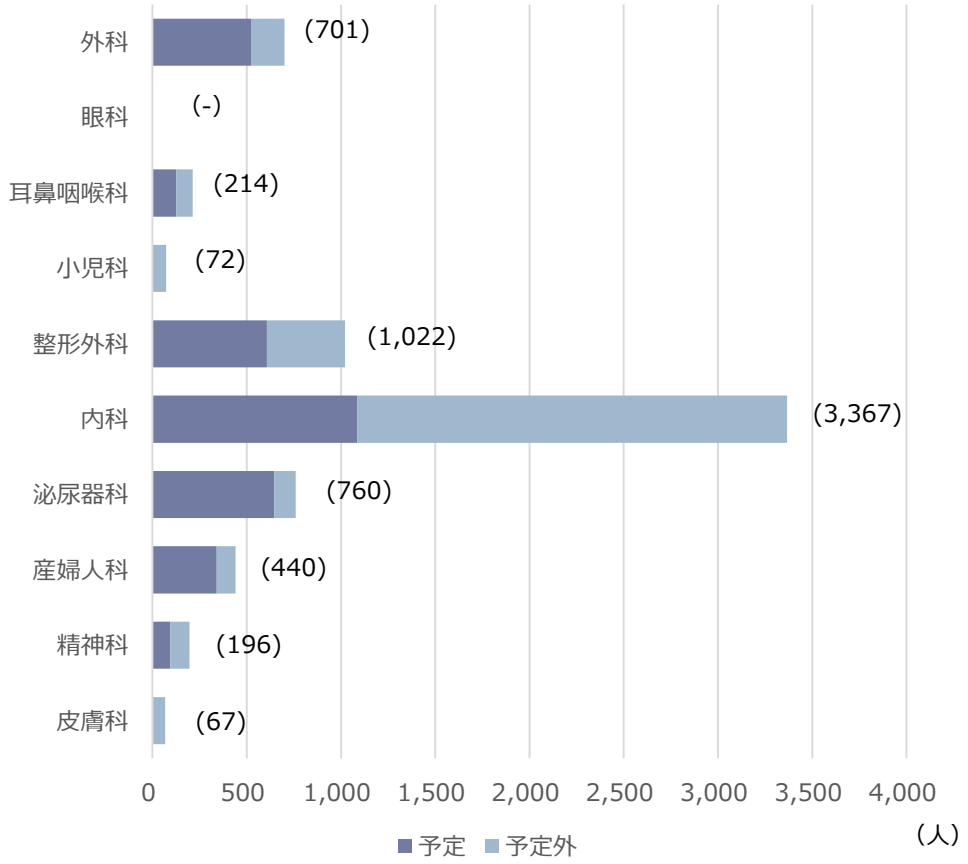
合計	125,992
中央区	8,796
花見川区	26,984
稲毛区	15,544
若葉区	4,943
緑区	3,551
美浜区	52,752
市外	13,422

注：2017年4月から翌年3月の外来患者を集計している。
出典：両市立病院DPCデータ、外来患者データより作成

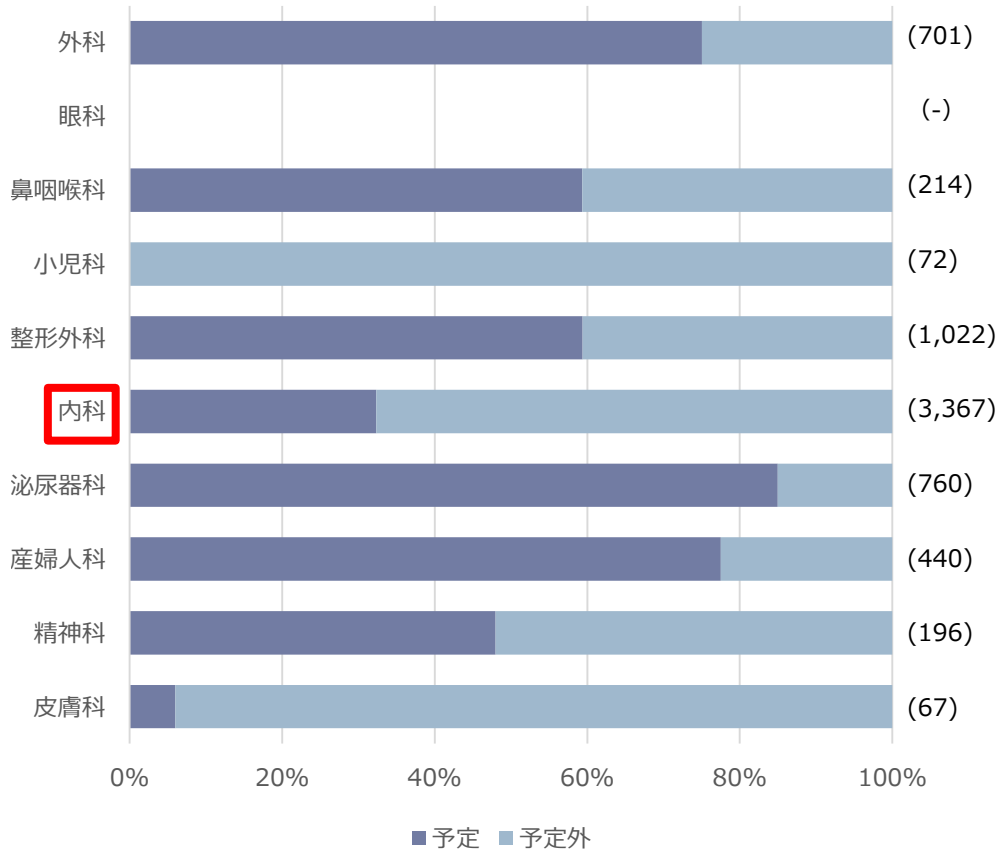
2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 青葉 入院予定内外割合

✓ 青葉病院の診療科としては、内科で特に予定外入院患者割合が高い傾向にある。

2017年度　診療科別・入院予定内外実患者数（青葉）



2017年度　診療科別・入院予定内外実患者数構成割合（青葉）

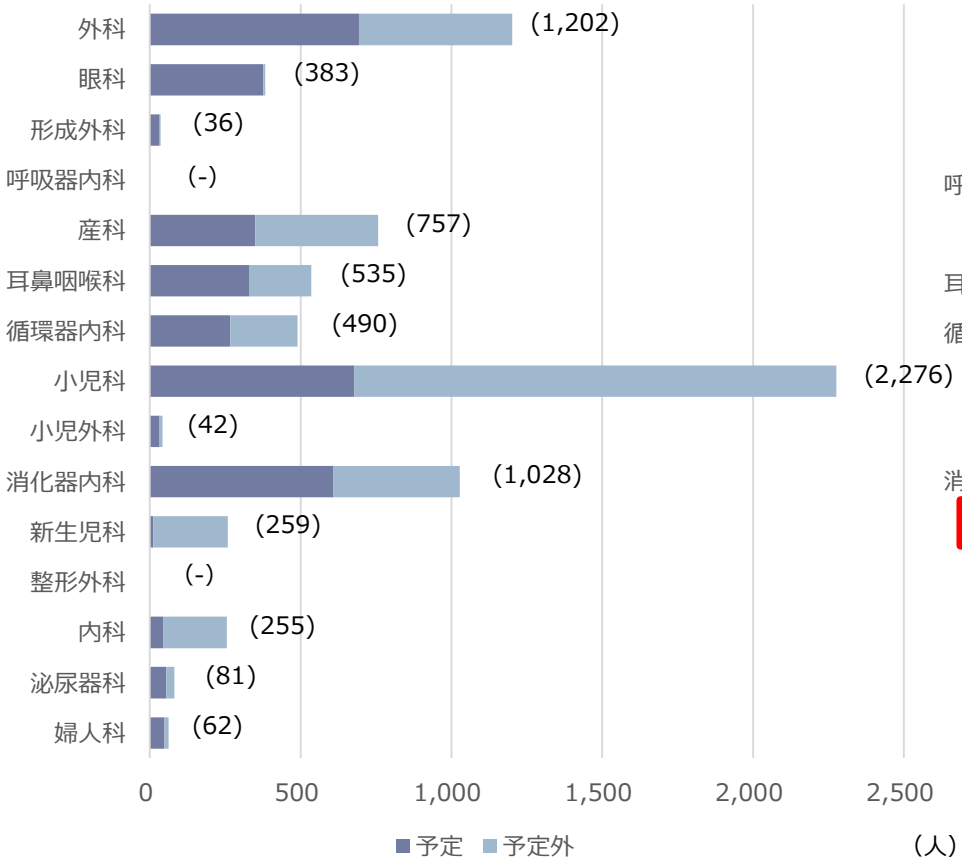


注：実入院患者数10人未満については「-」で表示している。
出典：両市立病院DPCデータより作成

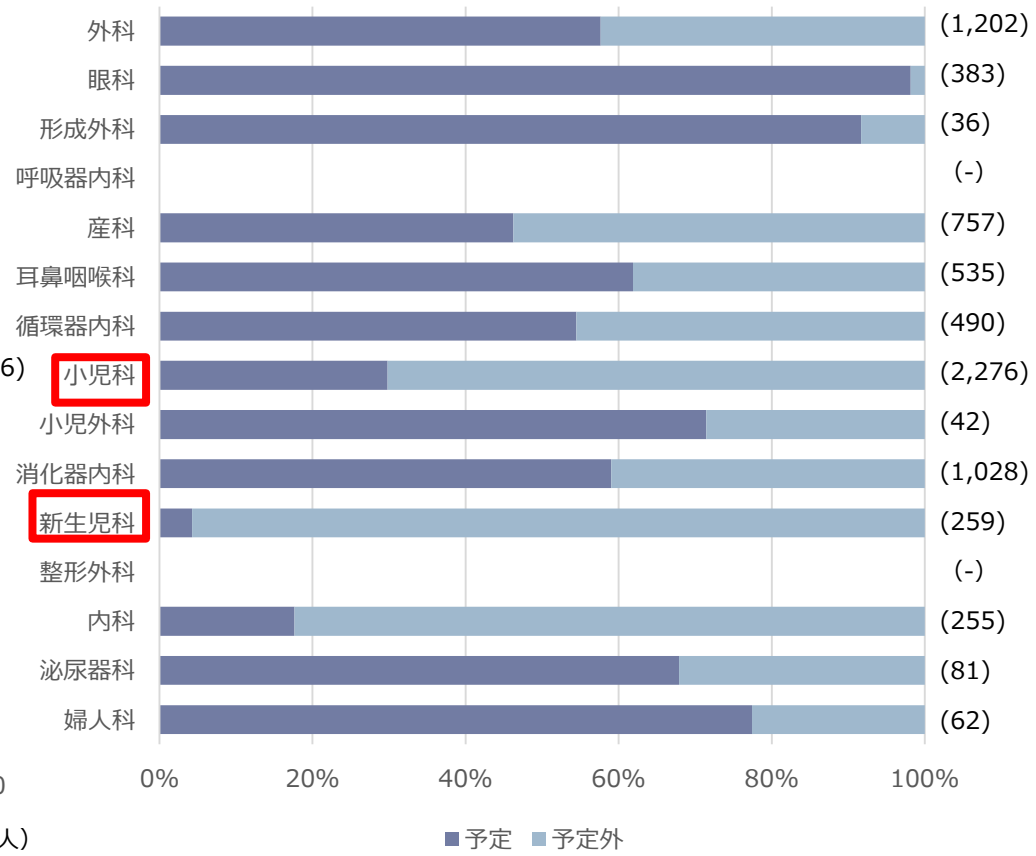
2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 海浜 入院予定内外割合

✓ 海浜病院の診療科としては小児科、新生児科で特に予定外入院患者割合が高い傾向にある。

2017年度　診療科別・入院予定内外実患者数（海浜）



2017年度　診療科別・入院予定内外実患者数構成割合（海浜）



注：実入院患者数10人未満については「-」で表示している。
出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　①DPCデータ分析 精神病床の稼働状況

- ✓ 青葉病院の精神病床の稼働率は60%台、1日平均患者数は最大40人程度で、病床数の最適化が必要である。
- ✓ また、個室化されていないなど構造的な理由で入院が必要な患者を受け入れられないケースもある。
- ✓ 他病院と比較しても、病床数が過剰な可能性もあり、病床数の見直しを検討する必要がある。

青葉病院　2017年度　成人精神病棟　１日平均入院患者数

	2017/04	2017/05	2017/06	2017/07	2017/08	2017/09	2017/10	2017/11	2017/12	2018/01	2018/02	2018/03	総計
市内	12.0	9.5	13.6	10.5	12.8	10.5	12.3	14.9	13.0	13.1	13.0	8.3	**11.9**
市外	4.2	3.5	3.5	6.5	6.8	5.7	4.9	4.8	5.3	5.4	6.3	2.5	**4.9**
総計（A）	**16.1**	**13.0**	**17.1**	**17.0**	**19.5**	**16.3**	**17.2**	**19.7**	**18.3**	**18.5**	**19.3**	**10.7**	**16.9**
許可病床数（B）	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
稼働率（A/B）	57.6%	46.4%	61.2%	60.8%	69.8%	58.1%	61.4%	70.5%	65.3%	66.0%	68.8%	38.2%	60.3%
稼働病床数（C）	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
稼働率（A/C）	64.5%	52.0%	68.5%	68.1%	78.2%	65.1%	68.8%	78.9%	73.2%	73.9%	77.0%	42.8%	67.5%

青葉病院　2017年度　児童･思春期病棟　１日平均入院患者数

	2017/04	2017/05	2017/06	2017/07	2017/08	2017/09	2017/10	2017/11	2017/12	2018/01	2018/02	2018/03	総計
市内	2.8	2.4	2.8	3.7	4.2	6.2	6.2	6.6	4.0	2.0	2.0	1.2	**3.7**
市外	11.4	10.6	11.9	13.5	11.7	9.7	6.5	7.0	6.0	4.6	3.9	2.3	**8.3**
総計（A）	**14.2**	**12.9**	**14.6**	**17.2**	**15.9**	**16.0**	**12.6**	**13.6**	**9.9**	**6.6**	**5.9**	**3.5**	**11.9**
許可病床数（B）	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
稼働率（A/B）	44.3%	40.4%	45.7%	53.7%	49.6%	49.9%	39.5%	42.6%	31.0%	20.7%	18.3%	11.1%	37.3%
稼働病床数（C）	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
稼働率（A/C）	54.5%	49.8%	56.3%	66.1%	61.0%	61.4%	48.6%	52.4%	38.2%	25.4%	22.5%	13.6%	45.9%

出典：両市立病院DPCデータより作成

2. 市立病院の現状と課題　（１）診療状況分析　②感染症病床の稼働状況

✓ 青葉病院の感染症病床の2017年度稼働率はほとんどの月で10%以下となっており、2017年度に感染症病床に入院した中で、実際に感染症の指定を受けた患者はいなかった。

青葉病院　2017年度　感染症病床　月別１日平均患者数

	2017/04	2017/05	2017/06	2017/07	2017/08	2017/09	2017/10	2017/11	2017/12	2018/01	2018/02	2018/03
延患者数	6	1	0	4	3	18	0	0	0	0	6	2
1日患者数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
許可病床数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
稼働率	3.3%	0.5%	0.0%	2.2%	1.6%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	1.1%

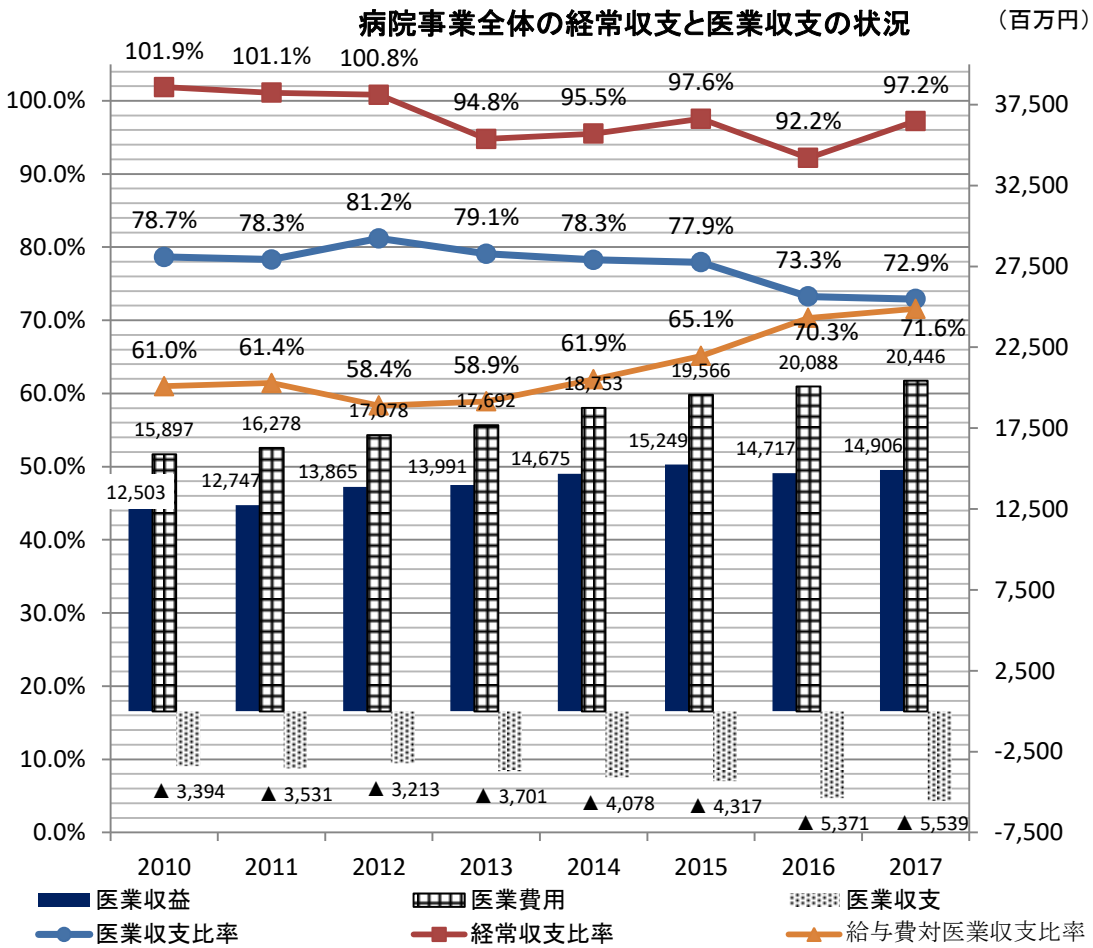
青葉病院　年度別　感染症病床稼働状況

	2015	2016	2017
延患者数	130	40	40
許可病床数	6	6	6
稼働率	5.4%	1.8%	1.8%

出典：青葉病院受領資料より作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　①主要経営指標の推移

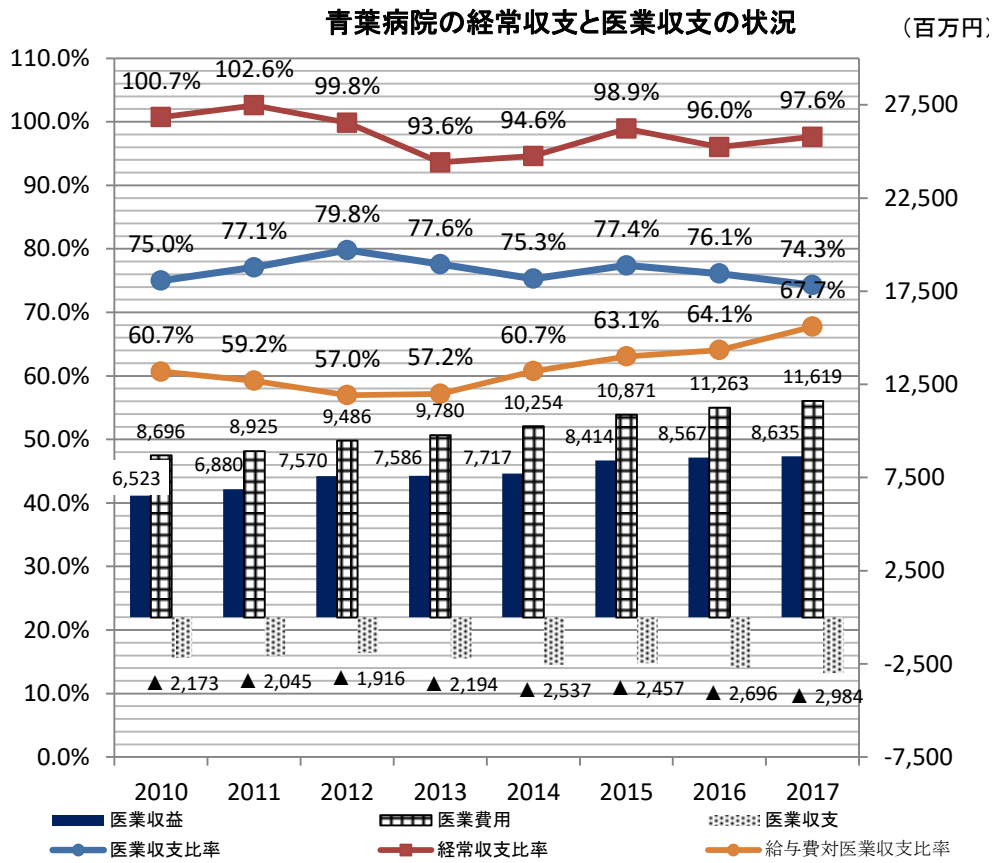
✓ 両市立病院は2010年度以降一貫して医業費用は増加傾向にある。費用増加の主要因としては、給与費の増加が原因となっており、医業収益に対する比率も一貫して増加傾向となっている。

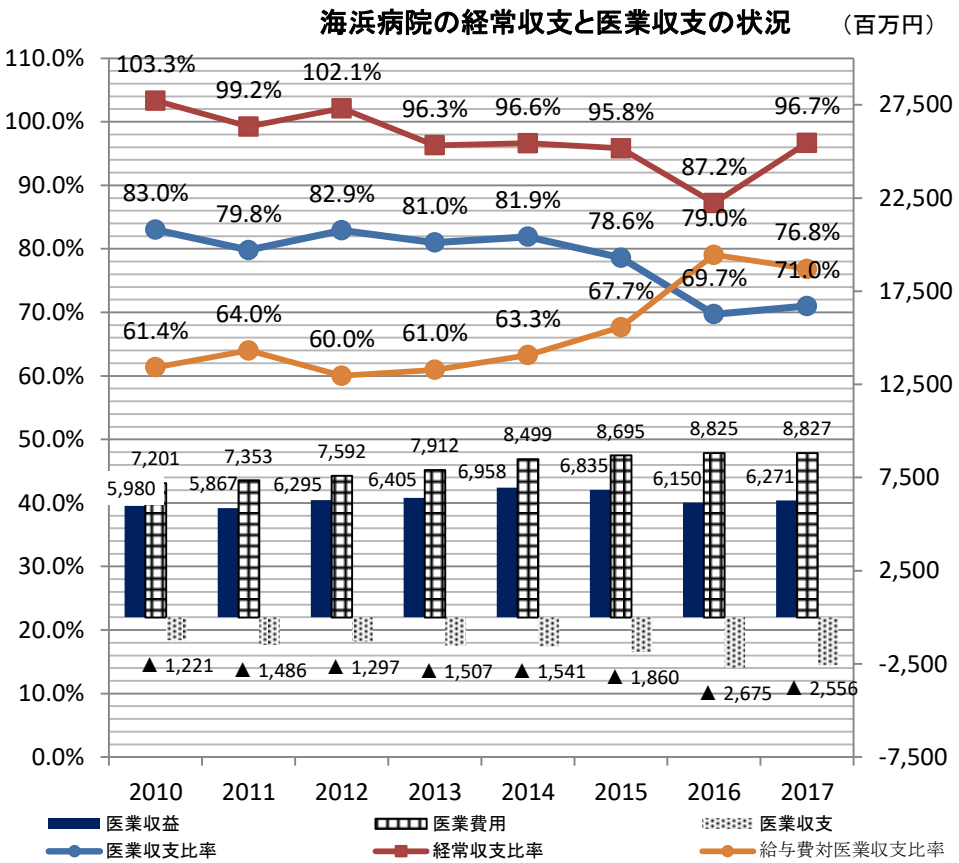


出典：千葉市病院事業決算データより作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　①主要経営指標の推移

✓ 両市立病院は2010年度以降一貫して医業費用は増加傾向にある。給与費対医業収支比率は特に海浜病院で近年増加傾向にある。

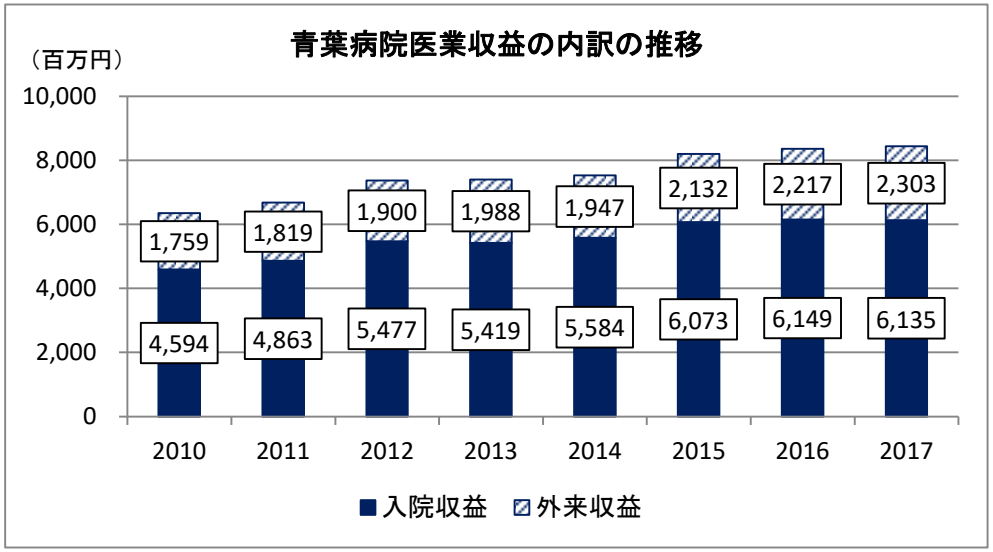


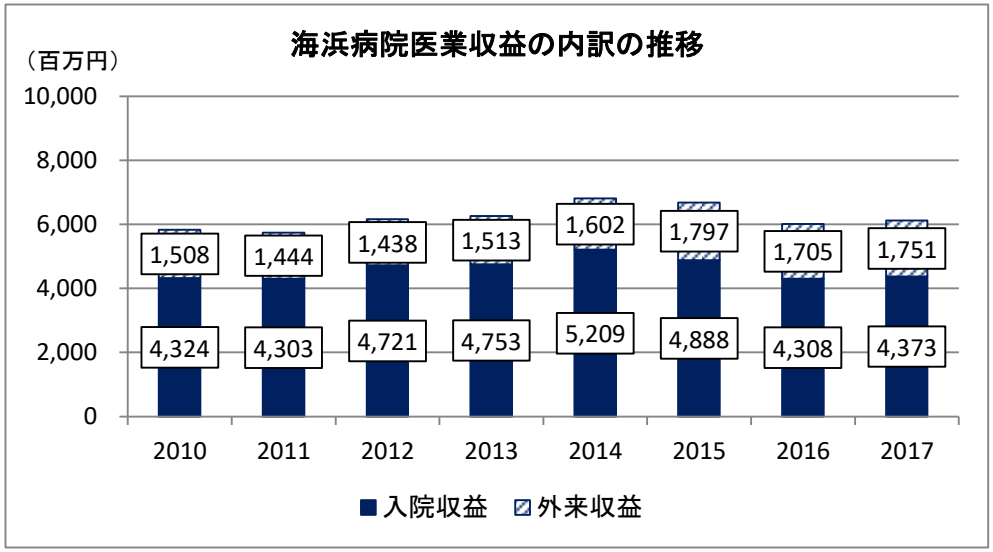


出典：千葉市病院事業決算データより作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　①主要経営指標の推移

✓ 青葉病院の医業収益は2015年以降増加傾向にある。海浜病院は2016年度に入院収益が一度落ち込み、その後増加している。

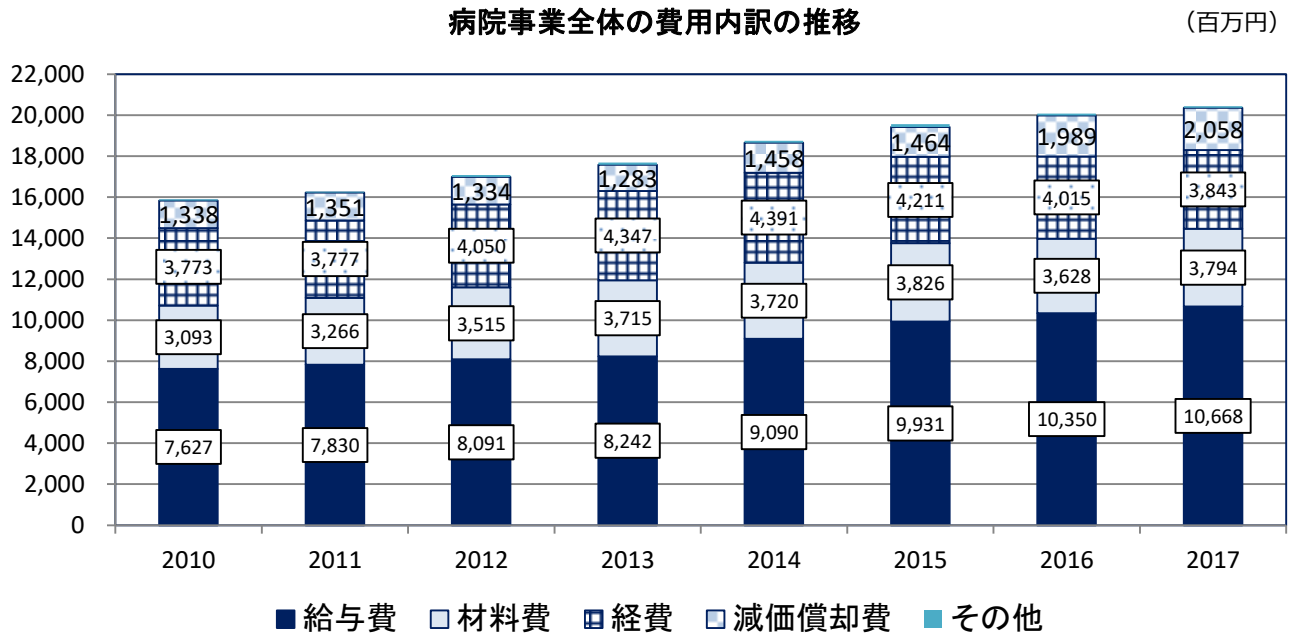


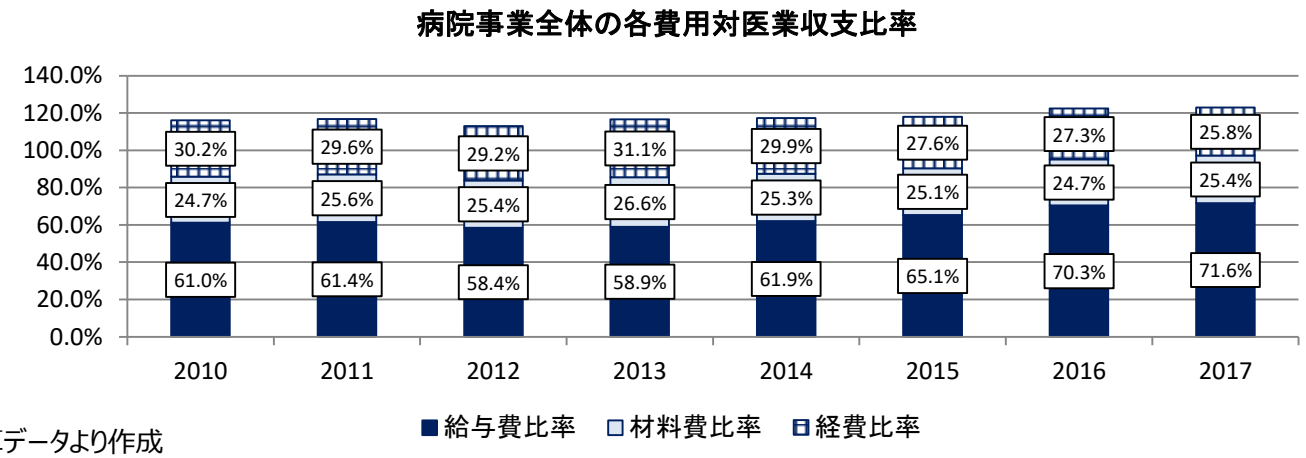


出典：千葉市病院事業決算データより作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　①主要経営指標の推移

✓ 両市立病院の費用増加の主要因としては、給与費の増加が原因となっており、医業収益に対する比率も一貫して増加傾向にある。



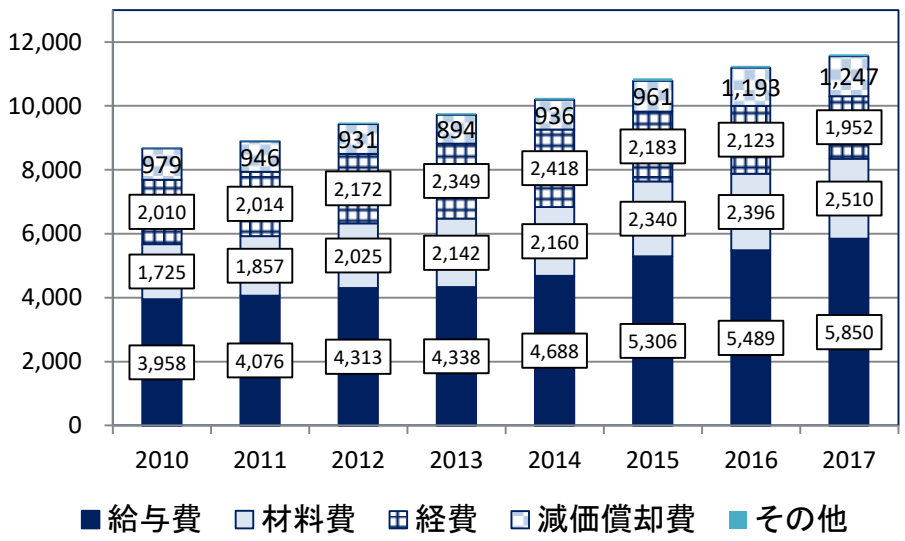


出典：千葉市病院事業決算データより作成

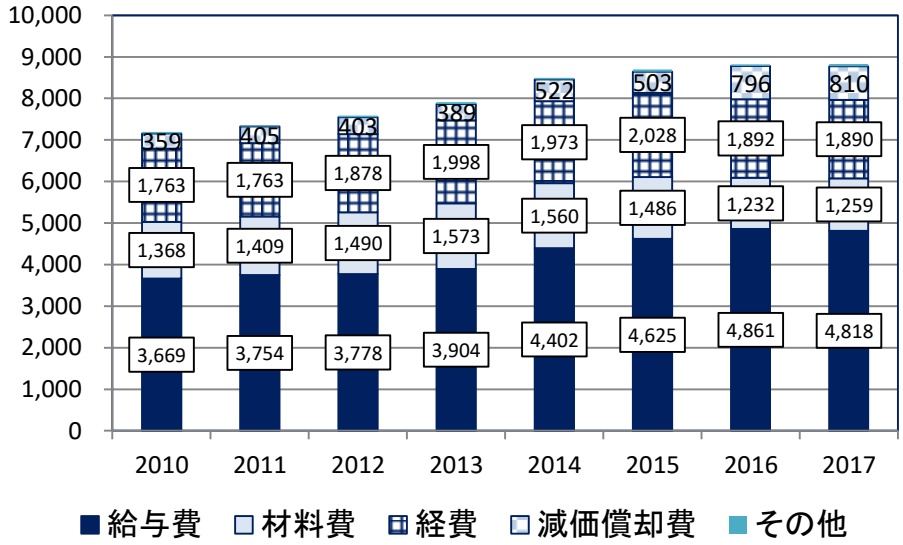
2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　①主要経営指標の推移

✓ 両市立病院ともに、給与費は一貫して増加傾向にある。材料費は海浜病院で減少傾向にあり、経費は両病院ともに減少している。

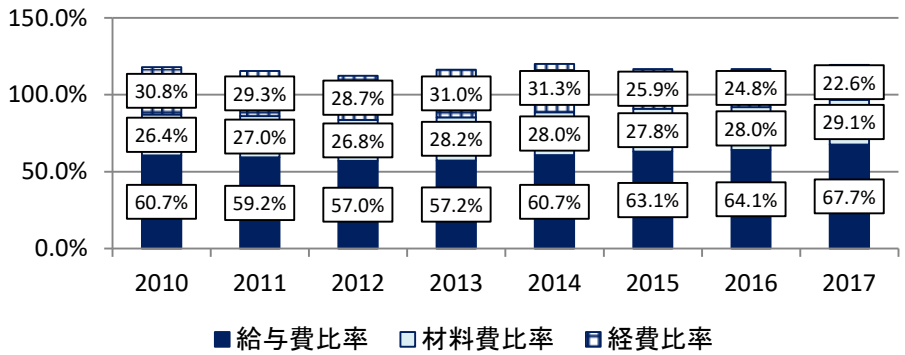
青葉病院の費用内訳の推移　（百万円）



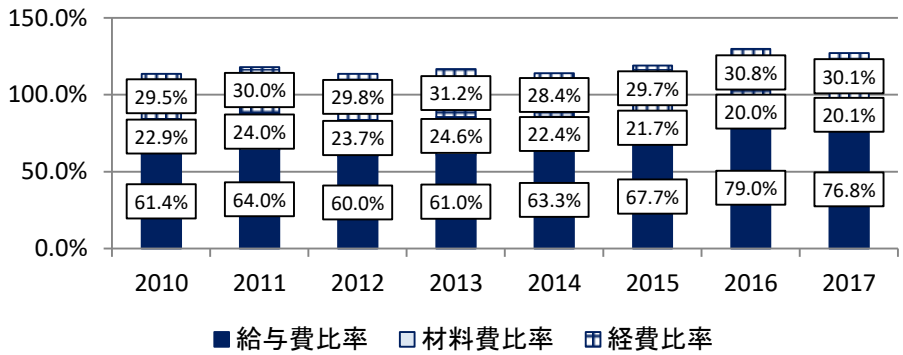
海浜病院の費用内訳の推移　（百万円）



青葉病院の各費用対医業収支比率



海浜病院の各費用対医業収支比率



出典：千葉市病院事業決算データより作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　②他病院とのベンチマーク比較

✓ 両市立病院とも、ベンチマーク病院等他の公立病院と比較して、修正医業収支比率は低い状況にある。費用については、給与比率・経費比率ともに高い傾向にある。

◇財務状況ベンチマーク分析

	青葉病院	海浜病院	公営企業年鑑ベンチマーク平均
病床数			
総病床数	380	287	405.4
一般病床	314	287	381.9
医業収益（千円）			
医業収益	9,034,704	6,503,192	9,160,497
うち入院収益	6,148,955	4,308,264	5,960,052
うち外来収益	2,215,597	1,704,062	2,662,357
うち他会計負担金	481,098	357,762	250,211
修正医業収益	8,553,606	6,145,430	8,914,002
医業費用（千円）			
医業費用	10,923,933	8,591,342	9,891,082
うち職員給与費	5,484,209	4,857,313	4,926,729
うち材料費	2,217,520	1,140,774	2,269,887
うち経費	1,970,466	1,756,709	1,857,552
修正医業費用	9,718,539	7,789,122	9,093,765
修正医業収支（千円）			
修正医業収支	-1,164,933	-1,643,692	-179,762
修正医業収支比率	88.0%	78.9%	96.6%
対修正医業収益比率			
給与比率	64.1%	79.0%	57.9%
経費比率	23.0%	28.6%	22.4%
職員１人１日当たり診療収入（円）			
医師	258,038	236,287	312,333
看護部門	61,131	46,081	60,080

	独立行政法人ベンチマーク平均
病床数	
総病床数	455.1
一般病床	441.0
営業収益（千円）	
営業収益	14,183,006
うち入院収益	8,959,614
うち外来収益	3,477,875
うち運営費負担金等収益	1,088,627
修正医業収益	13,094,378
費用（千円）	
営業費用	13,820,792
うち職員給与費	6,760,157
うち材料費	3,592,108
うち経費	2,270,707
修正医業費用	12,676,498
修正医業収支（千円）	
修正医業収支	417,881
修正医業収支比率	103.5%
対修正医業収益比率	
給与比率	53.7%
経費比率	17.4%
職員１人１日当たり診療収入（円）	
医師	283,172
看護部門	67,088

公営企業年鑑ベンチマーク抽出条件：一般病床200床以上で県立病院・不採算地区立地病院を除いた202病院
地方独立行政法人ベンチマーク抽出条件：一般病床200床以上で県立病院・不採算地区立地・統合により独法化した病院を除いた26病院
修正医業収益＝医業収益-他会計負担金、修正医業費用＝医業費用-（減価償却費＋資産減耗費）
※地方独立行政法人については、医業収益、医業費用、他会計負担金を営業収益、営業費用、運営費負担金等収益に読み替え
出典：総務省「2016年度公営企業年鑑」、「2016年度病院経営分析比較表」より作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　②他病院とのベンチマーク比較

✓ 医師も含めて上回っている部門がある。特にNICUを有する海浜病院において、病床100床当たり職員数が多い状況にある。

◇職員数ベンチマーク分析

	青葉病院	海浜病院	公営企業年鑑ベンチマーク平均	独立行政法人ベンチマーク平均
病床100床当たり職員数（人）				
全職員	151.3	180.1	155.6	176.8
医師	20	23	18.6	24.5
看護部門	91.1	116.7	93.0	104.5
薬剤部門	5.5	5.9	4.6	5.2
事務部門	13.7	14.6	14.3	16.7
給食部門	1.6	1.7	2.6	1.9
放射線部門	4.7	5.2	4.4	4.8
臨床検査部門	6.1	7.7	5.8	6.5
その他部門	8.7	5.2	12.4	13.1

公営企業年鑑ベンチマーク抽出条件：一般病床200床以上で県立病院・不採算地区立地病院を除いた202病院
地方独立行政法人ベンチマーク抽出条件：一般病床200床以上で県立病院・不採算地区立地・統合により独法化した病院を除いた26病院

出典：総務省「2016年度公営企業年鑑」、「2016年度病院経営分析比較表」より作成

2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　②他病院とのベンチマーク比較

✓　一人当たり給与費は、ベンチマーク病院等他の公立病院と比較して、高くない。

◇職員給与費ベンチマーク分析

	青葉病院	海浜病院	公営企業年鑑ベンチマーク平均	独立行政法人ベンチマーク平均値
事務職員				
給与計	481,006	506,195	509,098	518,093
基本給	309,223	328,435	329,644	-
手当	171,784	177,759	179,454	-
平均年齢（歳）	39	41	42	42
平均経験年数（年）	13	15	17	-
医師				
給与計	1,327,520	1,215,550	1,402,385	1,323,040
基本給	573,119	564,860	561,834	-
手当	754,401	650,690	840,551	-
平均年齢（歳）	43	43	45	45
平均経験年数（年）	16	16	16	-
看護師				
給与計	469,938	449,931	461,974	470,672
基本給	300,943	296,147	289,899	-
手当	168,995	153,784	172,075	-
平均年齢（歳）	36	37	39	38
平均経験年数（年）	12	13	14	-
医療技術員				
給与計	481,705	525,386	474,701	486,788
基本給	324,865	343,158	301,100	-
手当	156,840	182,229	173,602	-
平均年齢（歳）	35	39	39	39
平均経験年数（年）	12	14	15	-

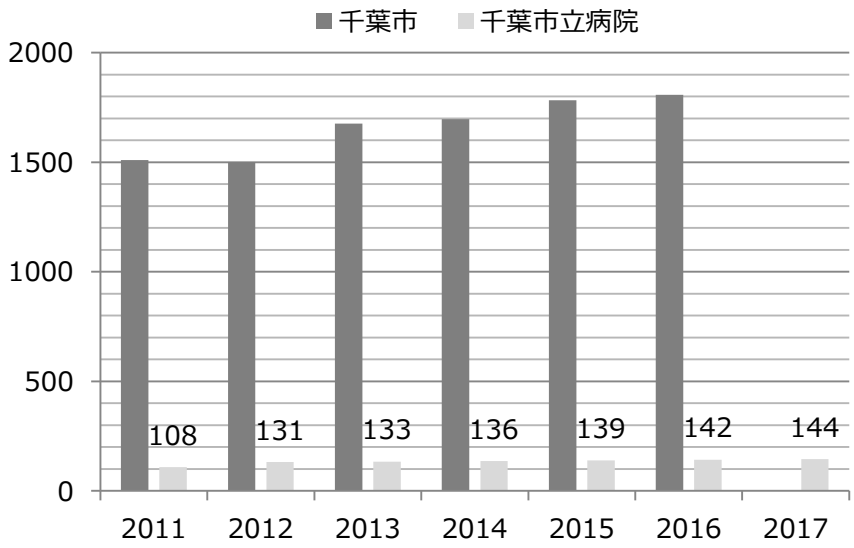
公営企業年鑑ベンチマーク抽出条件：一般病床200床以上で県立病院・不採算地区立地病院を除いた202病院
地方独立行政法人ベンチマーク抽出条件：一般病床200床以上で県立病院・不採算地区立地・統合により独法化した病院を除いた26病院

出典：総務省「2016年度公営企業年鑑」、「2016年度病院経営分析比較表」より作成

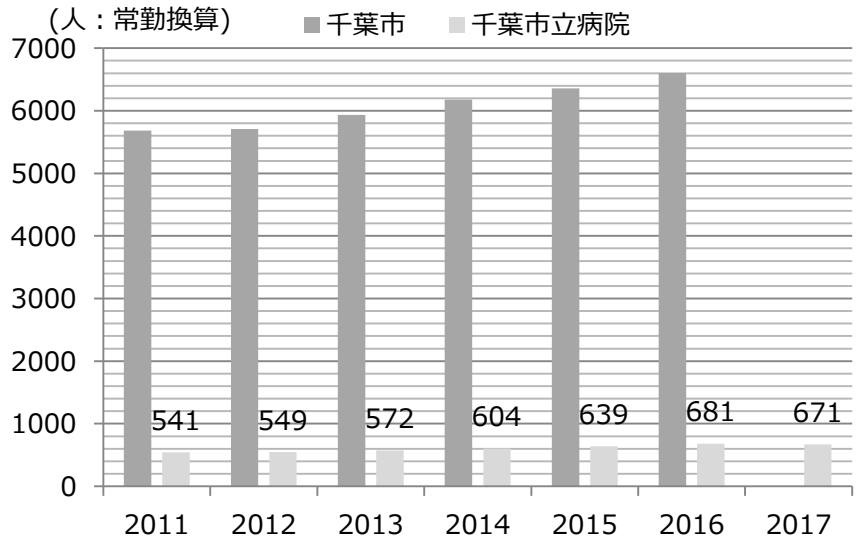
2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　③市立病院の職員数の状況

- ✓ 千葉市では、病院勤務医師数、看護職員数ともに年々増加傾向にある。千葉市立病院においても同様の傾向にあるが、看護職員数は大幅に増加している(2017年度対2011年度増減＋130人)。
- ✓ 千葉市立病院の職員数は全ての職種において総じて大幅な増加がみられる。

◆千葉市及び千葉市立病院の病院勤務医師数の推移

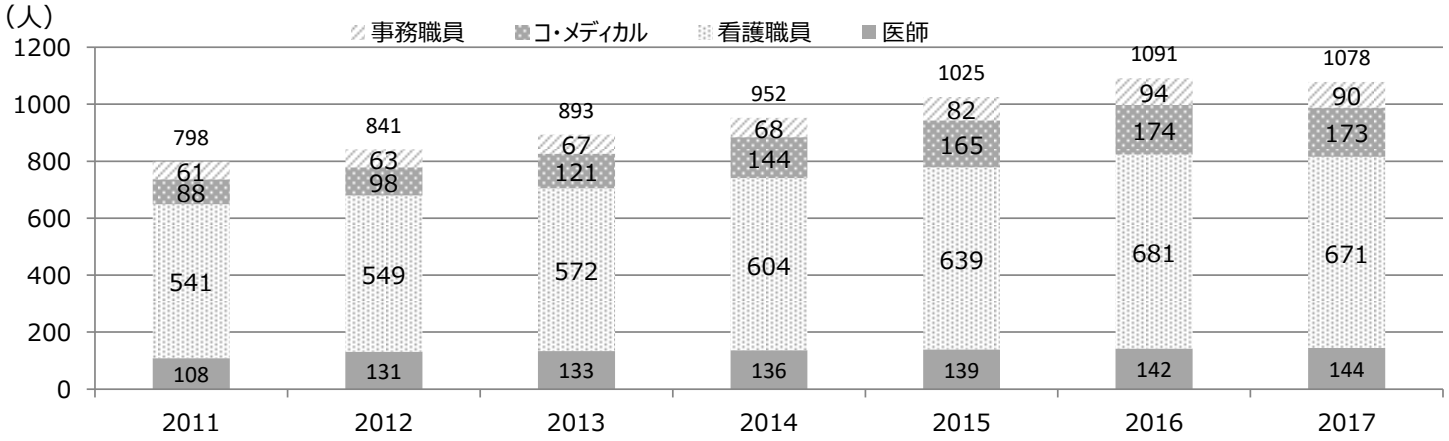


◆千葉市及び千葉市立病院の病院勤務看護職員数の推移



出典：千葉県「衛生年報」（2016年）、病院年報

◆千葉市立病院の職種別職員数の推移



2. 市立病院の現状と課題　（２）財務分析　④各経営形態の概要

✓ 各経営形態の特徴は以下となっている。

区分	地方公営企業法（一部適用）	地方公営企業法（全部適用）	地方独立行政法人（公営企業型）	指定管理者	民間譲渡
設立団体	地方公共団体	地方公共団体	地方公共団体	地方公共団体	医療法人等
管理責任者	地方公共団体の長	事業管理者	理事長(法人の長)	指定管理者	医療法人等の長
政策医療の確保	地方公共団体の一部として実施	地方公共団体の一部として実施	地方公共団体の中期目標に基づき実施	地方公共団体との協定による	譲渡条件の協議による
一般会計からの繰入	負担金、補助金として繰入可能	負担金、補助金として繰入可能	必要な金額の一部または全額を交付	負担金等として交付	原則なし
職員の定数	条例で規定（定数上限あり）	条例で規定（定数上限あり）	中期計画の範囲内で設定可能	条例等による制限は特段ない	条例等による制限は特段ない
職員の身分・処遇	地方公務員（自治体職員）	地方公務員としての身分が維持（企業職員）	法人職員に変更	民間労働者に変更	民間労働者に変更
長期資金調達	起債が活用できる	起債が活用できる	設立団体から借入	独自に資金調達	独自に資金調達
病院数	347病院 ※1 (2016年度)	369病院 ※1 (2016年度)	88病院 ※2 (2016年度)	76病院 ※1 (2016年度)	5病院※1（2012~2016年度までの譲渡数）

出典：総務省「2016年度地方公営企業決算の概況（※1）」「2016年度 病院事業決算状況(地方独立行政法人)（※2）」より作成

2. 市立病院の現状と課題　（3）千葉市病院事業のSWOT分析による整理

Strength　強み

- 青葉病院では血液系、外傷系、腎・尿路系、筋骨格系疾患の医療圏シェアが高い。
- 海浜病院では、皮膚系（小児の食物アレルギー）、小児系、耳鼻咽喉科系、新生児系疾患のシェアが高い。
- がんでは、青葉病院は急性白血病や腎盂・尿管・膀胱等、海浜病院は胃・大腸について受け入れ患者が多い。
- 糖尿病では、二型糖尿病について青葉病院の受け入れ患者が多い。
- 小児救急医療は夜急診と連携しER型の受け入れ体制を取っており、多くの小児救急患者を受け入れている。
- 青葉病院は精神身体合併症への対応のほか、全国でも数少ない児童・思春期病棟を設けている。

Weakness　弱み

- 開設から30年以上経過した海浜病院の老朽化。
- 人的投資・設備投資に応じた医業収益を確保できずに５年連続赤字。
- 手術が必要な疾患のシェアは低く、消化器系は両市立病院も含め多くの病院で手術を実施している。神経系疾患の手術については両市立病院ではほぼ行っていない状況。
- 脳梗塞等の処置を伴う疾患については、民間医療法人や千葉大学医学部附属病院等で件数が多い状況にある。
- 救急医療の面で、循環器系や神経系疾患の緊急対応について、体制が十分でない。
- 青葉病院の精神病床は個室化されていないなど構造的な理由で必要な患者を受け入れられないケースも生じており、稼働率が低い。
- ベンチマーク病院と比較して、修正医業収支比率は低い水準にある。
- ベンチマーク病院と比較して、修正医業収益に対する職員給与費比率、経費比率が高い水準にある。
- ベンチマーク病院と比較して100床当たり職員数は多い状況にある。

Opportunity　機会

- 地域医療構想では回復期の病床が不足する見込み。
- 2030年まで患者数が増加する。特に循環器系や呼吸器系が増加。
- 入院患者は医療圏へ流入傾向にあり、特に、消化器系、新生児、腎・尿路の流入患者が多い。
- 市外流出率は全体として高くないものの、花見川区、美浜区は比較的高い。
- 救急搬送は近年増加傾向にあり、今後も呼吸器系や循環器系を中心に大きく増加する見込み。
- 準夜・深夜になるにつれ救急搬送先の両市立病院のシェアが高くなっている。
- 在宅医療等の需要は2035年まで増加が見込まれている。
- 両病院とも80%以上が市内の患者であり、青葉病院は所在地のある中央区からの来院が比較的高いものの市内全域から来院される一方、海浜病院は近隣から来院される傾向が強い。
- 青葉病院の精神科及び泌尿器科は市外からの患者が多い。
- 海浜病院の新生児科及び産科は市外からの患者が多い。

Threat　脅威

- 開設から15年経過した青葉病院も今後10年以内に大規模改修の検討が必要になる。
- 急性期病床の重症度評価の厳格化が進んでいる。
- 地域医療構想では急性期の病床が過剰とされている。
- 人口当たりの医師数は県平均を大きく上回り全国平均をも上回っている。
- 青葉病院の位置する中央区には急性期の基幹施設が集中している。
- 急性期病院の再整備や回復期病床の整備が近年進んでいる。
- 呼吸器系や循環器系、消化器系など需要の多い疾患のうち手術の必要がないものは、多くの病院が対応している。